大正十四年九月十五日印刷
大正十四年九月十八日發行　（一―五〇〇）

編者　荒木幸太郎　阪急沿線箕面百樂莊五四

印刷者　岡本省三　大阪市南區鰻谷仲之町三九

發行所　蟹行學社　大阪府豐能郡箕面牧落百樂莊五四

八十二　唐船入津圖　大阪　橘野松惠氏藏
八十三　阿蘭陀船と風景　大阪　上野精一氏藏

ト　鏝繪泥繪其他

泥畵は胡粉繪と稱したもので、多くは天保以降のものである。

八十四　横濱港の圖　泥繪　大阪　森川喜助氏藏
八十五　大名屋敷圖　泥繪　大阪　森川喜助氏藏
八十六　山水圖　鏝畵、渡鹿齋筆　大阪　岡田伊三次郎氏藏
八十七　海岸ノ圖　大阪　三隅貞吉氏藏
八十八　支那風景ノ圖　同
八十九　島原之圖　京都　稻田賀太郎氏藏
九十　外國風景　銅版　同
九十一　同　肉筆　大阪　三隅貞吉氏藏
九十二　バンダイク肖像　パステル畵　東京　永森直次郎氏藏
九十三　日本の耶蘇教徒の肖像　油繪　同
九十四　浮繪風泥繪　大阪　三隅貞吉氏藏
九十五　お茶の水の雨　肉筆、小林淸親　京都　松木善右衛門氏藏

七十　蛇踊圖　大阪　南木芳太郎氏藏

七十一　洋人酒盛圖　大阪　南木芳太郎氏藏

七十二　阿蘭陀人ノ圖　肉筆　大阪　三隅貞吉氏藏

七十三　支那人ノ圖　同　同

ヘ　ビードロ繪

天明八年頃司馬江漢が長崎遊學中阿蘭陀船のケーピンで數多きビードロ繪を見て驚嘆したと云ふことである。勿論ビードロ繪はそれ以前西洋にては隆盛を極めたもので古くより和蘭陀船によつて日本に將來されて居るものだがこのビードロ繪が近世日本洋畫界に多大の影響を及ぼしてゐる事は事實である。

七十四　阿蘭陀人と風景　大阪　三隅貞吉氏藏

七十五　スペイン婦人ダンスの圖　大阪　岡田伊三次郎氏藏

七十六　美人に風景圖　大阪　三隅貞吉氏藏

七十七　阿蘭陀風景圖　大阪　三隅貞吉氏藏

七十八　風景圖　大阪　今城鋤次氏藏

七十九　風景圖　京都　西原德三氏藏

八十　風景圖　大阪　小出楢重氏藏

八十一　支那美人圖　同

阿蘭陀女人圖　長崎繪　豊島屋版



大阪　岡田伊三次郎氏出品

らく應擧の名聲が揚つた安永以後に出版したるものではあるまいかと思はれる。尙菊屋版には木版筆彩の京名所の繪（猪熊信男氏藏）があるこれは第四十四圖の應擧の筆になつたものと畫風が頗る類似してゐるから恐らく同一の版元であるかも知れない。

四十五	都島原あげやの座敷ノ圖	木版合羽摺	大阪　岡田伊三次郎氏藏
四十六	八島合戰	同	同
四十七	堀川夜討	同	同

この三種は菊屋宅兵衛版の合羽摺に屬するものである。尙純西洋風景畫のある事をみると和蘭陀の影響が一層直接に受けてゐる事を認める。

ホ　長崎繪

長崎版畫は正保頃のものが現存してゐるが寬延寶曆頃から盛になつたやうだ針屋版は手彩色で最も古く色摺は豐島屋から起つてゐる。四十八圖の如きは豐島屋版のうち尤も優秀なものゝ一つである文錦堂は之に次ぎ大和屋板　手深屋　今見屋等は江戶繪の影響を多く受けてゐる。文錦堂以前の色摺は合羽摺が多くこれは支那版畫の影響である。

四十八	阿蘭陀女人圖	豐島屋板	大阪　岡田伊三次郎氏藏
四十九	阿蘭陀人喫留吧坊	同	大阪　三隅貞吉氏藏
五十	阿蘭陀船圖	同	京都　松浦丘園氏藏
五十一	阿蘭陀人宴會之圖	同	同

三十二	大佛殿	同	同
三十三	祇園	同	同
三十四	三十三間堂	同	同
三十五	四條芝居	同	同
三十六	島原	同	同
三十七	山釬	同	同
三十八	清水	同	同
三十九	四條河原	同	同

第三十圖より第三十九圖迄はその箱の裏面に明和二年十二月日高善三郎需之とあるを以てその時代のものに相違ないと考へらる。

四十	鎭江樹林	肉筆	大阪 三隅貞吉氏藏
四十一	姑蘇萬年橋	同	同
四十二	松林走馬ノ圖	肉筆	大阪 三隅貞吉氏藏
四十三	兒童遊戲ノ圖	同	同

第四十圖より四十三圖迄は應擧が最初支那木版筆彩畫より模寫したるものに非らずやと推定せらるゝものである。

四十四	三十三間堂	版畫筆彩	神戸 森本喜三郎氏藏

黑田博士所藏應擧版畫の中に其裏面に尾張屋勘兵衛及尾張屋の黑肉印のあるものとがあるがこの七十圖はその裏面に應擧と書いてその下に花押が黑肉にて捺してある。今日迄發見せられた圖の畫風より推せば筆彩等頗る粗雜であるが本圖は恐

變らぬので京都及附近の名所を實寫したものである。

二十九　支那風景　肉筆　大阪　森川喜助氏藏

一、風　景　同　同

一、北野天滿宮　同　同

一、石山寺　木版筆彩　同

一、蘇川海岸　同　同

一、祇園會　同　大阪　三隅貞吉氏藏

一、癸祭行列　同　同

一、加茂競馬　同　同

一、三十三間堂　同　同

一、枳穀御殿　同　同

一、四條河原夕涼　同　同

一、東山座敷　同　同

一、姑蘇萬年橋　同　同

一、鎭江樹林　同　同

一、青艸湖　同　同

三十　四條河原夕涼ノ圖　肉筆　大阪　三隅貞吉氏藏

三十一　大津街道　同　同

十八	月輪眞形	同	同
十九	太陽眞形	同	同
二十	地球楕圓圖	同	同
二十一	屋耳列禮圖解	同	同
二十二	大地浮天之圖	同	同
二十三	天經圖	同	同
二十四	潮候圖	同	同
二十五	顯微鏡虫之圖	同	同
二十六	同　雪之圖	同	同
二十七	海濱之圖	肉筆　司馬江漢	大阪　三隅貞吉氏藏
二十八	風景畫	初代玄々堂銅板四枚	大阪　三隅貞吉氏藏

江漢に次いで亞歐堂田善が著名であり肉筆及銅版畫が多數あるが今適當なものがないから之を略する尙同時代には大阪に中屋伊三郎が醫範提綱の附圖や天體圖等も製作した恐らく肉筆の遺作もあるであらう、田善の流を汲むものに安田雷州及玄々堂一派松本保居、井上九皐が天保弘化頃その靈筆を揮つたものでそれ以後は玄々堂一派が相續いて明治に至つてゐる

二　圓山應擧ノ眼鏡繪

寶曆年間圓山應擧が支那覗繪を模寫し四條柳馬塲東へ入る中島勘兵衞より當時の高級玩具として賣出したがそれも目先が

四	風景畫	銅版風肉筆		大阪 三隅貞吉氏藏
五	同	同		同
六	同	同		同
七	同	同		同
八	同	同		同
九	同	同		同

近世銅版畫の創製者は司馬江漢である彼の作は天明三年頃より初まると考へらるゝがそれ以前銅版畫風の肉筆畫が試作せられたのではあるまいかと思ふ恰も應擧の版畫の出現する以前に多數の肉筆畫が製作せられたのと同様に――これは憶說ではあるが記して織者の示教をまつものである。

十	風景畫	銅板		大阪 三隅貞吉氏藏

本圖は恐らく江漢初期の銅板畫で天明三年頃の作品であらう。

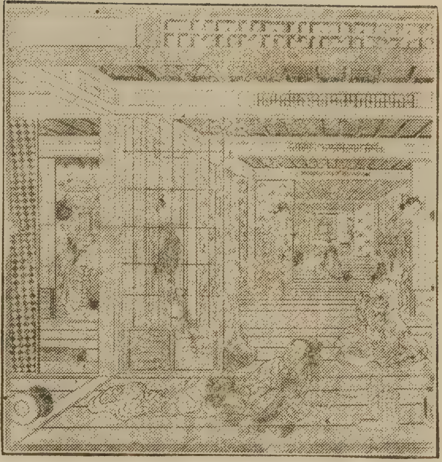
十一	おやぢ茶屋	銅板	司馬江漢	大阪府立圖書館
十二	兩國橋			同
十三	同			同
十四	三圍(めぐり)			同
十五	地球全圖	銅板	司馬江漢	大阪 岡田伊三次郎氏藏
十六	同	同		同
十七	天球ノ圖	同		同

本圖は政信が初期の浮繪に屬するもので元文五年「中村座顔見世宮柱大平記」の横漆繪（松方幸次郎氏藏）等より比較してそれ以前のものに非ずやと推定せるものである。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

二　新版唐九仙山合戰ノ圖　特大錦　歌川豐春筆　版畫

安永以後の代表的作者は歌川豐春である。本圖にも明に顯はれてゐるやうに彼の繪は支那及和蘭陀直接の影響をも蒙つてゐることが明らかであるそして彼の作品中には極めて異國情調の濃厚なものがある。



豐春に次いで洋風を純日本式に取入れた天才畫家葛飾北齋を生み歌麿、月麿、豐國、豐廣　北壽　國虎　英泉　國長　國貞　國直等輩出し世界的の風景畫家廣重の出現となり遠く佛蘭西後期印象派に多大の影響を與へ歐米の畫壇を風靡する導火線となつたのである。

ロ　油繪銅版

寶暦の頃大阪天滿天神宮へ和蘭陀人遊獵の圖が奉納せられたと傳らるゝも現品の存せぬ今且確然と如何なる繪かは解らぬ。近世洋畫家の先覺者は平賀源内である同氏の作は鹿田靜七氏所藏のものは尤も著名である。

三　阿蘭陀人ノ圖　油繪　　大阪　三隅貞吉氏藏

本圖は筆者未詳なるも畫風及繪具より推定して略ゝ同時代の作品なりと考へらる

三隅貞吉氏述

ロ 西洋の影響を受けたる日本畫

『大正十三年五月京都市岡崎圖書館に於て黑田博士主催西洋の影響を受けたる日本畫及支那畫展覽會並に本年四月京都市恩賜京都博物館主催明治以前洋畫陳列會に出品のものを除きたると時日多からざる爲め充分に逸品を蒐集し得ざりしを遺憾とす。』

洋畫の我國に初めて輸入せられたのは天文年間耶蘇敎の傳來と共に將來せられた天主像や聖母の像が最初であらう、その後有家、加津佐、長崎などの學林で出版せられた書籍のうちには邦人の手になつた。銅版畫が發見せられてゐる（サンデー每日新村博士日本最初の銅版畫參照）天草亂のとき山田右衞門作が蠻畫の名手であつたと傳へられ、その後生島三郎左、野澤久右、喜田元規、明人陳賢なども洋畫を書いたと云ふ事が長崎先民傳や古畫備考に記載されてゐるが峻嚴の極を盡した異敎の禁令は洋畫も共に根底から絕滅したらしく寛文以後壹百年洋畫の遺品は求む可くもない。

イ 浮繪

元文年間に至つて鬼才奧村政信は支那銅板式木版畫を工夫して浮繪を創意した、これは西洋畫風の遠近法及陰影法を巧みに攝取して浮繪を描いたが更に道信、師政、淸倍、淸忠、淸久、盛信、重長、光月堂、定月堂等の畫家が輩出した。

一　室內遊戲ノ圖　漆繪特大判　奧村政信筆　版畫　　大阪　岡田伊三次郎氏藏





阿蘭陀人之圖　油繪　三隅貞吉氏出品

京都　横地石太郎氏藏

明治改正兵庫細見全圖　一舖　湊川若林良圖寫　明治二年　大阪小島屋板

京都　横地石太郎氏藏

兵庫神戸市街之圖　一舖　明治十年　熊谷幸介板

京都　横地石太郎氏藏

兵庫神戸實測圖　一舖　明治十四年　地理局測量課　刊

大阪　荒木和一氏藏

横濱港案内圖繪　三枚續　（貞秀）　大阪　高尾彦四郎氏藏

横濱美屋毛　一舖　（貞秀）　大阪　南木芳太郎氏藏

橫濱商館之圖　三枚續　（廣重）　横濱　輕部漱芳氏藏

橫濱本町並に港崎町細見全圖　（貞秀）　大阪　三宅吉之助氏藏

橫濱異人館ノ圖　一枚　（廣重）　大阪　三宅吉之助氏藏

横濱海岸通之圖　一枚　（廣重）　大阪　三宅吉之助氏藏

横濱英吉利商館繁榮圖　三枚續　（芳幾）　横濱　輕部漱芳氏藏

新聞賣弘廣告　一枚　（國松）　（横濱發行）　横濱　輕部漱芳氏藏

キンドル散賣弘廣告　一枚　（國周）　横濱　輕部漱芳氏藏

横濱開港繪卷　一卷　寫　東京　加賀豐三郎氏藏

開港神戸の圖　一舖　慶應四年四月新版　大阪　南木芳太郎氏藏

横濱武鑑　こがねの花　文久元年板　大阪　中村正二郎氏藏
横濱竹枝　石埭居士著　大阪　中村正二郎氏藏
異國落葉籠　一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏
英吉利船浦賀入港之記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
異船渡來記　二册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
　大阪　荒木和一氏藏
御開港横濱大繪圖　一舖　橋本玉蘭齋著　安政六年晩冬　江戸寶善堂　刊
横濱大湊細見圖　一舖　貞秀畵　横濱辻田屋文助板　大阪　荒木和一氏藏
　大阪　荒木和一氏藏
横濱明細全圖　一舖　元治元年原板　慶應四年再板　錦港堂板
横濱全圖　一舖　明治三年板　大阪　南木芳太郎氏藏
横濱外國人居留地圖　二舖　明治四年板　横濱　輕部漱芳氏藏
横濱本町之圖　三枚續　（國芳）　大阪　高尾彦四郎氏藏

英吉利船長崎渡來港載始末　一冊　寫本　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　荒木和一氏藏

橫濱開港見聞誌　四冊　橋本玉蘭齋著　五雲亭貞秀畫　上中下の三冊は文久二年の序　續篇は慶應二年序

大阪　岡田伊三次郎氏藏

珍事五ケ國橫濱はなし　一冊　松伯著　文久二年　杵屋米八版

橫濱土產　一冊　假名垣魯文序　萬延元年　有隣堂刊　大阪　荒木和一氏藏

橫濱土產　初篇　二篇　二冊　大阪　中村正二郎氏藏

東京　增田正雄氏藏

正寫橫濱異人圖畫　一冊　隅田了古編　一壽齋芳員畫　文久元年　品川屋久助　刊

橫濱奇談　一冊　菊苑老人著　橫濱　錦港堂版　東京　增田正雄氏藏

橫濱繁昌記　一冊　錦溪老人著　紀伊國屋源兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

橫濱開港圖會　一冊　芳員貞秀畫　大阪　三宅吉之助氏藏

大阪　南木芳太郎氏藏

橫濱八景詩畫　一冊　平塚泰亮著　永海畫　明治三年　東京　島屋平七板

長崎紀行　二册　長久保玄珠著　文化二年（西一八〇五）　河内屋太助等刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

長崎先民傳　二册　盧千里著　原念齋校　竹田定直序（元文）文政二年（西一八一九）刊　大阪　高安六郎氏藏

長崎土産　一册　磯野春信著　並畫　弘化四年（西一八四七）　大和屋由平　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

長崎紀行　草稿本　一册　大阪　杉本要氏藏

肥州長崎圖　一舖　寶曆十四年申八月　長崎勝山町　大島文治右衞門板　大阪　南木芳太郎氏藏

肥州長崎圖　一舖　安政七年戊八月　長崎勝山町　大島文治右衞門板　大阪　南木芳太郎氏藏

肥州長崎圖　一舖　享和元年板　京都　横地石太郎氏藏

肥州長崎圖　一舖　享和二年　文錦堂板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

肥州長崎圖　一舖　明治三年板　大阪　中村正二郎氏藏

長崎瓊浦居留場繪圖　一舖　慶應二年　長山鄰彎堂板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

へ　長崎及横濱神戸關係圖書

媽港使節於長崎處刑圖　銅版　一枚　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

本圖は西一六四〇（寛永十七年）媽港より長崎へ來た葡萄牙使節等六十一人が首打ちになりし銅版圖にして日本西教史に『一行サイント、モンタニ（聖山の義此地に於て殉教する者屢々あるを以て名つく）に到り、皆跪き地に接吻せり、是從來無數の殉教者の鮮血を灑きたる所なるを以てなり、偖て官吏は此人々を三列に分ち第一は使節四人及び葡萄牙並にカステリヤの隨員第二は支那產の水夫及船中の童僕、第三は媽港へ逐還すべき十三名とす、此十三名は少し高き丘上に置き衆人の死に處せらるゝ景狀を見せしめ歸國して報告をなすに便ならしむ』とある。

東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

長崎蟲眼鏡　二册　弄古軒菅秋著　元錄十七年（西一七〇三）　大阪　富士屋長兵衛　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

畫圖西遊譚　五册　司馬江漢著　寛政甲寅序　享和三年（西一八〇三）　文金書堂　刊

大阪　南木芳太郎氏藏

長崎聞見錄　四册　廣川獬著　寛政九年（西一七九七）序

長崎夜話艸　五册　享和五年（西一七二〇）　平安柳枝軒　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

男爵大島富士太郎氏出品



[illegible]使節 於紐育[illegible]圖 [illegible]

媽港使節於長崎處刑圖　銅版



男爵大島富士太郎氏出品

スリエ（外人の曲馬師番附書譜） 一册 世話人 泉味富右衛門 明治四年 山口屋藤兵衛藏板 大阪 青木平七氏藏

大阪 岡田伊三次郎氏藏

博覽會品目 一册 明治五年二月 滋賀縣廳

明治五年三月より五十日間京都博覽會社にて開催の博覽會の品目にてその布令書なるものをみるに別册の通り今般京都博覽會社に於て御國人幷外國人の內外の諸品持寄展觀或は賣買共致し候旨御聞屆に相成り候に付士族、卒、神職、僧侶、平民共別之品々所持の者は隱藏し居かず展觀或は賣買等いたし御國品の盛大利益の潤澤を相謀り可申事とあり、別に和英對譯の品目を附せり。

大阪 岡田伊三次郎氏藏

通俗伊蘇普物語 六册 渡邊温譯 明治五年 無盡藏々版

泰西自然神教 二册 箕作麟祥譯 明治七年文部省 刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

滑稽窮理臍の西國 一册 增山守正著 明治九年 正寶堂 刊 大阪 荒木和一氏藏

歐洲小說哲烈禍福譚 七册 宮島春松譯 明治十二年 大盛堂 刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

講武所御必用蘭書名目 一册 寫 大阪 岡田伊三次郎氏藏

西洋飜譯書目 一册 寫 東京神明前 書肆和泉屋吉兵衛輯 大阪 荒木幸太郎藏

和漢音釋書言字考　一册　シーボルト解說　西一八三五年　刊　東京　大井久五郎氏藏

新增字林玉篇　一册　シーボルト解說　西一八三四年　刊　東京　大井久五郎氏藏

千字本　洋一册　シーボルト解說　西一八三三年　刊　東京　大井久五郎氏藏

千字本　洋一册　西一八八三年（但シ上海版）　橫濱　ケーレー商會　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋千字本　一册　田中内記撰　明治六年　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大洋新話魚說敎　一册　假名垣魯文著　曉齋畵　明治五年　序　排源齋藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

浮世機關西洋鑑 初篇　二册　岡丈紀戯編　神奈垣魯文校　明治六年　序　萬笈閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

芳明開化窮理外傳　一册　平賀源内遺稿　假名垣魯文披閱　明治五年　序　萬笈閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　杉本要氏藏

西國立志編 原名自助論　八册　中村敬太郎譯　大平謙一郎校　明治四年　六書房藏版

大阪　杉本要氏藏

鞋補童教學　三册　脚本作者　京都　佐橋富三郎作　白水廣信畵　明治六年　京都　村上勘兵衛　刊

本書は中村正直の西國立志編の一節を脚色せしものにて西洋ものを取入れて作りし脚本所謂翻譯脚本は本書を以て嚆矢とす。

作者佐橋富三郎は西國立志編から二種の翻案劇を作つてゐる、その一つは陶器師巴律西の事を脚色した『其彩色陶器色揚』で現今片岡仁左衛門が當り藝の一つとして知られてゐる『名工柿右衛門』の作者故榎本虎彦氏はこの『其彩色陶器色揚』からヒントを得たものであると傳へられてゐる（木村助次郎氏談）

大阪　荒木和一氏藏

鉛筆記聞　一册　佛蘭西カションロ授　栗本匏菴筆記　柳園聚珍板

大阪　荒木和一氏藏

匏菴十種　鉛筆記聞　一册　栗本匏菴著　明治二年己巳　九潛舘藏版

大阪　荒木和一氏藏

匏菴十種　曉窓追録　一册　栗本匏菴著　明治二年己巳　九潛舘藏版

大阪　荒木和一氏藏

復古論　（活版賣買禁）とあり　一册　刊

箕作阮甫の漢文の序がある（解題は典籍の研究一號　新村出氏横山由清の魯敏遜漂行紀略を參照されたし）

横山由清　國學者、梓子の義子、保三と稱す本間遊淸の門人なり。食貨志略、日本人種論、上古賣買起原等の著書あり（大日本人名辭書）

京都　新村出氏藏

漂荒紀事　二册　寫　黑田行次郎譯　嘉永初年頃譯

新村出氏の日英關係圖書展觀志に詳細の解題あり。

大阪　荒木和一氏藏

遭厄日本紀事　十册　寫　馬塲貞由譯　高橋景保校

文化八年魯人兀老尹等漂着松前幽囚三年　獲還其間日記也（大槻文庫書目）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

異人恐怖傳　三册　嘉永三年　刊

本書はケンペルの日本鎖國可否論を享和元年に長崎通詞志筑忠雄が抄譯し寫本に傳はりしも黑澤翁滿之を校訂して梓行せるもの。然るに開板間もなく絕版を命ぜられたり。

大阪　鹿田文一郎氏藏

鎖國論　二册　寫　志筑忠雄譯　享和元年　黑川眞頼舊藏本　元祿年間ケンペル日本記事抄譯

大阪　岡田伊三次郎氏藏

格蘭氏傳倭文賞　九册　假名垣魯文譯　明治十二年　金松堂　刊

芝䉤國一覽　一册　洞露齋百喜編　補閲並蘭書　曉鐘成　畫匠　狂畫堂盧州　文化十二年序　鐘成閣藏版　大阪　杉本要氏藏

本書も蘭學流行の影響を受けたもの丶一つにて萬國地圖を摸して芝䉤國一覽圖を載せ銅版風の肖像に和蘭風の文字の狂歌芝䉤國の名所舊蹟産物國語等當時流行の萬國一覽圖說を寫して妙なり。

三國嘶和漢蘭雜話　上一册　曼亭鬼武作　北齋畫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

芝蘭堂新元會圖　一舖（復製）　京都　新村出氏藏

薰松軒西洋畫册　一册　石川大浪肉筆　蒹葭堂珍藏の印あり　木村巽齋舊藏書　大阪　荒木伊兵衛氏藏

石川大浪　幕臣、通稱七左衛門、號薰松軒、Tabelberg 又乘加と稱す。文化十四年十二月二十三日歿す。

西洋畫談　一册　司馬江漢著　寛政十一年刊　京都　杉浦丘園氏藏

（嘉永以前西洋輸入品參考目錄）

魯敏遜漂行紀略　一册　横山保三譯　川上冬崖挿畫　安政四年　瓊華書院藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

伊曾保物語　三册（復製本）　萬治二年巳亥正月、伊藤三右衛門開板

東京　横尾勇之助氏藏

水谷不倒氏の假名草子に『本書はイソツプ物語の飜譯にして本邦に於ける西洋文學譯書の先驅たることは世人の洽く知る所。而してイソツプの最初の譯本は西一五九三年即ち文錄二年天草の耶蘇學林に於て拉丁語の原本に依り我口語體に譯され羅馬字に綴りて開板せられて居る（本書の挿畫を參照せられたし）が此譯本は我國に傳本なく英國博物館に唯一本を藏するのみなり、而して文錄版と、この假名草子の伊曾保の譯文とは關係なき事等は新村出氏著『文錄舊譯伊曾保物語』の詳說に讓る本書は何れの原書に依れるか不明なれども文錄本とは全く別譯にて最初は活字本にて刊行せられ後に繪入本となれり。活字本にも亦二版あり、一は元和版と稱するもの他は寛永十六年版なり。此假名文の譯者に就いては烏丸光廣と想像する人あれども今の所全く不明にしてをくが無難なるべし』と

蘭例語典　一册　廣川獬著　文化十一年　刊

京都　新村　出氏藏

和蘭文字紋帳　一册

東京　勝俣銓吉郎氏藏

蘭學の隆盛と共に和蘭文字の流行を來し藥の效能書、看板等に又は印形、紋所に用ひしもの多く本書は文政、天保頃に出版されし洋文字の紋帳なり。

魯敏遜漂行紀略　安政四年刊

巻首の挿畫　川上冬崖畫

大阪　岡田伊三次郎氏出品

BEKNOPTE

LEVENSGESCHIEDENIS

ROBINSON CRUSOE



大阪　中村正二郎氏藏

萬國新聞紙　二號　一册（異本）美濃半截版和紙刷　慶應四年　横濱發行

大阪　岡田伊三次郎氏藏

中外新聞　一號―三十二號　慶應四年（一八六八）二月二十四日初號　横濱會譯社發行

刊頭に『先年以來横濱開板のタイムス　又　ヘラルドと名づくる新聞を譯し又英吉利　亞墨利加、法蘭西、和蘭諸國の新聞をも得るたび毎に譯出し寫本にて傳ひ來ると雖も筆者の煩はしきに堪へざるを慮り此度活字にて印行するものなり』と

大阪　中村正二郎氏藏

各國新聞紙　一號　一册　英國ウイセヒ編　慶應四年　發行

京都　横地石太郎氏藏

横濱新報　もしほ草　一號―十四號　岸田吟香編輯　横濱九十三番館　ウエンリート　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

官板明治月刊　合　一册　明治元年九月　大阪府　開物新社　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

內外各種新聞要錄　四册　蕉雨堂主人編纂　明治五年（西一八七二）萬卷樓　刊

官板海外新聞別集　合二册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

官板海外新聞別集　上中下三册　大阪　中村正二郎氏藏

上卷は文久二年八月發行　バタビヤ、アムステルダム等の新聞に揭載された遣歐竹內下野守一行に關する記事を中、下卷は同十月の發行してニューヨーク新聞千八百六十二年五月に揭載されたる南北戰爭の記事を譯載せしもの萬屋兵四郎發行

官版六合叢談　一卷―十六卷　文久年間　萬屋兵四郎發行　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は支那にて發行された漢字新聞中より西國天學流傳　華英通商事略　印度近事等を句讀訓點を附して飜刻せしもの、原書は咸豐七年（西一八五七）より翌八年に發行された上海新聞である。

萬國新聞紙　二號、四號　二册　大型版和紙刷　バックウォース、ベーリー編　慶應三年一月初集發行　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國新聞紙　二號、三號、四號、六號　四册　大型和紙刷　慶應三年一月初集發行　大阪　中村正二郎氏藏

萬國新聞紙　九號　一册　美濃半截版洋紙刷　慶應三年　横濱發行　大阪　中村正二郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋諺草　一册　岩見鑑造譯　明治十年（西一八七七）日就社　刊

大阪　杉本要氏藏

加爾均氏庶物指教　二册　黑澤壽任譯　明治十年（西一八七七）文部省　刊

i　飜譯及飜刻新聞

大阪　中村正二郎氏藏

官板バタビヤ新聞　十三卷―二十三卷　合本一册　文久二年二月（西一八六二）發行　萬屋兵四郎　刊

本書は我國に於ける現代新聞發祥の鼻祖である。但し此新聞は外國の新聞をそのまゝ飜譯したもので幕府は蕃書調所に於て千八百六十一年十月十二日より同十一月十六日迄のバタビヤ發行の蘭字新聞を抄譯して萬屋兵四郎をして發行せしめたものである一卷より十三卷迄は文久二年一月發行（萬屋兵四郎の事は新舊時代第一年三、四、五號にあり）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

官板海外新聞　一卷―三十三卷　合本二册　文久二年八月

官板バタビヤ新聞二十三卷以後を改題せるもの

母の導き　二册　土居光華譯　曉齋書　明治七年（西一八七四）淡山樓藏板
神戸　櫻井勘助氏藏

珊瑚の虫　一册　前山泰一譯　明治七年（西一八七四）寶文堂刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

家事儉約訓　一册　長谷川新吾校　明治七年（西一八七四）文部省刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

牙氏初學須知　十五册　田中耕造譯　明治九年（西一八七六）文部省刊
大阪　青木平七氏藏

幼稚園　三册　桑田親五譯　明治九年（西一八七六）文部省刊
大阪　青木平七氏藏

幼稚園記　三册　關信三譯　明治九年（西一八七六）東京女子師範學校刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

幼稚園法二十遊嬉　一册　關信三譯　明治十二年（西一八七九）青山堂刊
大阪　三隅貞吉氏藏

訓蒙勸懲雜話　二册　和田順吉譯　明治十年（西一八七七）文部省藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

開化童子往來　初篇一冊　松川半山著　明治六年（西一八七三）郡玉堂　刊

大阪　杉本要氏藏

畫入開化往來　一冊　明治六年（西一八七三）花說堂　文榮堂藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

稚兒話の友　一冊　楯岡省巳遊人著　明治六年（西一八七三）中外堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

開化進歩の目的　二冊　加藤祐一著　松川半山書　明治六年（西一八七三）書林會社　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西修身論　一冊　山本義俊譯　明治六年（西一八七三）二書堂　刊

小學畫學書　一冊　明治六年（西一八七三）文部省編　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

幼童教のはじめ　二冊　須田辰次郎　甲斐織衛譯　明治七年（西一八七四）萬笈閣　刊

大阪　青木平七氏藏

西洋童話　一冊　今井央山譯　明治七年（西一八七四）紀州　野田大二郎板

五十一韻之原由　一册　加藤祐一著　明治五年（西一八七二）序　柳原喜兵衛　刊　大阪　杉本要氏藏

洋學指南　一册　明治五年（西一八七二）　球文社藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋禮式　一册　河野盛之進譯　明治六年（西一八七三）　須原屋伊八　刊　大阪　青木平七氏藏

開化童子往來　一册　松川半山著　明治六年（西一八七三）　郡玉堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

初學讀本　一册　福澤英之助譯　明治六年（西一八七三）　大阪　荒木和一氏藏

外國交際の手ぶり　二册　岡本純著　明治六年（西一八七三）　刊　橫濱　輕部漱芳氏藏

五大洲智惠の以多　折一册　明治六年（西一八七三）　刊　橫濱　輕部漱芳氏藏

世界婦女往來　一册　山本與助著　明治六年（西一八七三）　大野木市兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

教育に關するもの

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國鼓笛譜　一册　慶應元年（西一八六五）教育舘藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西訓蒙圖會　二册　田中芳男譯　明治四年（西一八七一）文部省藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西畫指南　四册　川上寬（冬崖）譯　明治四年（西一八七一）文部省刊

大阪　三隅貞吉氏藏

訓蒙畫譜　一册　銅版筆彩

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋勸善夜話　三册　梅浦元善譯　明治五年（西一八七二）鴈金屋刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

童蒙をしへ草　五册　福澤諭吉譯　明治五年（西一八七二）尚古堂刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

啓蒙知惠乃環　三册　瓜生於菟子譯　明治五年（西一八七二）和泉屋吉兵衛刊

巴華釐亞國稅法　三册　古賀保高譯　明治八年（西一八七五）大藏省　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

律例精義大意　一册　佛、ダランベルト原著　鈴木唯一譯　明治八年（西一八七五）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

戸長心得草　三册　湯川退藏輯　明治八年（西一八七五）中川文林堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

人口論要略　一册　マルサス著　大島貞益抄譯　明治九年（西一八七六）刊　東京　吉野作造氏藏

法朗西陸軍律　一册　明治九年（西一八七六）陸軍文庫　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

民間經濟錄　一册　福澤諭吉著　明治十年（西一八七七）福澤氏藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

電信符牒語　一册　青木眞吉著　明治十四年（西一八八一）芙蓉堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國新商賣往來　一册　松川半山編　明治五年（西一八七二）赤忠　忠雅堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國通商往來　一册　明治六年（西一八七三）京都　杉本甚助等　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

條約十一國　一册　福澤諭吉著　醍醐家藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書の卷末に此册子舊冬於江戸版成然處依當春騷擾末弘两三册流傳而已求得之一讀了欲令方今諸人亦一讀故急翻刻爲藏版とあり

五ケ國條約並稅則　五册　安政六年（西一八五九）須原屋伊八　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

聯邦商律　利足篇　一册　藤田九二譯　明治六年（西一八七三）淡山樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

聯邦商律　卷二　藤田九二譯　明治七年（西一八七三）淡山樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

統計學　五册　箕作麟祥譯　明治七年（西一八七四）刊　東京　吉野作造氏藏

萬國政體論　三册　箕作麟祥譯　明治八年（西一八七五）中外堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

東京　吉野作造氏藏

富國捷徑　一册　福住正兄譯　明治六年（西一八七三）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

帳合之法　四　福澤諭吉譯　明治六年（西一八七三）慶應義塾出版局刊
東京　吉野作造氏藏

富國論　三册　ヲォーカー著　永峯秀樹譯　明治七年（西一八七四）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

佛國政典　十二册　大井憲太郎譯　明治六年（西一八七三）司法省藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界商賣往來　一册　橋爪貫一著　明治四年（西一八七一）鴈金屋刊
（明治六年に再板せり）
大阪　岡田伊三次郎氏藏

續世界商賣往來　一册　橋爪貫一著　明治五年（西一八七二）鴈金屋刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

續々世界商賣往來　一册　橋爪貫一著　明治五年（西一八七二）鴈金屋刊

英氏經濟論　六册　ヱーランド著　小幡篤次郎譯　明治六―九年刊　東京　吉野作造氏藏

租稅全書　六册　林　正朋譯　明治六年（西一八七三）刊　東京　吉野作造氏藏

經濟論　二册　堀越愛國譯　明治七年（西一八七四）刊　東京　吉野作造氏藏

彌兒氏經濟論　初篇四册　ミル原著　林董譯　明治八年（西一八七五）刊　東京　吉野作造氏藏

經濟要旨　二册　西村茂樹譯　明治十年（西一八七七）刊　東京　吉野作造氏藏

賓氏經濟學　五册　フォーセット著　永田健助譯　明治十年（西一八七七）刊　東京　吉野作造氏藏

經濟入門　一册（生産道案内活字本）　小幡篤次郎譯　明治十年（西一八七七）刊　東京　吉野作造氏藏

會議辯　一册　福澤諭吉、小幡篤次郎、小泉信吉合著　大阪　岡田伊三次郎氏藏

會社辨講釋　二冊　加藤祐一著　明治五年（西一八七二）刊　東京　吉野作造氏藏

點取交通論　一冊　佐藤介石述　大阪　荒木和一氏藏

海外交通の弊害を極論したるもの

自由之理　六冊　中村敬太郎譯　明治四年（西一八七一）靜岡　木下謙一郎藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

致富新書　一冊　平田一郎校　明治四年（西一八七一）刊　東京　吉野作造氏藏

輸出品運上目錄（新定稅目）一冊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

合衆國收稅法　四冊　ブーツウエル著　立嘉度譯　明治五年（西一八七二）刊　東京　吉野作造氏藏

和蘭司法職制法　一冊　神田孝平譯　明治五年（西一八七二）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

世渡りの杖一名經濟便蒙　何禮之譯　明治五年（西一八七二）刊　東京　吉野作造氏

生産道案内　二册　小幡篤次郎譯　明治三年（西一八七〇）尙古堂刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

性法略　一册　神田孝平譯　明治四年（西一八七一）求故堂藏板
大阪　岡田伊三次郎氏藏

佛蘭西法律書民法　十六册　箕作麟祥譯　明治四年（西一八七一）大學南校藏板
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國賦稅要覽　二册　バキストル著　何禮之譯　明治四年（西一八七一）刊
東京　吉野作造氏藏

外交須知　一册　外務省　文書司編　明治四年（西一八七一）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

立會略則　一册　澁澤榮一著　明治四年（西一八七一）刊
東京　吉野作造氏藏

會社辨　一册　福地源一郎譯　明治四年（西一八七一）序　大藏省刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

橫濱　輕部漱芳氏藏

英國軍艦刊法　一册　小幡篤次郎譯　明治二年（西一八六九）刊

東京　吉野作造氏藏

西洋各國錢穀出納表　一册　小幡篤次郎譯　明治二年（西一八六九）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭學制　二册　內田正雄譯　明治二年（西一八六九）序　開成學校藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

交易問答　二册　加藤弘藏著　明治二年（西一八六九）谷山樓藏板

東京　吉野作造氏藏

交易問答　一册　加藤弘藏著　明治二十五年再版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

富國强兵論　合本一册　平井元次郎述
附 理財論　福澤諭吉譯　西國諸國公事裁判論　神田孝平述

東京　吉野作造氏藏

英文經濟入門（生產道案內の原書）　明治二年（西一八六九）沼津開板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國公法譯義　四册　惠頓氏原著　堤殼士志譯　慶應四年（西一八六八）刊
東京　吉野作造氏藏

經濟小學　二册　エリス著　神田孝平譯　慶應三年（西一八六七）刊
東京　吉野作造氏藏

西洋經濟小學　二册　エリス著　神田孝平譯　慶應四年（西一八六八）再版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英政如何　五册　鈴木唯一譯　慶應四年（西一八六八）九潜舘藏版
横濱　輕部漱芳氏藏

立憲政体略　一册　加藤弘藏著　慶應四年（西一八六八）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西國法論　四册　津田眞一郎譯　慶應四年（西一八六八）江戸開成所刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國議事院談　二册　福澤諭吉譯　明治二年（西一八六九）尙古堂刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

外國事務　一册　福地源一郎譯　明治元年（西一八六八）松莊館藏版

和蘭馬具の圖　一卷　寫　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

西洋海防私議　二册　長山樗園著　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
『砲家順知』の著者

亞米利加軍人風俗の圖　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭騎兵の圖　一帖　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋船具の圖　一帖　編者刊行年號未詳　大阪　岡田伊三次郎氏藏

g　法律政治經濟に關するもの

萬國公法　六册　張斯桂譯　慶應元年（西一八六五）開成所（支那版飜刻）京都崇實館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國公法　四册　西周助譯　慶應二年（西一八六六）刊　東京　吉野作造氏藏

萬國公法　（支那版）米國惠頓原著　丁韓良漢譯　同治三年（萬延元年）刊　東京　吉野作造氏藏

西洋船舶圖解　一卷　本木正榮譯　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
本木仁太夫　名正榮、字子光　長崎人　譯詞　海岸砲術備要の著あり

西洋船舶圖解　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
松風軍艦の藏印あり

北亞墨利加軍艦圖　一卷　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

海上砲術全書圖　三帖　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

遠西砲器精製秘鑑　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

電撃銃略記　二册　北越高田　小山杉溪譯　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大砲使用說　一册　崎港和蘭譯司　堀　德政著　寫

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋流輿儀大鑑　一册　寫

英利吉步兵練法　一册　上村又八譯　柳川春三校刻　明治二年（西一八六九）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國戰略　一册　山口繁藏譯　明治二年（西一八六九）丁字屋榮助刊　大阪　杉本要氏藏

陣中小典　一册　明治三年（西一八七〇）兵學寮刊　呉市　有馬成甫氏藏

邏卒勤方問答　一册　大築拙藏著　明治五年（西一八七二）横濱活版社刊　横濱　輕部漱芳氏藏

鐵砲茶話　二册　佐拔碎玉軒著　文化六年（西一八〇九）序　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

佐拔政之丞　號尹重、稱碎玉軒屋洲藩士にして藤堂侯に仕ふ　長沼澹齋門人

鐵砲茶話　附尾問答　三册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

尾張近松彦之進　藤原茂矩應對輯錄

種ケ島百ケ條聞書　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

海軍蒸氣器械圖　一帖　海軍學校編纂　明治二年（西一八六九）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

從軍日記　七册　川口武定著　明治十一年序　大阪　岡田伊三次郎氏藏
西南戰爭の從軍日記

保土障略典　二册　兵學校譯　慶應四年（西一八六八）刊　吳市　有馬成甫氏藏

英國步兵操則圖抄　一册　慶應四年（西一八六八）橋本寛齋藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國尾栓銃練兵新式　六册　栗津銈次郎譯　明治二年平元氏（西一八六九）稽古塲藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

戰略小學　一册　柳田如雲譯　明治四年（西一八七一）陸軍兵學寮刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國新式斯乃獨兒尾裝銃操法　一册　大阪府外國事務局飜譯　明治元年（西一八六八）大阪府兵局刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國步兵練法　八册　信濃　赤松小三郎譯　慶應四年（西一八六八）刊　吳市　有馬成甫氏藏

陣中要務　一册　慶應四年（西一八六八）兵學校藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大隊號令詞　二册、淀藩　荒井保著　呉市　有馬成甫氏藏
（一八六一年式）

改正大隊號令詞　一册　築池　講武所版　呉市　有馬成甫氏藏

練卒訓語　一册　松岡先生閲　訓兵塾藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭官軍拔隊龍學學校全書　一册　大塚蜂郎譯　隨時館　林百郎藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭官軍銃卒訓語　一册　飜刻　大阪　岡田伊三次郎氏藏
De pelotons School voor de koninklijke Nederlandsche

造厩法　一册　兵學寮編纂　明治三年（西一八七〇）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

拔隊龍圖解　一册　大島恭次郎譯　慶應三年（西一八六七）刊　横濱　輕部漱芳氏藏

英式大隊圖解　一册　本間資孝著　明治二年（西一八六九）隨時館藏梓　大阪　岡田伊三次郎氏藏

相馬略　一冊　川本清二郎譯　川本幸民訂正　慶應三年（西一八六七）靜修堂藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は和蘭兵學校の馬醫フアン、デル、ボル氏の著を抄譯せるもの。

呉市　有馬成甫氏藏

墺氏砲論　七冊　阿洲　内藤類次郎　肥後、尾崎又八共譯　慶應二年（西一八六六）橋爪貫一藏板

原著はイ、プ、セ、フアン、オー、フルストラーテン、ノゼネラル、マヨール、デル、アルチルレリイ一八六三年版を主として譯せるもの。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海軍括要　一冊　飛川勝義譯　慶應二年（西一八六六）氷翁塾藏版　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大隊實地演習　一冊　慶應三年（西一八六七）水南樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新式里尼教練圖解　上卷　一冊　慶應三年（西一八六七）致遠館藏板　大阪　岡田伊三次〔郎氏藏〕

新式法郎西號令詞　一冊　宮田敬之助著

陣中要務　一冊　慶應四年（西一八六八）軍務官藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪 岡田伊三次郎氏藏

歩操新式 五册 高島秋帆著 慶應元年（西一八六五）求實館藏版 刊

東京 男爵 大鳥富士太郎氏藏

野戰要務 活字版 一册 大鳥圭介譯 慶應元年（西一八六五）陸軍所藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

野戰要務 一册 大鳥圭介譯 慶應元年（西一八六五）陸軍所藏版 刊

横濱 輕部漱芳氏藏

山砲演式 一册 元治二年（西一八六五）陸軍所藏板 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

砲術譯名字類 一册 中柴中著 慶應二年（西一八六六）瀧原藏版

砲術語を對譯せるもの。

横濱 輕部漱芳氏藏

調練獨稽古 一册 武力堂編 慶應二年（西一八六六）刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

陸軍士官必携 薄葉 一册 渡部一郎譯 柳河春三閣 慶應三年（西一八六七）山城屋佐兵衛 刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

慕氏兵論　五册　松山　倉田勇次郎譯　文久三年（西一八六三）松山藩　演武館藏版

本書は和蘭一八六〇年版　イ、イ、フアン、ミルケンの著を飜譯せるもの。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

築城新法　二篇　二册　廣瀨元恭譯　文久元年（西一八六一）時習堂藏板　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭王兵學校掟書　一册　神田孝平譯　文久元年（西一八六一）九潜館藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

臥揚兵話　二册　積水陳人著　文久二年（西一八六二）序　但馬　大島藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

步兵練法　二册　大鳥圭介譯　元治元年（西一八六四）陸軍所藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

唵私多龍新礮圖說　一册　川本幸民譯　柳川春三校　元治元年（西一八六四）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

築城典刑　五册　大鳥圭介譯　元治元年（西一八六四）陸軍所藏版　刊

歩操袖珍　一册　元岡舍主人譯　安政五年（西一八五八）刊　呉市　有馬成甫氏藏

散兵略解　一册　散兵定例の續編なり　藝州　手塚氏藏板　呉市　有馬成甫氏藏

輕歩兵大隊教練之號音　一册　田邊氏藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

喇叭の符なり、集合、呼出、旗、陣營、早足等を洋樂譜にて現せり。

築城典刑　五册　鉛活字版　大鳥圭介譯　萬延元年（西一八六〇）幕府陸軍所　刊　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

本書は大鳥圭介氏自ら鑄造せる鉛製活字を以て印刷せるものにして後元治元年再板せり『徳川幕府時代書籍考』に幕府陸軍所出板書目を載げ大鳥圭介氏の活字版に就いて記せるを玆に轉載せむ。『大鳥圭介氏の譯述する所の多くは活字を用ゐられたり此の活字は大鳥氏の工夫によりしものと云ふ（開成所製とは別にして當時二樣の活字出來せり）今築城典刑初板にある譯者の凡例一節を附記して證とす。『譯字の原語及註文宜く細書して嵌註と爲すべし而して錫造の活字新鑄其未完備せざるを以て今姑く之を植て本文と同體にし而して單線を其右傍に畫し以て彼是混同無からしむ』萬延庚申冬十月大鳥圭介識とあり、又同氏譯の歩兵操練書の序文の一句に『朝に劍を採りて兵卒を練り夕に筆を採て佛文を譯す』云々、氏は蘭學に出で英學に入り（英學塾を開き書生を育せられたり其塾頭は金子精一氏なり）佛文に渉れり。抑も徳川氏の慶長元和に起る書籍の刊行に活字を用ひ其の末葉萬延、文久、慶應に又活字を用ひたるも奇と云ふべしと。

砲科新論　七册　（鉛活字版）　大鳥圭介譯　文久元年（西一八六一）幕府陸軍所　刊　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

西洋兵學訓蒙　一册　津藩　中西喜一郎譯　安政四年（西一八五七）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新銃射放論　一册　赤松清次郎譯　安政四年（西一八五七）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭人ボヲムスの著一八五五年版　携持銃射放論を譯せるもの

砲術訓蒙　八册　木村軍太郎（重周）譯　杉田成郷閲　安政五年（西一八五八）天眞樓藏版　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

砲術訓蒙　薄葉　一册　木村軍太郎（重周）譯　杉田成郷閲　安政五年（西一八五八）天眞樓藏板　大阪　荒木和一氏藏

和蘭官軍之服色及軍装略圖　一册　山脇正民譯　安政五年（西一八五八）講武塾藏版　呉市　有馬成甫氏藏

礮臺用礮節制　二册　薩摩　石河確太郎譯　安政六年（西一八五九）刊　呉市　有馬成甫氏藏

原著名は一八四四版　フオールシキリフト、トツト、デ、ヘヂーニング、フアン、ヘツト、バツテレイ、ゲシキユツツト

散兵定測　二册　因幡　安塲敬明譯　安政五年（西一八五八）佐藤桐園藏版

砲家須知　一冊　長山貫（樗園）譯　安政三年（西一八五六）序　呉市　有馬成甫氏藏

和蘭砲術書より抄譯せるもの、安政三年丙辰の自序あり、本書の外に『海防私議補遺』の著あり。

精校海國兵談　五冊　林子平著　安積貞校　安政三年（西一八五六）寶集堂刊　大阪　岡岡伊三次郎氏藏

砲家必讀　初編　二冊　大島與著　安政三年（西一八五六）生々堂板　呉市　有馬成甫氏藏

原著は一八二四年版和蘭砲兵隊スチールチースの著書より抄譯せるもの

水陸戰考　一冊　越後　小島省吾譯　安積朋鄕（貞）閱　安政三年（西一八五六）翠雪樓板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋諸國に於ける水陸戰法を詳述したるもの、西洋軍戰に大砲を用ふる起原、西洋砲製造沿革、古今戰法等百四十餘條を說けり、上下二編を一册に作る。

步兵操典　二册　和紙鉛活字刷洋裝　安政四年（西一八五七）長崎活字版（飜刻）　東京　勝　賤　銓吉郎氏藏

Reglement op de Exergitien en manaewores der Infanterie

砲學通志　四册　（十九圖あり）　闕　讃藏譯　安政四年（西一八五七）海棠園藏版　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

闕星巖　名恒、稱讃藏、豐後日出の人

三兵答古知幾　十五冊　安積　貞譯　安政三年（西一八五六）江戸　文苑閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

序に曰『答古知幾の言は其含蓄する所甚だ浩宏にして確定の譯字下し難し今其源に遡りて强て之を譯すれば整兵術とすべし』と

輕騎加刺別即姿製　前編　一冊　安政三年（西一八五六）　披雲館藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は和蘭文典を復刻した熊坂健の著である（和蘭文典の項を參照されたし）

西洋行軍鼓譜　一冊　上原寛林著　安政三年（西一八五六）　全眞館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

窪田茂遂の序あり。例言に『方今軍政洋法に依ると雖も鼓法の如きは分明ならざるを厭ひて自ら譜を作りて之を用ふ故に其家に依つて別に人に依つて異に各我法を主張して一ならず步銃行軍の一大缺點とす故に埼人上原氏來航の蘭人によつて傳習する所の譜を校正して之を揭擧し其要歸を知らしむ云々』

西洋兵書百幾撒私　四冊　安政二年（西一八五五）聚星堂　刊　（二百部限刊行）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

山砲略說　一冊　小關高彥譯　安政二年（西一八五五）江戸　山城屋佐兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書はハン、オ、フルスタラアテン著の砲術著の抄譯

呉市　有馬成甫氏藏

和蘭官軍歩操軌範　五册　牧天穆譯　安政二年（西一八五五）膺徽館下曾根氏藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭官軍歩操軌範　中編　三册　牧天穆譯　安政二年（西一八五五）膺徽館下曾根氏藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭官軍歩操軌範圖解　一册　安政二年（西一八五五）膺徽館下曾根氏藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

白鹿屯學校圖式　一册　安政二乙卯（西一八五五）膺懲館藏板

京都　横地石太郎氏藏

三兵答古知幾　二十册外に目錄一册　安政三年（西一八五六）掃月樓梓

本書は高野長英薩摩侯の囑に因て潜伏中に譯述せしものにて目錄には卷ノ二十七迄あるも第二十卷以下七册は遂に發刊に至らずして止みたるものなり寫本完本は傳へて大槻文彦氏所藏の由

高野瑞皐　名讓、字長英、奥州人

二物考一册（天保七年刊）醫原樞要五册（天保三）蠻社遭厄小記一册　鳥の鳴音一册　等の著あり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海國圖志訓譯　二册　崎港　服部棟隆訓譯　安政二年（西一八五五）刊

上卷には　砲臺圖說　火藥製法　下卷　水雷圖說

大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋砲試驗表　一册　岡新左衞門編　嘉永七年（西一八五四）三荷居藏板　文苑閣　刊

山口菅山の序あり。

杉田成卿　池田正吉をして算定せしめしものなり本書は和蘭の砲術家「ブロイン」「ハンオーフルスターテン」「ベーセル」等の著書より抄譯せるもの

海上砲術全書　十五册　大野文庫藏板　安政元年（西一八五四）刊

海上砲具全圖　一帖　大野文庫藏板　安政元年（西一八五四）刊

本書は和蘭海軍教官ロイテナントカルテン一八三二年版『レイドラアト、ヘイベットオンデルグクトイスデ　セニアル、チルリー』を幕命により箕作阮甫、品川梅次郎、山路彌左衞門、杉田信、等が譯出したるものにて其編目を載げると火藥熕礮、熕車彈、海岸攻守編等數十項に分類せり。

大日本敎育史科に『本書は天保年間幕命を受けて翻譯せしを前年（即ち嘉永六）申請し此年出板せしなり』とある通り天保十四年の著なるも大野藩より幕府へ申請して出版せしもの。

大阪　木村助次郎氏藏

和蘭砲具圖說　初編　一册　結城頼省譯　安政元年（西一八五四）武杖堂藏板

增補熕砲射擲表　折一册　瑪蜂大家庵譯　下曾根桂園閱　嘉永六年（西一八五三）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は西一八三六和蘭版ベウセル著及び一八四二同和蘭版ハンオーノルストラーテン著の砲術書より抄譯せるもの

大塚同庵　稱蜂郎、號瑪蜂、德川家人

遠西武器圖略　一册　市川齊宮（恭）譯　杉田成卿參閱　嘉永六年（西一八五三）天眞樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋砲術便覽　一册　上田仲敏（帶刀）著　黃花園藏板　嘉永六年（西一八五三）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

附錄に象限儀圖解幷に照度比例表あり。

洋外野戰礮具全圖　一册　鏑木昭立譯　嘉永七年（西一八五四）又新堂藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

遠西火攻精撰撮要　折一册　淺野敬德著　服部常紀撰　嘉永七年（西一八五四）淺野家藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

火攻採要　一册　川勝泰譯　嘉永七年（西一八五四）求天學塾藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

火藥の製造法等を記せり。

本書は林子平天明六年の著にして寛政三年（西一七九一）に刻成りて刊行當時の海防戰備を論究したるものにて海戰陸戰に就きて詳述せるも幕府はその異說を唱ふるを罪し刻板を沒收す爲めに寫本に傳はれるもの多く寛政版は稀なり。著者は發行に際し特に千部を限り知人に寄贈せしといふ安政三年安積貞　本書を校訂して精校海國兵談を刊行せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋火攻神器說　二冊

何汝賓輯　平山潛校　但來選　享和二年（西一八〇二）青藜閣　刊

寛政十一年平山潛の序あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

砲術語選　一冊

上田仲敏輯　山田重春校　嘉永二年（西一八四九）菊之屋藏版

砲術に用ふる洋語をいろは順に分ちて一々譯名を附したるものにて同國人山田重春と共に編纂せるもの伊藤圭介の序あり。

上田仲敏は尾張の人帶刀と號す。本書の他に『西洋砲術便覽』の著あり。

大阪　荒木和一氏藏

海岸備要　五冊

本木正榮譯　布川通璞校正　嘉永五年（西一八五二）陵霄園藏梓

本木正榮　通稱庄左衛門、號蘭汀、字子光、長崎譯司　軍艦圖解考例、拂郎察辭範等の著あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

鈴林必攜　一册

上田亭章著　下曾根桂園閱　嘉永六年（西一八五三）田原藩芳春堂　刊

本書は「ミリタイン、サックブック」一八三八年版を譯せるものにして大砲發射の試効及び器械彈藥の尺度斤量、長短輕重等を比較し熕臺の制式用兵等の概略を記載せるものなり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西農學　八册　緒方儀一譯　明治十年（西一八七七）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋開拓新説　二册　緒方正譯　明治庚子の序　時中齊藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

豐業三事　二册　荷衣伯連氏法（ホーイブレンクス）　津田僊撰　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋水利新説　初輯　二册　若山儀一譯　明治四年（西一八七二）時中齊藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋野菜園藝目錄　一册　横濱偶太郎組の印あり。　大阪　岡田伊三次郎氏藏

f　兵學に關するもの

海國兵談　三册　林子平著　大阪　青木平七氏藏

西洋菓樹栽培法　一册　明治六年（西一八七三）開拓使藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋新説蠶飼の栞　一册　出浦銑之介譯　明治二年（西一八六九）竹苞樓　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

標註博物新論　三册　安代良輔標註　明治十年（西一八七七）三府書樓　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

紅茶説　四册　多田元吉譯　明治十一年（西一八七八）勸農局藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

紅茶製法纂要　二册　多田元吉編　勸農局藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

博物雜誌　一號より五號　田中芳男編　明治十一年（西一八七八）博物局　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

○

斯氏農書　十二册　岡田好樹譯　明治八年（西一八七五）內務省藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

牛乳考屠畜考　一冊　近藤芳樹著　明治五年（西一八七二）　抄宗寮藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球產物雜誌　一冊　堀川建齋著　明治五年（西一八七二）　和泉屋半兵衛　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

牧牛說　三冊　杉山安親譯　明治五年（西一八七二）　靜岡　木平讓藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

動物學　初篇　哺乳類　二冊　田中芳男譯纂　明治七年（西一八七四）　博物館藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

動物訓蒙　哺乳類　一冊　田中芳男選　久保弘道校　中島仰山畫　明治八年（西一八七五）　刊

大阪　杉本　要氏藏

且氏博物學　二冊　須川賢久譯　明治八年（西一八七五）　文部省藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

鼇頭博物新編　三冊　英國合信原著　小室誠一頭書　明治九年（西一八七六）　柳絮書屋藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

博物新編譯解　五冊　大森秀三譯　慶應四年（西一八七八）序　匊翠居藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

蔫録　三册　大槻茂質著　文化六年（西一八〇九）芝蘭堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

煙草に關する書圖を挿入し煙草の原始より雅質に至る十門に分ちて詳說せり引用書、和漢洋七十三部にわたると。寛政九年田泰の序山村昌永の跋あり。

めさまし草　一册　淸中亭叔親（中橋煙草屋）著　刊　文化十二年（西一八一五）序　東京　加賀豐三郎氏藏

大槻磐里跋あり。（大槻文庫書目に中橋煙草屋とあり）

菩多尼訶經　折一册　宇田川榕菴譯　文政五年　西一八二二）伊藤篤太郎藏板　大阪　荒木和一氏藏

榕菴初めに洋說植物學を主張し先づ本書を著す。本書は文體を佛典經文の形となして刊行せるものなり。

植學啓原　三册　宇田川榕菴譯　天保四年（西一八三三）序　靑藜閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭本草學は蘭學創始期より既に我邦に傳はり、大槻磐水の蘭畹摘芳、橋本宗吉の三方法典等の譯あり更に文政年代に至りシーボルトの渡來と共に斯學の研究益々隆盛となり門人伊藤圭介の泰西本草名疏の刊行をみるに至りしもまだ西洋植物學の全書なく本書を以て我邦に於ける西洋植物學の嚆矢となす。

飜刻植物學　三册　英國韋廉臣、海寧、李善蘭筆述　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は支那書を飜刻せるものにて木村嘉平刻とあるのみにて刊行年號未詳

上巻に一角（ウニコール）蒼夫藍（サフラン）肉豆蔲（ニクヅク）下巻に木乃伊（ミイラ）噎蒲里歌（エブリコ）人魚の六物を解說せるもの

天明六年　杉田翼序　大石道の跋あり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

一角纂考　一冊　木村遜齋著　天明七年（西一七九五）序　浪華　蒹葭堂藏版

本書は一角（ウニコール）に就いて和漢洋の諸書より抄錄せしものにて考證圖說せり

木村弘恭　字世肅、通稱坪井屋吉左衛門、號巽齋、蒹葭堂、大阪人

著書多し（大阪名家著述目錄を參照ありたし）

大阪　荒木和一氏藏

和蘭產物圖考　三冊　藤元良著　寛政十年（西一七九八）林文泉堂　刊

本書は和蘭の人情風俗及產物を圖說したるものなり、箕山熊尙之の序秋里籬島の序あり、著者は伊勢の人著書に錦囊醫療規矩、諸家灸點圖解等あり。

東京　加賀豐三郎氏藏

煙草記　寶曆六年（西一七五六）序　刊

見返しに『客あれば御茶より先にたばこぼん大和もろこしをなじことなり』とある。

著者未詳　異號、和語、號評、煙管、時代等二十八項に分ち、煙草の由來より煙草に就ての長歌、狂歌、狂詩等を記す。

安多羅古加里製法試用法　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

熱　病　論　一冊　寫　イヨヒユキサム原著　大阪　岡田伊三次郎氏藏

眼科提要　一冊　寫　山田久重著　大阪　岡田伊三次郎氏藏

用藥略記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
戊子之春一齋錄とあり

眼科發蘊　一冊　寫　和田泰然譯　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭方秘譯　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭集玉　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

シキユター說　一冊　寫　西吉郎右衛門譯　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭法治痘辯正　一冊　寫　明石藩成思亭　謙　齋　譯　大阪　岡田伊三次郎氏藏

附　博物學

六物新志　大槻茂質譯　天明六年（西一七八六）序　浪華　蒹葭堂藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪 岡田伊三次郎氏藏

飲食養生新書　五册　山本義俊譯　明治八年（西一八七五）萬笈閣　刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

造化機論　二册　千葉繁譯　明治八年（西一八七五）薔薇樓藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

造化秘事　續共三册　チヨルダン原撰　片山平三郎譯　明治九年（西一八七六）宕陽堂藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

通俗造化機論　一册　千葉繁譯　明治九年（西一八七六）　刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

娼婦論　二册　刀根宗二郎譯　明治十年（西一八七七）煙霞書樓藏板

大阪 岡田伊三次郎氏藏

通俗生殖器論　洋一册　長谷川竹葉抄譯　明治十一年（西一八七八）　刊

大阪 荒木和一氏藏

造化生々新論　三册　古矢嘉滿子譯　明治十二年（西一八七九）正榮堂藏板

大阪 太田信三氏藏

洋注傷寒論　一册　寫　海上隨鷗撰

大阪　生谷卯兵衛氏藏

解剖摘要　七册　松村矩明譯　明治九年（西一八七六）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

虎列刺病論　一册　高橋正純著　明治十年（西一八七七）日新亭藏版

大阪　杉本要氏藏

生理訓蒙　三册　菅野虎太譯　明治九年（西一八七六）松村九兵衛刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

養生法　二册　松本蘭疇著　元治元年（西一八六四）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋養生論　二册　横瀬文彦　阿部弘國共譯　明治六年（西一八七三）萬巻樓刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

養生新論　二册　江守敬壽　大川渉吉纂輯　明治七年（西一八七四）蟠龍居藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

養生淺說　二册　小林義直譯　明治八年（西一八七五）蕃瀏漁舍藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

養生のすゝめ　三册　浦谷義春著　明治九年（西一八七六）敬壽齋藏版

理禮氏藥物學　十五冊　司馬盈之閱　小林義直譯　明治五年（西一八七二）刊
大阪　生谷卯兵衛氏藏

增補藥物學　二十冊　三瀨諸淵譯　高橋正純增補　明治六年（西一八七三）大阪公立病院藏板
大阪　岡田伊三次郎氏藏

初學人身窮理　二冊　松山棟菴　森下岩楠共譯　明治六年（西一八七三）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏
大阪　岡田伊三次郎氏藏

野營醫典　一冊　陸軍醫官　彪傑瑪講授　緒方惟準譯　明治六年（西一八七三）陸軍本病院官版
大阪　杉本要氏藏

急性病類集　二冊　岩佐純著　明治六年（西一八七三）告成堂藏
大阪　杉本要氏藏

衞生新論　二冊　緒方惟準纂輯　東京　適々齋藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

項髓疫說　一冊　本名腦脊髓膜炎　新宮凉民譯　明治七年（西一八七四）春和舍藏版

醫師の來る迄　三冊　一名救急方　檜林建三郎譯　明治七年（西一八七四）大成館藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　生谷卯兵衛氏藏

和蘭薬性歌　二册　越中　佐渡三良（名、邦）著　慶應二年（西一八六六）序　英蘭堂　刊

本書はイロハ順に薬名（和蘭語但し漢字）を記しその下に片假名にて讀方を附し各その効用を詩文にて記せり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

黴療新法　二册　荻野大見譯　明治四年（西一八七一）尚古屋藏版

その附言に『余襁褓を出て、刀圭を業とすること茲に四十年（中略）今や文明開化の時に當て老憊と險も拱手虚坐するに忍ず數年の暇を我藩廳に請ひ慶應戊辰の冬を以て走つて大學東校に入り諸先生の療妙を聞見することを得たり（中略）本書は英醫新頓氏の我が日本横濱花街の黴毒院に在て試驗する所に係れり細譯圖式纖悉至らざる所なし其遺漏する所余が歴驗する所を以てこれに加ふと。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

醫事雜誌　第三號　一册　坪井信良編輯　明治六年十二月　初白齋藏版

大阪　生谷卯兵衛氏藏

袖珍薬説　一册　柳川春蔭閲　桑田衡平譯補　明治三年（西一八七〇）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

布利私解剖圖譜　二册　中欽哉譯　明治五年（西一八七二）思々齋藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

扶氏長生法　一册　辻恕介抄譯　理外無物樓藏版

七新藥　三册　司馬淩海著　文久二年（西一八六二）　省新堂藏
大阪　岡田伊三次郎氏藏

新藥百品考　四册　坪井信良著　慶應二年（西一八六六）　初白樓藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

內外新法　三册　緒方郁藏譯　慶應二年（西一八六六）獨笑軒藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

窒扶斯新論　二册　松山棟菴譯　明治元年（西一八六八）　棲霞堂藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

痢病論　附錄　痲疹略論　一册　石黑忠悳譯　大學東校版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

掌中西醫日用方　三册　中川淡齋著　元治元年（西一八六四）日新居藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

產科論　卷一、二　合一册　高橋正純譯　大阪病院教師蘭醫　越爾蔑嗹斯口述　刊
大阪　杉本要氏藏

解體學語箋　一册　譯者 Ohno Tsookoomou とあり　明治四年（西一八七一）文部省　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

扶氏經驗遺訓 合三冊 藥方及附錄共 緒方洪菴譯 安政四年（西一八五七）刊 大阪 高安六郎氏藏

緒方洪菴 名章、字公裁、通稱洪庵、號華陰 大阪人

和蘭用藥便覽附錄共 四冊 日高凉臺著 天保八年（西一八三七）須原屋伊八刊 大阪 荒木和一氏藏

蘭學實驗 初編 一冊 神田柳郷（名充 美濃人）著 嘉永元年（西一八四八）刊 大阪 荒木和一氏藏

治痘直譯 一冊 杉田信（成郷）譯 嘉永二年（西一八四九）天直樓藏板 大阪 岡田伊三次郎氏藏

醫戒 一冊 杉田信（成郷）譯 嘉永四年（西一八五一）天直樓藏板 大阪 岡田伊三次郎氏藏

蘭法奇藥妙術集 一卷 大阪 岡田伊三次郎氏藏

蘭方ホルトス弘方心得書 一冊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

蟣鍼治要 一冊 原田善太郎譯 文久二年（西一八六二）序 察々堂藏版 大阪 荒木和一氏藏

南陽館一家言　初編　一册　浪華　賀川南龍著　賀川晉子明校　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西醫脈鑑附錄共　三册　廣瀨元恭譯　安政四年（西一八五七）時習堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

察病龜鑑　三册　青木浩齋譯　安政四年（西一八五七）含章軒藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

青木浩齋　名坦、因州藩醫

運化意識辨　一册　日高凉臺著　安政乙卯　廣瀨謙序　六々堂藏版　神戶　櫻井勘助氏藏

日高凉臺　名惟一、號六々陳人　安藝の人

變通十三方、藥品類聚、用藥便覽等の著あり。

扶氏診斷　三册　山本致美譯　大槻俊齋閱　安政五年（西一八五八）刊　大阪　生谷卯兵衞氏藏

泰西藥名早引附錄共　三册　横井圭栁譯　天保七年（西一八三六）素道舘藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

コレラ病論　一册　新宮義愼、大村恭吉共譯　安政五年（西一八五七）寧壽堂活版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

遠西醫方名物考　三十六册　宇田川榛齋譯　宇田川榕菴補　大阪　生谷卯兵衛氏藏

遠西醫方名物考補遺　九册　同　文政五年（西一八二二）靑藜閣藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

鳩䖝暮斯解體譜　一帖　天眞樓翻刻　文政九年（西一八二六）千鍾房　刊

芝蘭堂再鐫　浪華中端伊三郎銅鐫　大槻磐水の跋あり。

大阪　生谷卯兵衛氏藏

和蘭藥鏡　十八册　宇田川玄眞譯　宇田川榕本校補　文政十一年（西一八二八）凡例　須原屋伊八　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭藥手引草　一册　石原悌介著　弘化二年（西一八四五）博愛堂藏版

石原悌介　名恒、播磨の人

大阪　高安六郎氏藏

重訂解體新書銅版全圖　一册　杉田玄伯譯　大槻玄澤訂　天保十四年（西一八四三）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

竄篤兒藥性論　十六册　林洞海譯　安政三年（西一八五六）存誠齋藏板

林洞海　名彊、字は健卿、小倉の人　足立長雋門人

本書に挿む所の諸臟腑の圖は著者が享保壬戌の解視に臨て目睹せし所に據り其形狀、色彩を寫し、且つ其大小長短　輕重を量りたるものなり。本書の所說は漢洋兩間の橋梁をなすものとして解剖學史上重視すべき書籍と謂ふべしと（日本醫學史參照）

三谷笙洲　名、樸字公器、號笙洲　近江人

大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西熱病論　今本六册　吉田成德譯　文化十一年（西一八一四）　蘭馨堂藏版

吉田駒谷　名成德、字直心、稱長叔、一號蘭馨堂、加賀醫官

蘭藥鏡原　內外解環、等の著あり（西洋學家譯述目錄）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

眼科新書　六册　杉田立卿譯　松田就附錄　文化十二年（西一八一五）　浪華　河內屋茂兵衛　刊

本書は本邦に於ける西洋眼科書の嚆矢にして原著は獨逸人ヨーセツフ、ヤーコーブ、プレンキ、三氏の撰にして羅甸語なり立卿の譯したるは和蘭人マルチヌス、プロイスの蘭譯なり。附錄に藥法製煉劑部四十葉を附せり。

杉田立卿　名豫、稱立卿、一號泉堂・又天眞樓

黴瘡新書一、瘍科新選　和蘭外科要方一等の著あり（西洋學家譯述目錄）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

眼科撰要　三册　樋口星甫著　文政九年（西一八二六）　伊賀　明々堂藏板

彩色刷の眼低圖十數葉を挿入せり。竹中温、大槻茂楨の序神保恭の跋あり。

樋口臺子　號星甫、伊賀の人

和蘭醫話　二册　伏屋素狄口授　池高道等筆記　文化二年（西一八〇五）浪速　上田吉兵衛　刊

神戸　櫻井勘助氏藏

伏屋琴坂　和泉人　名素狄と云ふ

和蘭内照官能眞言　大槻磐水撰　宇田川晋序　寛政九年（西一七九七）陽華房梓

神戸　櫻井勘助氏齋

蘭療方　二册　廣川獬著　文化三年（西一八〇六）平安林喜兵衛　刊

大阪　杉本要氏藏

廣川獬　京都人、華頂親王の侍醫にして瑤池齋と號し子豸と稱す。

嬰兒論、痲診論、蘭療藥解、蘭例辭典、長崎聞見錄等の著あり（圖書解題）

醫範提綱和蘭内象銅版圖　一帖　宇田川榛齋譯述　亞歐堂銅鐫　文化五年（西一八〇八）須原屋伊八　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本圖は陸奧國須賀川人　亞歐堂主人中田善吉の鐫る所にして實に我邦銅版の解剖圖の嚆矢なり。加賀藤井方亭の題言あり。

宇田川榛齋　名榛齋、稱玄眞、一號風雲堂　津山侍醫　槐園義子

增補重訂内科撰要　十八、醫範提綱　三、遠西醫方名物考　三十六、同補遺　九、和蘭藥鏡　三等の著あり。

大阪　高安六郎氏藏

解體發蒙　五册　三谷笙洲著　文化十年（西一八一三）刊

一藏　志　二册　山脇尙德著　寶曆九年（西一七五九）跋　大阪　高安六郎氏藏

寛曆四年二月七日山脇東洋が若狹侯の侍醫小杉玄適等と共に刑屍を剖觀せる時舊說の妄を辨じ之が圖志を作り名づけて『藏志』と云ふ其說甚だ簡略なれども識見卓絕にして此書は實に我邦自著の解剖書の嚆矢なり（日本醫學史參照）

山脇東洋　名尙德、字玄飛、又子樹、初め移山と號し後東洋と改む。

解體新書　五册　杉田玄白著　安永三年（西一七七三）須原屋市兵衛刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

吉雄永章の序あり、本書は西洋醫書飜譯開板の嚆矢にしてこの譯書一度出でゝ醫界の革新を促し蘭學研究の隆運を來すに至れり。

本書飜譯の苦心談は『蘭學事始』に詳しく載せたり

杉田鷧齋　名、翼、字子鳳、稱玄白、一號小詩仙堂、又天眞樓　若州人　住江戶（西洋學家譯述目錄）

八刺精要、瘍醫新書、誘導編、等の著あり。

外科訓蒙圖彙　二册　郞光顯孝伯鑒定　門人　田敬信修庵校　明和六年（西一七六九）林宗兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

郞孝伯　名光顯　伏水人

須天求合算法指南、求合曆略、算法全書　須天堂算譜　明治塵劫記大全等の著あり。（大阪名家著述目錄）

洋算用法　一册　柳川春三著　安政四年（西一八五七）江戸　鶉鸛樓藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

筆算訓蒙　四册　塚本甫明撰　明治二年（西一八六九）沼津學校　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋算童子通　一册　明治六年（西一八七三）錦森堂　刊　横濱　輕部潄芳氏藏

洋算筆塵功記　一册　大阪　綿屋喜兵衛　刊　大阪　荒木和一氏藏

算法點竄手引草　初篇　三册　小樽　藤樹編輯　大阪　荒木和一氏藏

西洋算法開諸法　附對數法用法並表　岸俊雄著　明治五年（西一八七二）東京花街堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋算發微　一名代數不定方程式　川北朝鄰著　明治五年（西一八七二）文林堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

明治算經筆算諸乘開法術　合　二册　武田謙藏著　明治八年（西一八七五）大阪北尾墨香居梓　大阪　岡島伊八氏藏

算法窮理問答　三册　關口開著　明治七年（西一八七四）感泉堂梓　大阪　岡島伊八氏藏

六方圓器量地手引草　一冊　村田如訥著　嘉永六年（西一八五三）刊　横濱　輕部漱芳氏藏

量距尺表　析一冊　下曾根敦序　嘉永七年（西一八五四）山城屋佐兵衛刊　大阪　荒木和一氏藏

測量三角惑問　二冊　佐藤政養譯　明治五年（八西一七二）京都　井上治兵衛刊　大阪　荒木和一氏藏

佐藤政養　稱與之助　號李山、後笙溪と改む新刊輿地全國の著あり。

測量新式　二冊　福田治軒著　明治五年（西一八七二）東京　萬青堂刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は英式の陸地測量の法を記せるものにしてその凡例に曰く『此書は公命に應じ來港せる英人より、傳習し得る所を專一とし其他測量學の諸書に就いて彼國の今專用する所の陸地測量の諸法を詳說す』と云へり。

洋算

西算速知　二冊　福田理軒口授　花井喜十郎編輯　安政四年（西一八五七）凡例　須天堂塾藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

（本書は安政二年小野廣胖幕命により西洋算法を蘭人より受く、それより二年後の著なり。（岡島伊八氏談）

福田理軒　名泉、字士錢、稱理八郎、主計介、號理軒、須天堂、金塘弟

中外貨幣度量考　一册　瓜生三寅撰　慶應四年（西一八六八）竹苞樓　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

貨幣度量中外比較考改正　一册　六合魁民撰　明治四年（西一八七一）知彼知己齋藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

前記『瓜生氏度量考』の再板なり。

校正中外度量早見　一册　吉田庸德著　明治六年（西一八七三）三餘堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

舊貨幣通貨比較表　一册　慶應四年（西一八六八）太政官藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

測量

渾發(コンパス)量知速成　二册　藤岡觀瀾譯　弘化三年（西一八四六）誠格堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

渾發(コンパス)を以て陸地を測量することを圖說したるものにて上卷は用法の部、下卷は用表の部。其凡例中に『渾發、漢に是れを圓規といひ和蘭是れを『パッスル』といふ。コンパスは佛蘭西にての名なり。其始め佛蘭西人持渡りしにより今に其名を唱ふ』。「此編は渾發一本を以て遠近高低、廣狹等を量り知るの捷法を述べて敢て巧の密なるを論せず唯速に成をもつて好とす』と岩名謙の序大竹孝の序藤森知通の跋等あり。

藤岡有貞　稱雄市、號觀瀾、內田五觀の門人にして出雲の人（圖書解題）

懷中日時計 析 一册 文政三年（西一八二〇）柏原屋庄兵衛 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

西洋時辰儀定刻活測 析 一册 雲藩 小川友忠譯 佐倉 鈴木光尙校訂 安政四年（西一八二一）佐倉 鈴木源太藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

銅鐫掌中西洋時計便覽 一册 柳河春三著 大和屋喜兵衛 刊

大阪 杉本要氏藏

西洋時計便覽 一册 柳河春三著 大和屋喜兵衛 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

新編時計輯覽 一枚 明治二年（西一八六九）辻銂撰

大阪 岡田伊三次郎氏藏

セコンド一覽 一册 富山藩 宮田直儔著 明治三年（西一八七〇）越中、得祥館、一仙藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

序文に『今英國に體して西洋專ら時世銘々セコンド時計掛ると言共何分何厘を不知依て年々の曆書に在元二十四節に見て其中に分配して八日七日に替を印して初心の見安き爲めに左の圖に其時半を印し長端を見て知るべし』と

度量考

西洋度量考 一册 郡山城主 青山幸哉撰 川村直匡、中泉晋、金井湇絹校 安政二年（西一八五五）靑藜閣 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

序文に『此書原著者の姓名なく唯度量考と題せる寫本一卷あり書厨に藏して西洋砲術、兵學の書等を讀むの資となす思ふに長崎譯官の手に出るものならん』と足立欅の序あり。

百科工業新書　二冊　宮崎柳條譯　明治十三年（西一八八〇）海風閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

訓蒙化學　二冊　中川謙二郎述　明治十三年（西一八八〇）蘭微館藏梓　大阪　杉本要氏藏

西洋更紗染法書　洋一冊　明治十二年（西一八七九）東京勸業課藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

更紗の染法、茜根染　ガランシン染、蒸氣色染　精氣色染法等百餘法を歐米の洋書より拔譯せしもしなり。

増訂西洋染色法　三冊　齋藤實堯譯　明治十四年（西一八八一）再刻　東京勸業課藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

ウイリアムヘンリー化學書（蘭文筆記）一冊（寫）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西說石炭の書　一冊（寫）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

時計

西洋時規定刻範　一冊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

序に曰く『近世文物盛んにして時規の類船來や丶多く年々奇巧を極め世に專ら珍翫す。しかれども其盤面に記す所元來在記横行してその國字を解し得るに非ざれば刻數を知る事能わず依てこの定刻範の用法を以て每季節に中てその差移に從ふ時に密合するに近しといはむ』と各葉に時計の盤面を書き子牛の刻XII未丑IIといふように盤面の數字を解するに便せり。刊行年號等未詳

箋註格致蒙求　二册　靜岡　柏原學而譯　明治七年（西一八七四）尾張　永樂屋東四郎　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

序に『本書は物理化學に於て最も緊要なる術語を撮出し李瀚が蒙求に擬して理學の一端を諳記せしめんが爲めにす』と

ものわりのはしご　三册　しみづうさぶろう述　明治七年（西一八七四）刊　大阪　三宅吉之助氏藏

（一名せいみのてびき）

（淸水卯三郎の事は『英語』「いんぎりしことば」の項を參照されたし）

改正增補物理階梯　三册　同　附錄　一册　片山淳吉譯　明治九年（西一八七六）刊　天染館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

格物全書　十六册　小宮山弘道譯　明治十年（西一八七七）目黑十郞藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

原著は千八百七十年版米人フリムトンの增定せしパークルの物理書なり。

內容、物性論、重力、本重、力學、氣學、音學、熱學、光學、電氣學等

西國事物紀原　四册　西村茂樹譯　明治十一年（西一八七八）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は和蘭人オーステルゼの百物原始論より引用せるもの

百工製作新書　三册　宮崎柳條譯　明治十年（西一八七七）二書房　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

窮理新說 二册 矢須河通濟譯 明治六年(西一八七三) 文海堂刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

内容、海水雲雨の事、沸騰散の事、時計仕懸の事、鐵の銹を生ずる理解、空氣の事、蒸氣の事、風の事、颶風の事等。

智環啓蒙和解 三册 廣瀬渡、長田知儀譯述 加藤良孝畫 明治六年(西一八七三)石川縣學校藏版 大阪 岡田伊三次郎氏藏

官板物理階梯 三册 片山淳吉纂輯 明治六年(西一八七三) 大阪府學務課版 大阪 岡田伊三次郎氏藏

訓蒙畫入究理智惠のすゝめ 二册 東岸舍譯 明治六年(西一八七三) 誠之堂刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

内容、雲の事、雨の事、火山の事等を簡易に説明せり。

化學捷徑酒水製造書 附水之事 一册 水泉晴江譯 明治六年(西一八七三) 東京 文正堂刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

原著は米人ヘンリー、カリーベルの一八七〇年版を譯せるもの。

變異辨 一册 鳥山啓著 明治六年(西一八七三) 大阪 石田和助刊

(一名 天變名異捨遺)

化學の始 二册 金子精一譯 秋田縣大平學校藏板 大阪 杉本要氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

窮理發蒙　三册　魚住宗太郎　字喜田小十郎著　明治五年（西一八七二）　西京書林組合印あり發行所未詳

その序に『西洋人の説には凡て世界の雜物量かぎりなきといへども其其元質は五十有六に出ずこの五十六の元質を以て雜物師繁形に調和して悉く生化し給ふもの也』と。（下略）

大阪　荒木和一氏藏

西洋今昔袖鑒　一册　糟川潤三輯　明治五年（西一八七二）序　尙志堂藏板

神戸　櫻井勘助氏藏

登高自卑　四册　靜岡　村松良肅譯　明治五年（西一八七二）　文林堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

理學初步圖解　初編　一册　伊藤明德述　明治五年（西一八七二）　四書堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

訓蒙窮理圖說　初編　二編　四册　鈴木良藏抄譯　明治六年（西一八七三）　浪華龍章堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

窮理通　初編　二册　尾形一貫著　明治五年（西一八七二）　文苑閣　刊

大阪　杉本要氏藏

素讀究理雙紙　初號　一册　瓜生政和著　明治六年（西一八七三）　文江堂梓

巻頭に『蒸氣車鐵道往還』の圖、二編には『大千里鏡圖』をかゝげ。水を初め其他の流動體の性を論じ且其理に基きて作りたる諸器機の事を解けり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

發蒙一端 理學問答　四册　伊藤卓三譯　明治五年（西一八七二）博文堂　刊

原著は一八七〇年米人スウヰフトの物理書及クアツケンボス氏の理學書より抄譯せるもの。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋百工新書　五册　宮崎柳條著　明治五年（西一八七二）淸風閣藏梓

大阪　岡田伊三次郎氏藏

開物叢說（石鹼譯說）二册　明治五年（西一八七二）開拓使藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

窮理日新發明記事　六册　東井潔全纂輯　松光齋長榮畫　明治五年（西一八七二）文敬堂　刊

本書は主として蒸氣機關の原始來歷等を記載せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

訓蒙窮理新編　三册　永澤克久著　明治五年（西一八七二）西京　開弘書林社　刊

序に『此書翻譯の體裁を改め專ら通俗の語を用ひたるも全部英米の窮理博物の書を抄譯せるものなり』と

大阪　岡田伊三次郎氏藏

窮理和解（空氣の部）三册　中神保譯　瓜生政和校訂　明治五年（西一八七二）東京大和屋喜兵衛　刊

序に曰『西洋人橫濱に來りしより自來理學行われ今や柴かる男衣洗ふ女も世界の丸きを議論して地獄極樂を言ずなりぬ然れども洋書漢書はいろは文字の力を借り讀得る事の難きをかこてり故に是等のものゝ爲めに大氣の一部を譯するに俗言平假名を以てせり。と

訓蒙窮理問答　六冊　後藤達三譯　萬卷樓　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

奇機新話　一冊　麻生弼吉譯　明治二年（西一八六九）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

主として蒸氣機關の事を記せり。

知環啓蒙　一冊　慶應二年（西一八六六）　江戸開物社翻刻　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は西一八五六年　香港英華書院にて翻譯せるものを復刻せしなり。

知環啓蒙　一冊　明治三年（西一八七〇）　沼津學校　刊　横濱　輕部漱芳氏藏

增訂化學訓蒙　四冊　石黒忠悳譯　明治三年（西一八七〇）序　英蘭堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は『ヒルセル』及『シカラス』の化學書より抄譯せるもの。

電氣論　一冊　中神保譯　明治四年（西一八七一）　寶集堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

凡例に曰く『原書はフランス版にして即ちベレース氏及ブー、ド、モンベル氏の著したる何れも究理より抄譯せるもの云々』と

窮理早合點　初編　二編　四冊　鳥山啓著　明治五年（西一八七二）序　田中宋榮堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

一名　智海解纜

リッテル口授

官版理化日記

十二册　合本　三册　明治三年（西一八七〇）大阪　開成學校　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

官版理化日記

四册　明治三年（西一八七〇）大阪　開成學校　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

化學日記

初篇三册　二篇三册　明治七年（西一八七四）文部省　刊

大阪　杉本要氏藏

その緒言に曰く『今茲庚午の冬耳曼國理化學士ヘルマン、リッテル氏大阪理學所に來り朝に化學を編し夕に理學を習はし且つ說き且つ試む從勞するもの相與に其聞見する所を筆記す是に於て每月類聚して編を成し名つけて理化日記と曰ふ』と本書は大阪開成學校の教師リッテルの講義を當時の通譯者として在職せる平岡盛三郎氏が『理化日記』と題して刊行せるものにして後之を增補訂正して理學日記及化學日記明治七年五月文部省刊の二本となし再刊し中學程度の理化學の教科書として使用せり、原本は主として Mueller Elemente der physik Rudoeph Ahreudts Lehrbnch der chemie の二書に基きたり」と。

大阪開成學校は又大阪理學所とも稱し明治元年（西一八六八）に創立に係る大阪舍密局と明治二年の創立に成る大阪洋學校とを明治三年に併合して成れる學校にして後、五年第一番中番、同六年大阪開明學校と改稱し次で大阪外國語學校、大阪英語學校、大阪專門學校、大阪中學校の名稱を踏んで終に今の京都第三高等學校となれるなり。

大阪舍密局の頃は江戶開成所の理化教師ガラタマ氏を聘して教授となせしも後改稱と同時にガラタマ氏辭し獨人リッテル氏之に代れりといふ（世界化學史）

新法順知

一册　細川習譯　明治二年（西一八六九）響泉書屋藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

內容、水性を驗する法　兵器等を磨光して白色にする法　火力を假らずして銀の鍍金する法　麥酒の製法等

天然人造道理圖解　初編　三冊　田中大介著　明治二年（西一八六九）東京誠之堂刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

凡例に曰く『凡天地の間に道理なきものなし故に此書は究理のみならず廣く諸道具製薬の事までのせたれども盡く其道理を説示しければ名づけて道理圖解といふ』と

寫眞鏡圖說　二冊　柳川春三著　明治元年（西一八六八）中外堂刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

我國に於て寫眞術が傳つたのは安政の頃であろう。そしてその發源地は長崎と横濱の二ケ所からでそれも殆んど同時に始まつたらしい。長崎の方は上野彦馬、彦馬の寫眞術に就ては長崎市鄕土誌にあり）といふ人で安政の末年に來た佛國の寫眞師ロシエからその技を學び、文久二年に長崎で寫眞店を開いたといふ事で、横濱から出た人は下岡蓮杖（伊豆下田の人『横濱測面史』）であるといふ事だ。本書は寫眞術の理論を述べた本としては我國に於て最初のものであろうと思ふ。その凡例に曰く『寫眞映畵の術は人の眞像を留め、地の眞景を描くの良方にして其理の深遠なるや理學と化學とに原づきて起り其用の浩大なるや豈童玩弄に止まるものならんや云々』本書は蘭書ホルマン、ホトヒリユス、英書スパルリン等の書を引用抄譯せるものなり。その他寫眞の雜誌としては右の二書がある。

寫眞雜誌　合本　一冊　深澤要橘編纂　明治十年頃か　大阪　上田貞治郎氏藏

本邦に於ける月刊寫眞雜誌としては最初のものであろふ。

寫眞新法　一冊　熊谷直孝編纂　明治十一年（西一八七八）刊　大阪　上田貞治郎氏藏

舎密局開講之說　一冊　ガラタマ講說　三崎嘯輔譯　保田東潛校訂　明治二年（西一八六九）大阪舎密局刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

内容、西洋活字の鑄造法、驗温子（カンダンケイ）の製法　ギリシア文字、オロシア文字の獨案内等

杉田梅里　名信、稱成卿　號天眞樓　渡生三方三册、醫戒一　濟生備考二　治痔眞譯活版一　遠西武器圖略閱一　海上砲術全書、砲術訓蒙、山砲略説等の著あり。

舍蜜局必攜　三册　長崎　上野彦馬抄譯　文久三年（西一八六二）文溯堂藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

初篇には無機性篇（非金屬）中篇には無機性篇（金屬）後篇有機性篇（洋學年表）

上野彦馬の傳記は『長崎市鄉土誌』にあり。

重學淺說　一册　發行年號未詳なれども文久頃の支那書の復刻ならむ漢文　萬屋兵四郎　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

理學初步　二册　復刻　慶應二年（西一八六六）　和新館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

原本は Mary A Swift, First lesson an Natural philsophy なり。

秘事新書　一册　長崎　點林堂主人著　慶應四年　西一八六八）　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は和蘭書中より又洋人と對話中に得なる化學實驗法を簡易にわかり安く説明せるもの。

天變地異　一册　小幡篤次郎著　明治元年（西一八六八）　慶應義塾藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

内容雷避の柱の事、地震の事、虹の事、流星の事、火の玉の事等（明治六年七月に再版せり）

訓蒙窮理圖解　三册　福澤諭吉著　明治元年（西一八六八）　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

地震預防説 一册 宇田川興齋譯 安政三年（西一八五六） 風雲堂藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

序に『此書「瀛」往年臺命を奉して千八百四十四年刻「ネーデルシツセ、マガセイン」和蘭版より抄譯せる者なり近時我國諸州地震荐りに發し山川崩塞屋廬頽壞人畜の死後勝て數ふべからず其慘實に極まれり而して惑説在論次で行われ人皆驚駭度を失ひ惘然天を仰き太息するのみ又嘗て之を防ぎ避る術を知る者なし是を以て「瀛」今辱く稟準を得て此編を開雕するの擧に至れり』下略と

鐵熕鑄鑑 圖解編 三册 金森錦謙譯 安政三年（西一八五六） 膺懲館藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

格致問答 二册 安政三年（西一八五六） 美作、宜信齋藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

本書は一八四五年ライデン版の Natur kundig Schoolboek を復刻せるものにして和蘭文典と同じく筆記體の蘭文を木版にて印刷せるものなり。見返しに安政三年丙辰開彫とあつて上に蘭文で Natur kundik Schoolboek とありその下に格致問答初編二巻附圖 美作 宜信齋藏梓とある。

理學入門 一册 安政四年（西一八五七） 福島信夫藏板 蘭書後版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

萬寳新書 二册 宇田川興齋譯 安政七年（西一八六〇） 風雲堂藏梓

大阪 岡田伊三次郎氏藏

杉田成鄕の『萬寳玉手箱につぎて西洋書中より譯出したるもの酒の釀法、食品の貯方以下凡そ二百七十餘項あり。

萬寳玉手箱 一册 杉田成鄕譯 安政五年（西一八五八） 江戸 翻譯書院 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

蒸氣機ストームウエルキトイグ、氣壓蒸氣機アトモスヘリス、ストームウエルキトイグ、蒸氣船ストームシキツプ、蒸氣車ストームワーゲン等。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西七金譯說

木活字本　五册（三百部限定本）馬場貞由（佐十郎）譯　澁江虬鑒試　嘉永七年（西一八五四）星山閣　刊

内容は第一卷愕烏多（金と譯す）第二卷支爾弗爾（銀と譯す）革悪稀（銅と譯す）也泄爾（鐵と譯す）第三卷丁（錫と譯す）羅悪多（鉛）第四卷苦味郭織勿糸耳（水銀と譯す）上第五卷水銀の下その譯する所各々の種類性質製法產地功能等なり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

圖會蘭說三才窺管

三册　廣瀨信著　寛政十一年（西一七九九）序

天學部、人體部、地學部の三部に分ちて圖解せるもの（享和二年孔平信敏の序、文化二年、男固度の跋、同五年刊）

廣瀨周伯　名信、字周伯、號紫山園、常州人　脈源論寫、脈動儀一枚、醫事獨斷寫　天斷寫一　磁石論　等の著あり（西洋學譯述目錄）

大阪　三宅吉之助氏藏

泰西三才正蒙

三册　永井則著　嘉永三年（西一八五〇）筑前邸皡如樓藏板

永井青崖　名則、字士訓、一號皡如樓　筑前人　住江戸　本書の外に銅版萬國與地方圖の著あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

硝石製造辦

一册　佐藤信淵著　嘉永七年（西一八五四）和泉屋半兵衛　刊

大阪　杉本要氏藏

硝石製煉法

一册　櫻寧居士著　文久三年（西一八六三）文溪堂　刊

戸塚靜海卷頭に序して「舍密とは何んぞや泰西の學科なり我國と漢とに皆有ることなし。夫れ舍密の學たるや物品を離合して其性情を考究し物體を剖折して其の元質を覈明す。天地の奥も、萬有の蘊も源委顚末其の眞相實理を認めずんば則ち措かざるなりと云わり。

宇田川榕菴　名榕、號觀自在菩薩樓　津山侍醫、玄眞の義子

蘭學を馬塲佐十郎に受け幕命により飜譯に從事せり。植學啓原三册　增補和蘭藥鏡十八册　菩多尼訶經一册等の著あり。

火浣布略說

一册　平賀源内著　明和元年（西一七六四）刊　東京　加賀豐三郎氏藏

火浣布とは其原質は石綿なり『續先哲叢談によれば其材を武州秩父山に採れりといふ源内が作りしは香敷なり火浣布にて香敷を製すれば銀葉雲母にまさりて質和かなれば、香氣頗るおだやかなり、大抵三四寸のものに限れり』といふ（德川三百年史平賀源内傳）

平賀源内　名國倫、字士彝、號鳩溪、風來山人、天竺老人　紙鳶堂、森羅萬象等の戲號あり。「五百介圖」「神農本草經圖」「食物本草」「日本彰譜」等の著あり

大阪　杉本要氏藏

機巧圖彙

三册　細川半藏著　寬政八年（西一七九六）京都　石田政兵衛板

首卷上卷下卷の三册より成りからくり人形時計の如きものを圖解せり。

大阪　杉本要氏藏

增補華布（サラサ）便覽

一册　浪華　文昌堂板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

遠西奇器述

一册　川本幸民口授　田中綱紀筆記　嘉永七年　安政元年（西一八五四）薩摩府藏版

原書は一八五二刊和蘭人ファン、デル、ベルグ氏の理學原始を抄譯し主として機械類の說明を記せり内容は直寫影鏡ダケウロテーピー、

嗚呼先生既に「ヒシカ」の一端を開くと雖も天これに年を假さず全書未成の憾を遺すに至る、こゝに以て余敢て固陋を揣らず二三の西書を譯述し以て餘義を申明す而してこれを題するに氣海觀瀾廣義を以てする者は蓋し先生著す所の餘義を擴め且其遺を補ふを以てなり』と嘉永三年　坪井信良の序あり。

川本裕軒　名裕、字幸民　三田人住江戸　足立長雋の門に入り蘭學を修め。安政三年（西一八五六）洋書調所教授となる。遠西奇器述一册、化學讀本二十一册、明治八年　化學通一册、理學原始、地球理說等の著あり。

大　阪　岡　田　伊　三　次　郎　氏　藏

理　學　提　要　四册　廣瀨元恭譯　安政三年（西一八五六）　時習堂藏版

『その他嘉永七年版、安政六年版あり』

廣瀨藤圃　名恭、字禮卿、一號時習堂、稱元恭、甲斐人、住京師

坪井誠軒に從つて蘭學を修め力を理學に專する事數年にして本書を著し以て理學が醫學の基礎たる事を辨ず、是に於て物理の學は益々勃興するに至れり。（日本醫學史）理學提要後篇一册　和蘭文範（寫）新訂痘種奇法一册等の著あり。

大　阪　岡　田　伊　三　次　郎　氏　藏

舍　密　開　宗　二十一册　宇田川榕菴譯　天保八年（西一八三七）　青藜閣藏版

本書の原本は英國のヘンリー氏の Elements of Experiment of chemistry にして獨乙のトロムスドルフ之を獨語に譯したるを和蘭のアドルフ、イツペイが更に之を蘭譯し一八〇八年即ち文化五年にアムステルダムにて出版したるものなり。內篇五卷と外篇一卷とより成り、外篇には定性鑑識法及各種製造法等を論し卷尾に鑛泉誌を揭げたり。林宗が我國に西洋の物理學を移植してより十餘年後の天保八年（一八三七）に始めて榕菴によりて舍密（即ち化學）が我國に紹介せらるゝにいたりしなり。（世界化學史參照）

京都　杉浦丘園氏藏

氣海觀瀾　一册　青地林宗著　文政十年（西一八二七）序　江戸　和泉屋吉兵衛等板

本書は林宗が嘗て著す所の物理學書（蘭人ボイスの『アルゲメーネ、ナチユールキユンデフ、スコールブーク』を譯したる）『格物綜凡』の要を採擇し以て本書を公にせるものにして之を以て我國に於ける物理學書としての嚆矢となすしかれども本書は僅に理學の一端を開きたるに止まりその譯語難解にして殊に當時の耳目に新なるが爲め其意義に通じ難き點少からずといふ。
（文政八年の凡例同十年桂清遠の序あり）

青地芳滸　名盈、字子遠、稱林宗、江戸人父は松山藩の侍醫なり林宗少にして漢醫方を修め文化の始め譯官馬場佐十郎に蘭書を學び最も力を究理の學に用ゆ、後幕命を奉して杉田立卿と共に天文臺にあつて蘭書の飜譯をなせり。その他の著書に輿地誌（寫）六十五卷、輿地誌略、居家備用（寫）七册、公私貌爾觚内科書（寫）十八册、依百乙藥性論等あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

氣海觀瀾廣義　十五册　川本幸民著　嘉永四年（西一八五一）　靜修堂藏版

林宗の『氣海觀瀾』は我國に於ける物理學書の第一書となすもその用語難解なる爲あまり行われず幸民の氣海觀瀾廣義出でゝ初めて物理學の系統を全ふする事が出來たのである。その凡例に曰ク「ヒシカ」は和蘭語にこれを「ナチユールキユンデ」と云ひ先哲譯して理學と云ひ天地萬物の理を窮むるの學にして上は日月星辰より下は動、植、金石に至るまで其性理を論辨して一も殘す所なし、此學たるや諸藝百工の源にして千百の事物須臾も此理を離るべからず（中略）青地先生氣海觀瀾を著せしに其世に行わるゝ事已に十年海内有志のこれを珍とする者多し、但し其書たるや理科綜凡中の拔萃にして極めて簡略なる者なり覽者其語の耳目に新にして意義の全く通し難きに苦しむ

文久元年（西一八六一）刊　大阪　河内屋太助　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

颶風新話　二册　伊藤愼譯　安政四年（西一八五七）大野藩　洋學舘藏版　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

航海金針　一册　安政四年（西一八五七）薩摩府學聚珍版　岡田屋嘉七　刊

船海業者の爲めに颶風の豫知方豫避法等を主として說述せるもの緖方章、杉田信の序内山良隆の跋あり。　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

星學初步　一册　大屋平次郎著　明治四年（西一八七一）金澤學校藏版　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

星學圖說　二册　神田孟恪譯　明治四年（西一八七一）東京　中外堂　刊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

星學圖彙　一册　神田孟恪譯　明治四年（西一八七一）東京　中外堂　刊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

太陽曆圖解　一册　橋爪貫一著　明治四年（西一八七一）　刊　　大阪　杉本　要　氏藏

天文錦之緖　一册　吉良儀風述　明治六年（西一八七三）中外堂　刊

はれたといふ』に對照して類似の點あるを發見し斯書を作りたるなりと云ふ『圖書解題』筆福史に『文政末年の頃梵曆の天文は元來釋迦の經文より出たる有名無實の方便なり 人を狂惑するは妄說なりとの理由にて須彌山儀銘、梵曆策進等と共に悉く公儀より賣買を禁止せらる』とあり。

圓通 字、珂月、號、無外子、稱 普門阿闍梨、天台宗の僧 佛國曆象編問答書一卷、實驗須彌界說三卷 須彌山儀銘二卷 梵曆策進一卷等の著あり（國書解題）

大阪 荒木和一氏藏

西說觀象經 折 一册 吉雄俊藏述 文政五年（西一八二二）伊藤篤太郎藏版

西洋科學說に基きて天體天象の大要を述べ物質不滅の概說を記したるものなり（國書解題）

吉雄南皐 名尙貞、字伯元、初名、常安、稱、俊藏 後改 常三、長崎人、仕尾張、又號觀象堂

和蘭內外要方十二、觀象圖說三、天象圖說等の著あり（西洋學家譯述目錄）

大阪 岡田伊三次郎氏藏

理學入式 遠西觀象圖說 三册 吉雄俊藏著 文政六年（西一八二三）名古屋 觀象塾藏板

京都 杉浦丘園氏藏

理學入式 遠西觀象圖說 附錄地動或問 四册 吉雄俊藏口授 草野雨員筆記

文政九年（西一八二六）尾張 永樂屋東四郎 刊

前書『西說觀象經』を圖說せるもの。文政六年尾張藩 秦鼎の序濱松藩高津豫の跋あり。

京都 杉浦丘園氏藏

談天 初編 二編 六册 英、侯先勒原本 清、李善蘭删述 英、偉烈亞力口譯 福田泉訓正

に於て天球を以て圖用の第一となす翫弄の爲に非ず』と

京都 杉浦丘園氏藏

平天儀　一舗　巖橋嘉孝著　享和二年（西一八〇二）大阪　池内八兵衛等　刊

巖橋善兵衛は玉工なり、泉州泉南郡貝塚村の人、寛政年中一種の望遠鏡を發明し天文を窺ふ日は四邊に氣ありて毛髮の如く其氣朝には左旋し夕には右旋し日中にば黑點數箇ありて大小等しからざるを觀る月は其の虧くる所泡沫の如く月中には雪輪文に似たる者三箇ありて又蠶豆の如きもの二箇あり極めて鮮明にして光芒四方に發するを觀る歳星は星面に三帶あるを觀る鎭星は星面に一つの輪あり斜に本星に纏へり而して其の輪左の方は本星の上に懸り右の方は本星の下に入るを觀る銀河は細小の星數十百千聚りて紗囊に螢を盛るが如きを觀る奇巧實に嘆賞すべし』と（工藝志科）

大阪 岡田伊三次郎氏藏

平天儀圖解　一册　巖橋嘉孝著　享和二年（西一八〇二）大阪　池内八兵衛等　刊

京都 杉浦丘園氏藏

天文捷徑平天儀圖解　一册　巖橋嘉孝著　橘春暉跋　享和二年（西一八〇二）大阪　池内八兵衛等　刊

京都 杉浦丘園氏藏

刻白爾天文圖解　二册　司馬洪漢著　文化五年（西一八〇八）春波樓藏板

京都 杉浦丘園氏藏

佛國暦象編　五册　僧圓通著　文化十二年序（西一八一五）東叡大王府藏版

印度傳來の暦學を詳述したるものなり、佛教の經論中に散見せし天文學の斷片を輯錄しこれを西洋天文學『當時西川如見等の著述世に行

天象管窺鈔　一册　長玄珠著　安永三年（西一七七三）平安　佐々木總四郎板

京都　杉浦丘園氏藏

長久保赤水　名玄珠、號子玉號赤水、源五兵衛　水戸　赤濱村人

著書多く萬國地球全圖、東奥紀行、長崎紀行、安南國漂流記、諸國產物記等

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭天說　一册　司馬洪漢著　寬政八年（西一八九六）春波樓藏板

『遠西の諸州は格物窮理を學んで天性空言虛談妄說を不ㇾ爲近を不ㇾ取必ず遠を慮て目前の利を不ㇾ言且は萬巧精妙にして他州之に不ㇾ及故に天地の圖は之に本く』と又曰く『天文學に三道あり一は星學二、は曆算學三、は窮理なり』と

大阪　岡田伊三次郎氏藏

銅版天球全圖　司馬洪漢製　寬政四年（西一七九二）春波樓藏版

一、天・球圖　一舖　大地浮天之圖　一枚
一、屋耳列禮圖解　一枚　地球楕圓圖　一枚
一、太陽眞形　一枚　月輪眞形　一枚
一、潮候圖　一枚　天經或問圖　一枚
一、屋耳列禮圖　一枚　その他顯微鏡小蟲の圖雪の圖　二枚

和蘭天說の凡例に『予曩に地球全圖を新製す亦其法を繼で西洋の人齊しきたる天球の圖を得て自ら銅に鏤む已に成、然るに遠西の人圖する所の天球と此日本諸家用ゆる所の天球諸星頗異なり今斯に摹製する所の天球の圖は彼國の法を以て星の大小を六等に分ち畫圖をなして星辰を示す遠西の人世界萬國に商舶を通じ到らざるの國鮮し洋中一度の外に出れば山嶽見ゑず故に天を以て船の行を計り驗符標的とす玆

d 天文及理化工學に關するもの

一 天文學

京都　帝國大學附屬圖書館藏

乾坤辨說　四卷　寫

寛永二十年（一六四三）ジョセイフ岡本三右衛門等の一行が筑前大島に來航して捕へられその審問を受ける際に彼等の中で天文に精しき者があつて天文書を井上筑後守に差出したのを二三年後之を忠庵に飜譯させ忠庵は之を倭譯するに當つて我國の文字が書けぬので洋字で寫取つた。それを西吉兵衛、向井元升によつて和文に筆記して出來上つたものが乾坤辨說中の本說で、この忠庵の本說に對して南蠻學家の所論を辯駁したのが即ち本書　乾坤辨說　四卷である（南蠻記參照）本槻文庫書目に慶安三年　澤野忠庵譯、向井元升辨說、忠庵は南蠻歸化人なりとある。原序、慶安三年向井の序文は萬治二年である。

新村出氏は南蠻記に本書の本說は忠庵の飜譯でなく自著であろうと云つて居られる。南蠻說『乾坤辨說の原述者澤野忠庵』に詳細の解題あり。

天文書では本書の外に本木仁大夫の天地二球用法（寫（寛政三年）と志筑忠次郎（中野柳圃）の曆象新書　寫　八册（寛政十年自序）がある。

（曆象新書の解題は新村出氏の日英關係圖書展覽志にあり）

虞書曆象俗解　二册　西川如見著　享保五年（西一七二〇）平安　茨城多左衛門板

京都　杉浦丘園氏藏

天主聖像略説　一冊　寫　杞憂道人識　　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

伴天連記　一冊　寫　黑川眞賴舊藏本　　大阪　鹿田文一郎氏藏

耶穌天誅記　三冊　寫　肥嶋　村井昌弘輯錄　黑川眞賴舊藏本　　大阪　鹿田文一郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

玖瑰花冠記錄（ろざりよ）　洋一冊　石版刷　明治二年（西一八六九）マニラ版

卷頭に『じわんでるへた翻譯、あるりなりよの免しを蒙りまにらにおいて板に開くものなり御出世より千六百二十三年とあり、その次に『じわんでるへたは、いすぱにやに生れ二十四年の間日本神父の勤をいたし終り琉球に於て天主に對して首を刎られ海に沈められ給ふものなり。

此度我天主の御榮福と御母さんたまりやの御譽れの爲又日本切支丹のあにまの扶かりを得さんが爲に今再び梓に鏤める。

御出世以來千八百六十九年日本明治二巳四月二十五日まにらにおいて是を記す『日本司敎べるなるど』とある四六倍版全文日本文にて一章ごとに佛敎臭味の圖案の中に銅版風の敎書を石版にて印刷してあるのが特に面白い。御出世より千六百二十三年（元和八年）まにらにて板を開くとあるからこの「じわんでるへた」の著した玖瑰花冠記錄といふ日本文の耶蘇敎本が當時マニラに於て刊行せられ居つたものと思る。琉球に於て首を刎られ海に沈められたといふ本書の著者『じわんでるへた』の事も調べたいと思つてゐるが、時日がないので解説を附けない事にした。識者の示　を待つ。

辨妄和解　一册　安井息軒著　安藤定和解　明治六年（西一八七三）刊　大阪　荒木和一氏藏

耶蘇教の無道理　三册　藤島了穩著　明治十四年（西一八八一）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

切支丹の聖教　一册　明治十六年（西一八八三）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

破邪編　一册　富樫默惠著　明治十六年（西一八八三）靜脩堂刊　大阪　荒木和一氏藏

辨斥魔教論　二册　目賀田榮著　明治十九年（一八八六）弘文堂刊　大阪　荒木和一氏藏

洋教辨略　一册　久保秀茲述　大阪　杉本要氏藏

鎖國論　附尾　一册　木活字本　覺世道人識　嘉永六年（西一八五三）刊　大阪　荒木和一氏藏

耶蘇宗門興廢記　一册　寫　（明和六年）　大阪　荒木和一氏藏

耶穌征伐記　三册　寫　大阪　荒木和一氏藏

南蠻寺興廢記　一册　慶應四年（西一八六八）刊　大阪　荒木和一氏藏

本書は天正年間に信長が布教のためにとて京都に建立したる南蠻寺の由來を詳記せるものにて正保五年の著なり、見返しに排刷以頒同行不許行肆發版とあり杞憂道人の序『筆禍史に幕府は本書に絶版を命ぜり』とある。

崎陽茶話邪教始末　一册　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

　　　　　　　　　　　　　　大阪　荒木和一氏藏

劈邪論　二册　靈遊著　慶應元年（西一八六五）芙蓉館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

耶蘇一代辨妄記　四册　田島象二著　明治七年（西一八七四）任天社藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

天道溯原解　三册　マルチン原著　嘉魯日耳士（カラアヅルス）譯　明治七年（西一八七四）築地　嘉魯日耳士藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

耶穌教意問答　二册　田島象二述　明治八年（西一八七五）萬笈閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新約全書評駁　三册　田島象二著　明治八年（西一八七）任天社藏版　横濱　輕部漱芳氏藏

新約聖書羅馬書　一册　明治十年（西一八七七）横濱　刊

闢邪管見録　二册　杞憂道人著　文久元年（西一八六一）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

斥邪漫筆　一册　深慨隱士著　憂國野叟校　慶應元年（西一八六五）序　衛道書屋梓　大阪　岡田伊三次郎氏藏

深慨隱士　超然、一名を若英號虞淵眞宗本願寺の僧（吉野作造氏新井白石とヨワン、シローテ）

斥邪二筆　一册　深慨隱士著　慶應二年（西一八六六）序　大阪　岡田伊三次郎氏藏

破邪餘論　一册　安政二年（西一八五五）卍字堂藏梓　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

閑邪存誠　一册　大阪　杉本要氏藏

見返しに市明威德　佛陀加護　怨讎兵革　皆當誚仗とあり。慶應改元　獨醒舘藏梓

護國新論　一册　慨癡道人述　慶應元年（西一八六五）淸風舘藏版　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

耶蘇結末記　一册　慶應四年（西一八六八）刊　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

深慨十律　一册　淮水老杜多著　介石識　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

破提宇子 一册 ハビアン著 大阪 岡田伊三次郎氏

戊辰仲春 杞憂道人再刻、巳巳晩夏、卍堂逸人の跋あり。

本書は元和版の再刻なり。著者ハビアンは惠春と稱する加賀の禪僧なりしが流浪の末京都南蠻寺に入りて西教に歸依してハビアンといふ教名を得て布教に盡したが南蠻寺の破壞後九州に渡り彼地に於て飜譯事業に從事せしといふ。後ある事情にて轉宗し奈良に餘生を送つたといふから原本はその當時の著ならむ（新村博士南蠻記）

島原合戰記 三册 寶永元年（西一七〇四） 刊（但し本書は後刷本） 大阪 岡田伊三次郎氏藏

本書は島原一揆の顚末を當時の從軍者が記述したるもの一名天草軍記とも云ふ後幕府は絕版を命ぜしといふ。

破吉利支丹 一册 鈴木正三著 大阪 荒木和一氏藏

寛文二年（西一六六二）跋 京都 柳枝軒小川多左衛門 刊

闢邪小言 四册 大橋訥菴著 嘉永五年（西一八五二）序 江都 思誠塾藏版 大阪 岡田伊三次郎氏藏

本書は洋學を邪說とし大毒ある學問として蛇蝎の如くこれを排斥したるもの。

隔韡論 一册 鹽谷世弘著 安政六年（西一八五九）快風堂藏梓 大阪 岡田伊三次郎氏藏

闢邪集 二册 杞憂道人著 萬延元年（西一六〇） 刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

標紙、内容 第一頁 寫眞二枚　東洋文庫出品

日本辭彙（日葡對譯辭書）

一冊　ロドリゲス編　慶長八年（西一六〇三）長崎　刊

本書の原本はオックスフォード、ボドレイ文庫の所藏にて東洋文庫所藏本はロートグラフ本なり。ロドリゲス（一五五九―一六三三）は葡國の人、一五八五年（天正十三年）日本に來り邦語に熟達す。秀吉及家康に寵せられてその通譯として葡國關係の事一切を司る西人逐放の際にも特に留るを許されたり。澳門に死す。一六三〇年マニラに於てその西班牙譯出版せられ一八六二年より六八年に亘りレヲン、パジエス巴里に於てその佛譯を上梓せり。（東洋文庫書目）

標紙、内容第一八一頁、寫眞二枚　東洋文庫出品

日本文典

ロドリゲス撰　慶長九年（西一六〇四）長崎　刊

本書の原本もオックスフォード、ボドレイ文庫にあり。東洋文庫所藏本はロートグラフ本なり。

こんてむつすむん地

一冊　慶長十五年　西一六一〇）京都活版　（但シ稀書復製會本出品）

東京　林若吉氏藏

三　耶蘇教に關するもの

破提宇子

一冊　ハビアン著　元和六年（西一六二〇）　刊

京都　帝國大學附屬圖書館藏

（新村博士著南蠻記『天草吉利支丹版の平家物語拔書及び其編者について』の項に詳細の解題あり）

平家物語　一冊　文錄元年（西一八六二）天草　刊

標紙、內容三頁寫眞二枚　東洋文庫出品

本書の原本は倫敦大英博物館に唯一部藏せるものにて東洋文庫に所藏せるはロートグラフ本なり。俗語體の平家物語を右馬之允なる者の求めに依り喜一檢校なる者が對話的に語る形をとれり。サトウ氏「日本耶蘇會刊行書史」及び新村出氏の南蠻記に詳細の解說あり。（石田幹之助氏）

金句集　一冊　羅馬字綴邦文　文錄二年（西一五九三）天草　刊

標紙寫眞一枚　東洋文庫出品

本書は前書『平家物語』に合綴せられ『金句集』と題せるものにしてアルファベット順に格言を配列し俗言を以て之を註釋せり。（新村出氏南蠻記に詳細の解題あり）

伊曾保物語　一冊　文祿二年（西一八六三）天草　刊

卷首寫眞一枚　東洋文庫出品

本書も東洋文庫所藏なり（但しロートグラフ本）イソップ物語の口語譯にして冠するにイソップの傳記を以てす。西洋文學の初めて本邦に飜譯せられたるものとして記憶すべし。後この物語に元和版（慶長版もありと傳ふ）萬治版の二種あれどもこの文祿譯本とは內容文章を異にす。新村出氏「文錄舊譯伊曾保物語」『藝文』第一年に詳細の解題あり。（石田幹之助氏）

サルヴアトール、ムンデイ（救世主）　慶長三年（西一五九八）長崎（？）　刊

標紙裏、內容二二葉裏、寫眞二枚　東洋文庫出品

本書の原本は羅馬カサナテンセ文庫にあり。東洋文庫所藏本はロートグラフ本なり。草體漢字平假名交り文、半紙判　懺悔の書なり。サトウ氏書目に解說あり。（石田幹之助氏）

ごちりな、きりしたん　一册　刊年刊地未詳　初葉裏、第三葉表、寫眞二枚　東洋文庫出品

本書の原本は羅馬バルベリニ文庫の所藏なり（東洋文庫所藏はロートグラフ本）美濃判、草體、漢字平假名交り。サトウ氏書目に解設あり（石田幹之助氏）

標紙、標紙裏、寫眞二枚　東洋文庫出品

ごちりな、きりしたん　一册　慶長五年（西一六〇〇）長崎　刊

本書の原本は羅馬カサナテンセ文庫所藏、美濃紙摺り草體漢字交り平假名文、標紙下部に Nagasapui ex officina Goto Thome soin typographi Societatis Iesa とあり。新村博士は Goto Thome soin を後藤登明宗印に充つ。サトウ氏書目に解說あり。（東洋文庫書目）

標紙寫眞一枚　東洋文庫出品

聖教精華　一册　バレト編　慶長十五年（西一六一〇）長崎　刊

本書は東洋文庫所藏本なり。タイトルページに Flosculi ex veteris, ac Novi Testamenti S. Doctorum, et Insignium philosophorum floribus selecti. nagasaqui 1610 とあり。

一　著者 Emanuel Barretus.

二　大きさ、用紙、堅、約八寸　横、約六寸　上質厚手雁皮紙

三　內容、頁數一九〇頁　インデックス　二頁

新舊兩約全書、希臘羅馬の賢哲の書及び中正の高僧の抄物より拔萃せる名句集、その項目をＡＢＣ順（拉丁語にての）に配列せり。慶長の頃邦人の一部に斯くの如き歐西の古典の幾分にても傳へられしは興味ある事實なり。詳細は「藝文」第六年に解題あり。（石田幹之助氏）

標紙、寫眞一枚　東洋文庫出品

ごちりな、きりしたん　一册　羅馬字綴邦文　文祿元年（西一五九二）天草刊

本書はモリソン文庫所藏の長崎版耶蘇會刊行本の一つで文庫の規則として貸出不可能の爲特に原寸大の寫眞と石田幹之助氏の解說を附して出品願へり。

タイトルページに『日本のゼスのコンパニアのスペリオーレスよりキリシタンに相當のことはりを互の問答の如く次第を分ち給ふドチリーナ』天草一五九二と『ポルトガル流の羅馬字綴』あり。

一　著者、不明　耶蘇會の宣教師なる事疑なかるべし。

二　大さ用紙、堅五寸三分　横約三寸五分　上等厚手雁皮紙

三　內容、問答體に耶蘇敎の敎義を說きたるもの（一—一〇〇頁）之に附するに「もろ〳〵のキリシタン知るべき條々の事」一〇一—一〇六頁（「ドチリイナの中、言葉によつての和解」）（一〇七—一一四頁）最後の一項は日本語葡萄牙語對譯字書なり。

四　其他　標紙（タイトルページ）には中央に「銅版」ヤソの像を出す。その下に Ego sum via et veritas, et Vita（我は途なり、眞なり生命なり）といふヨハネ傳第十四章の聖語を譯す。

右は東洋文庫の外に世に傳本なく、サトウ氏書目之をあげずパジエース氏コルヂィエー氏以下みな之をあげず、本書は元、スペイン國エヴオラの大僧正テオトニオ、デ、ブラカンサ師の所藏なり、同師に贈れる日本滯在の宣敎師の贈呈文あつて之を知る。

詳細は「藝文」第六年に新村博士の解題あり。

ロドリゲス撰　日本文典　慶長九年　長崎刊　標紙

ARTE DA LINGOA DE IA-
PAM COMPOSTA PELLO
Padre Ioão Rodriguez Portugues da Companhia de IESV diuidida em tres
LIVROS.

COM LICENÇA DO ORDI-
NARIO, E SVPERIORES EM
Nangaſaqui no Collegio de Iapão da
Companhia de IESV
Anno. 1604.


VOCABVLARIO
DA LINGOA DE IAPAM
com adeclaração em Portugues, feito por
ALGVNS PADRES, E IR-
MÃOS DA COMPANHIA
DE IESV.

COM LICENÇA DO ORDINARIO,
& Superiores em Nangasaqui no Collegio de Ia-
PAM DA COMPANHIA DE IESVS.
ANNO M.D.CIII.

ロドリゲス「日本辭彙」慶長八年 長崎刊 標紙

東洋文庫出品

ロドリゲス「日本辭彙」慶長八年長崎刊標紙

VOCABVLARIO DA LINGOA DE IAPAM

com adeclaração em Portugues, feito por

ALGVNS PADRES, E IR-

MAÕS DA COMPANHIA

DE IESV.



COM LICENÇA DO ORDINARIO,

& Superiores em Nangasaqui no Collegio de Ia-

PAM DA COMPANHIA DE IESVS.

ANNO M.D.CIII.

東洋文庫出品

羅馬字綴「伊會保物語」文祿二年天草刊　卷首

ESOPONO FABVLAS.

Latinuo vaxite Nippon no cuchito nasu mono nari.

IESVS NO COMPANHIA NO Collegio Amacusa ni voite Superiores no gomen-quiouo comuri, coreuo fan ni qizamu mono nari.

Goxuxxe yori M.D.L.XXXXIII.

羅馬字綴「伊曾保物語」文祿二年天草刊 巻首

ESOPONO
FABVLAS.

Latinuo vaxite Nippon no
cuchito nasu mono nari.

IEVS NO COMPANHIA NO
Collegio Amacuſani voite Superiores no gomen-
qiotoxite coreuo ſanni qizamu mono nari.
Goxuxxe yori M. D. L. XXXXIII.

東洋文庫出品

XIXO, XIXXŌ

nadono vchiyori nuqi idaxi, qiñcuxŭto naſu mono nari.

Vôcata ſoreſoreni chǔſuru mono nari.

A

Ayamachiuo xitte canarazu aratamu.

Cocoro. Ayamarino arucotouo xiraba, aratamuruga yoizo.

Ayamatteua aratamuruni, fabacarucoto nacare.

Cocoro. Ayamariuo nauoſu cotouo fazzuruna.

Axitani michiuo qijte yǔbeni xiſutomo, ca nari.

Cocoro. Aſa monouo narŏte, yǔbeni xiſurutomo yoizo.

B

Biŏcano curiyeni caxen naqiniua arazu:imaxi ſono ſito yoqu xocuxezarugayuyeni, tçuini xiſu:rangocuno quanni qenjin naqiniua arazu:imaxi ſono qimi coreuo yoqu mochijzaruga yuyeni,tçuini forobu.

Cocoro. Vazzurŏ monono iyeni ſacanano naideua nai: biŏja xocuxi xenuni yotte, tçuini xiſuru: midaruru cunino vchinimo qenjinua aredomo, ſono yqenuo tçucauanu yotte ,tçuini foroburu.

Bamo ſono couo yaxinatte voxiyezaruua, core ſono couo aixezaru nari.

羅馬字綴「平家物語」　文祿元年　天草刊　標紙

NIFON NO COTOBA TO

Historia uo narai xiran to

FOSSVRV FITO NO TAMENI XEVA NI YAVA RAGVETARV FEIQE NO MONOGATARI.



IESVS NO COMPANHIA NO

Collegio Amacusa ni voite Superiores no go menqio to xite core uo fan ni qizamu mono nari.

Go xuxxe yon M. D. L. XXXXII.

東洋文庫出品



どちりなきりしたん　慶長五年　長崎刊　標紙

東洋文庫出品


DOCTRINA CHRISTAM.

御出世以来千六百年

これはきりしたんの

どちりなきりしたん

をしへといふぎ

慶長五年六月上旬

NAGASAQVI EX OFFICINA
Gotô Thomæ Sôin typographi Societatis IESV.
Cum facultate Ordinarij, & Superiorum.
Anno. 1600.

「どちりな、きりしたん」

慶長五年　長崎刊　標紙

東洋文庫出品

東洋文庫所藏品

羅馬字綴「ドチリナキリシタン」文祿元年天草刊 標紙

羅馬字綴「ドチリナ・キリシタン」文禄元年 天草刊 標紙

NIPPON NO IESVS no Companhia no Superior

yori Christan ni sōtō no cotouari uo tagaino mondō no gotoqu xidai uo vacachi tamō

DOCTRINA.



EGO SVM VIA, ET VERITAS, ET VITA

IESVS NO COMPANHIA NO COLLEgio Amacusa ni voite Superiores no von yuruxi uo cōmuri, core uo fan to nasu mono nari. Toqini go xuxxe no NENQI. 1592.

東洋文庫出品

西學凡（附西學十誡序并反論） 寫 大阪 鹿田文一郎氏藏

艾儒略答述（伊太利人シユリオ、アレニオ）、職方外記の原著者 文政癸未正月 高橋景保識語

大阪 鹿田文一郎氏藏

畸人十篇 二册 寫 利瑪竇述（Mattes Ricci）伊太利人

幾何原本、著琴曲意、同文集、指通神、勾股義、容圓較義等の原著者

大阪 鹿田文一郎氏藏

泰西水法 一册 熊三板著（Sabbatuus Ursis） 伊太利人 白河樂翁舊藏本

表度說、簡平儀說等の原著者

大阪 鹿田文一郎氏藏

表度說 天問略 簡平義 合本一册 寫 熊三板著（Sabbatuus Ursis） 白河樂翁舊藏本

大阪 鹿田文一郎氏藏

圜容較義 測量法義 測量異同 勾股義 合本一册 寫 利瑪竇（Mattes Ricci） 白河樂翁舊藏本

大阪 鹿田文一郎氏藏

渾蓋通憲圖說 合本一册 季之藻著 白河樂翁舊藏本

大阪 鹿田文一郎氏藏

絕徼同文紀 取要目錄 一册 寫

大阪 鹿田文一郎氏藏

古今萬國英婦傳　二册　關信三譯　明治十年（西一八七七）集賢閣梓　大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界蒙求　前編二册　平井正、松居眞房同輯　明治十年（西一八七七）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

ギゾー歐羅巴文明史　合一册　永峰秀樹譯　明治十年（西一八七七）東京奎章閣刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

日本洋學年表　一册　大槻修二編　明治十一年（西一八七八）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

猶里氏原撰法蘭西志　二册　高橋二郎抄譯　明治十一年（西一八七八）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

二　徳川幕府禁書

御國禁耶蘇書目　版木一枚　大阪　鹿田文一郎氏藏

『徳川幕府は元祿十一年（西一六九八）大阪町奉行松平玄蕃頭より左の書は耶蘇教に關する書なるを以て國禁とせらるゝに由り賣買を禁ぜらるゝ旨、大阪書林一般に申渡しあり右に付き其の書目を列記し書林の店頭に掲示せり』徳川時代書籍考

（禁書に關する詳細は近藤正齋の好書故事の禁書の部を參照ありたし）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

米利堅志　二册　岡千仞　河野通之共譯　明治六年（西一八七三）光啓社　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利史略　二册　和田義郎譯　明治六年（西一八七三）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

近世事情　十册　山田敏著　明治六年（西一八七三）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界智計談　三册　村田尙志輯　明治七年（西一八七四）金松堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋言行錄　二册　矢野文雄譯　明治七年（西一八七四）東京　甘泉堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

古今萬國總鑒錄　三册　英　模禮菘原著　大槻誠之訓點　明治七年（西一八七四）東生龜次郎　刊
大阪　三宅吉之助氏藏

西洋開化史　二册　飜譯局譯　明治八年（西一八七五）印書局　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西列女傳　二册　白勢和一郎譯　明治九年（西一八七六）　刊

萬國奇觀　二册　鵜殿長養譯　明治四年（西一八七一）　聽雨亭藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西史年表　三册　西村鼎（茂樹）譯　明治四年（西一八七一）　日新堂梓　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蝦夷年代記　一册　明治三年（西一八七〇）多氣志樓藏版　大阪　中村正二郎氏藏

西洋夜話　二册　石川寧靜學人著　明治四年（西一八七一）　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

孛佛戰記　五册　芳川萬二郎　菅原俊雄共譯　明治四年（西一八七一）　千鍾房　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

訓蒙海外各國史畧　三册　谷井元次郎、田中耕造著　明治五年（西一八七二）　千鍾房　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋英傑傳　六册　作樂戶痴鶯譯　明治五年（西一八七二）　知新館　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋史畧　一册　木活字本　明治五年（西一八七二）　刊　大阪　中村正二郎氏藏

清英近世談　五冊　武陽　早野惠譯　嘉永三年（西一八五〇）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外人物小傳　五冊　時々夢齋著　嘉永六年（西一八五三）　萬邦樓藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋武功美談　一冊　蘭文飜刻　萬屋兵四郎　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國志　五冊　英　慕維廉原著　文久元年（西一八六一）　長門　温知社藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

あめりか華盛頓軍記　六冊　鈴木彌堅外史譯　慶應二年（西一八六六）寶集堂　刊　大阪　岡田伊三次氏氏藏

清英交際始末　二冊　杉田晋齋譯　明治二年（西一八六九）尙古堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋易知錄　八冊　河津孫四郎譯　明治二年（西一八六九）　知新館藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英國史畧　一冊　飜刻　明治三年（西一八七〇）　渡部一郎藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

露西亞漂流記　三冊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

c　史傳及宗教に關するもの

一　西洋歷史及傳記

墨利加沿革總記和解　一册　正木篤著　嘉永七年（西一八五四）常惺簃藏版　大阪　荒木和一氏藏

新譯合衆國小誌　二册　小關高彥譯　安政二年（西一八五五）知芳堂藏板　大阪　荒木和一氏藏

遠西紀畧　二册　大槻西磐著　鹽谷宕陰の序　安政二年（西一八五五）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利紀畧　一册　清、陳逢衡著　荒木謇訓點　嘉永六年（西一八五三）和泉屋善兵衛刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外異傳　一册　齋藤德藏著　嘉永三年（西一八五〇）惜陰書屋藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

船長日記　三冊　池田寛親編　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

吹流天笠物語　一冊　筑前國唐伯孫七述　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

筑前船漂流記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

初太郎北亞米利加漂流記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

奥州氣仙郡三之亟蠻島漂流記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

明和船日記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

安具郡漂流人物器械圖　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

外國漂流記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

幸太夫漂流記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

魯西亞人來朝記　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

勢州白子漂民御覽御回答記　二册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

幸太夫磯吉御覽記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

南漂記（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬次郎北米漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

異國漂流物語　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂客談奇（漂流奇談全集原稿本）　三册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

露西亞雜談　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

紀州善助渡米錄　三册　天保申辰　那波希顏識　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

無人島談話　三册　薩摩侍臣　曾槃識　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

流蕃通書　九册　次郎吉口述　憂天生手錄　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

幸太夫大全（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

薩州漂客見聞錄（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

松前船淸國漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

韃靼漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

馬丹島漂流水夫共口書之寫　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

天壽丸漂流談（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊次三郎氏藏

嘉永二年紀州天壽丸寅吉船十三人乘が江戸へ蜜柑を送り其の歸帆中風浪の爲めに大洋中を漂流し數月の後異國に漂着し後歸朝したる時の聞書なり。

漂海記聞（漂流奇談全集原稿本）　五册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂流叢書（漂流奇談全集原稿本）　九册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂客壽三郎通信　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

寛文十三年韃旦國漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和解異國船書翰　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂客奇談（萬次郎漂流記）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏

漂客談話（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏
（督乘丸魯國漂流記　小平次異國漂着話）

巴旦漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

紀州善助米利幹漂流記　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂流談雜綴（漂流奇談全集原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

無人島漂客（土佐岸本浦長平等無人島漂流一件始末）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

漂流記（紀州彌市米國漂流談）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

讃州漂流人勝之助口書一件　一册　寫　天保三年八月　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

漂語六種　一册　寫　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

安南漂流物語　一册　寫　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

天笠德兵衞傳　一册　寫　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

片だより（漂流奇談全集　原稿本）　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

（じやがたら文、阿蘭陀人の妻になりたる女の文　漂流人壽三郎の手紙）

環海異聞　九册　寫　大槻茂質記　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は寛政五年の冬仙臺の船子津太夫、儀平、左平太、太十郎の四人が奥洲岩城の海上にて暴風に遇ひ遂に魯西亞に漂着して文化二年まで彼地に居り十二年を經て漸く歸りたるを記したるものにして彼等が歸朝の際陸奥侯より大槻茂質、志村弘强の二臣に命じてその始末を聞書せられたるものである。漂流記中にて最も確實、精細なるもの、「刊本なし」　「國書解題」

志人小平治漂流書　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

附　土人長平無人島記　常人安南國記　奥羽入廣東漂流記　無人島漂流記　神昌丸記　馬册記

萬國渡海年代記　一册　華律外史著　五守堂藏版　京都　杉浦丘園氏藏

漂流記　二册　播州彥藏著　文久三年（西一八六三）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

滿次郎漂流記　一册　長崎　鈍通子記錄　滄浪軒藏板　大阪　荒木和一氏藏

亞墨竹枝　一册　春洋漁人井上默撰　小石龍の跋あり　學半堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は漂流民初太郎の言により漂流の事及び米國の事を賦した七言絕句二十八首で一首每に其記事がある。
井上春洋名、默、字蹊夫、通稱、仲庵後に春漁又不鳴と號した（詳しき傳記は阿波偉人傳を參照されたし）

南瓢記　枝芳軒著　寬政十年（西一七九八）刊　大阪　中村正二郎氏藏

日本漂流譚　二册　石井研堂著　明治二十五年（西一八九二）學齡館刊　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

海外鈔　一册　寫　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏
（朱佩章答疏　漂流記　今井物語、漂民錄　異船渡來記）

四、漂流記

幕府の極端な鎖國主義は横文字を讀む事を禁じたまだその上異國の風俗事情を寫して公刊するを禁じたそれは一般の者に海外思想を起さしむるの嫌ありとの理由なので殊に漂流記などは勿論刊行を許されなかつたもので此種の本の刊行は非常に少ない督乘丸魯國漂流記や小平次異國漂着談、寛文十三年の韃且國漂流記等幾多の珍聞奇談の記録が多いが皆刊行されず傳寫されたもので僅に皃琮の漂客記事、紀州善助初太郎のアメリカ漂流談、文久三年の彦藏の漂流記、長崎鈍通子の記録と稱する滿次郎漂流記位のものでその他の記録の大部分は寫本として殘つたもので今日展觀するものゝ内に寫本の多いのはいたし方のない次第である。

漂客記事 一册 皃琮玉卿甫著 寛政七年序文化元年(西一八〇四)識語 蕉園藏版

大阪 岡田伊三次郎氏藏

海外異聞(一名亞墨利加新話) 五册 嘉永元年(西一八四八)青蚨園 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

(紀洲船頭善助初太郎のアメリカ漂流記なり)

京都 杉浦丘園氏藏

海外漂流年代記 前編 一舗 芥子屋重兵衛著 嘉永七年序(西一八五四)江戸大和屋喜兵衛 刊

本書は支那、印度、朝鮮及び西洋諸國より貢献の爲め又交易等の爲めに來朝したる事實を年代記體に記したるもの、漂流記にあらざれども特に載す。

芥子屋重兵衛は戯書屋若くば豐芥子と云ふ。

手輕西洋料理法　一冊　望月誠著　明治十三年　うさぎ屋版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

素人庖丁西洋料理仕方　一冊　精養軒主人撰　曉齋畫　明治二十六年　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋將棋指南　一冊　喫霞仙史著　明治二年（西一八六九）中外堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

その一節を見るに『それ西洋の將棋のはじめをたづぬるに我國にては神武天皇御即位より廿年前唐にては周の僖王の時より。西洋諸國に行はれしそのもとは印度よりつたはりしといふ。いとふるきことなれば傳統の次第はつまびらかならねど。我國の將棋も唐將棋もまた西洋の駒の行道もおよそ相似たるを見ればいづれも本はひとつにて後に國々にて名も變り形も色々出來しものとみゆ。たり今こゝには西洋人のもてあそびとなすものを圖にあらはし、且、彼國の將棋の書を我國の詞にやはらげて好事君子の玩弄となすものなり『イギリス』のことばにて將棋を「チエス」といひ盤を「チエスボオルド」といひ。駒を「チエスメン」といふ云々。

卷末に　西洋將棋駒　極上、上、亦、箱入　出來仕候澤山御用仰付け被下度候と廣告したるを見ればその當時の流行見しならむ

大阪　荒木和一氏藏

弄玉集　一冊　宇津木信夫譯　明治十二年（西一八七九）　内外兵事新聞局藏版

本書は玉突術の本であつて我國に於てこの書以前には恐らく譯されてないだらうと思ふ。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋料理通

二冊　假名垣魯文著　曉齋畫　明治五年（西一八七二）江島喜兵衛　刊

本書は橫濱在留の英人コックの手記を飜譯し第一章より第八章に至るまで洋食用品の製方その用法等を載げて說明せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋料理指南

二冊　敬學堂主人著　明治五年（西一八七二）雁金屋淸吉板

序文に曰『前略、官途にある人は何れの日遙々たる外國に施行せんにもはかるべからず平素外國の食に馴れずんば或は肉味の咽を下らざることあらん、此書は大牢精膳の式を著せしに非らず尋常の食物と併せて其割烹調理の方法を掲げて勉て肉味を試みんと要する者の爲めにす。若之に就て割烹をなさば坐して以て容易にして所謂西洋料理を喫ひ得べし、豈何ぞ他の樓に求んや願くば有志の輩疾に西洋割烹の方法を妻婢に傳へて之を用ひんことを、眞に食餌は人の生命に關係する物にして怠にすべからざるものなり。何ぞ菜根を咬つて百事を做し得べけんや世人能く眼を刮ふて政化日に新なること今より三年の後は如何なる景況と云ふことを察すべし此書の如きは鎖々たる一小册と雖も亦政化に裨益なしといふべからず之を讀者能く生ける爲めに食はねばならず食の爲めに生ねばならぬと云ふ語を翫味すべし』と古來長崎料理、南京料理等の料理本の著あれども本書の如く西洋料理書として器具に至るまで詳說せるものなし魯文の西洋料理通と共に我國に於ける西洋料理書の嚆矢ならむ。

東京　加賀豐三郎氏藏

肉料理大天狗

一册　明治五年（西一八七二）西京自然洞藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋料理新書

一册　黑田行元譯　明治七年（西一八七四）京都文求堂板

萬船圖彙　帖　一册　金澤　副田平次氏藏

刊行年號明記せざれど嘉永年間の版と思ふ小形極彩色摺の圖十枚解說書十枚にてその末文の『火輪船是則馬頭を發すれば十八日を經て皇國近海に至る』と云ふ記事が幕府の忌彈に觸れて發賣禁止を受けたといふ（靑木平七氏談）

○

西洋錢譜　一册　朽木昌綱著　天明七年（西一七八七）浪華　大野木市兵衛藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

歐洲各國の錢貨を圖し各種其の圖徑、重量、厚廣、彫文等を記せり、天明七年家臣小澤賴福の序を附して出版す（圖書解題）『白水軒主人校、改正西洋錢譜一册あり』江都　醉月樓藏梓

西洋錢譜　一册　松園主人編輯　江戸　菊屋幸三郎板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋貨圖錄　一册　松園主人編輯　安政六年（西一八五九）永福堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

○

新編異國料理　二册　又玄齋南可著　文久元年（西一八六一）江戸　大和屋喜兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

魯西亞雜録　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利船風説録　一册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

○

萬國旗章圖譜　一册　鱸奉郷編　嘉永四年（西一八五一）臨江堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

鱸奉郷の傳は水戸文籍考にあり

萬國旗鑑　一册　松園主人撰　嘉永六年（西一八四三）尙古舘　刊　大阪　靑木平七氏藏

萬國船旗圖譜　一册　南岱、松居信著　嘉永七年（西一八五四）不老舘藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

旗章説略　一册　明治二年（西一八六九）慶應義塾藏版　大阪　杉本要氏藏

萬國旗章圖譜　稿本　一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

文明開化 内外事情　十冊　青木青江著　明治七年（西一八七三）萬巻樓　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界奇談　三冊　久保扶桑譯　明治八年（西一八七五）　横濱丸屋善八　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

ヱスキモ人の事、銅色人の事、ブラジールの深林の事等挿畵を入れて説明せり。

暹羅紀行　一冊　大鳥圭介著　明治八年（西一八七五）工刻省　刊　東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

別に暹羅紀行圖　銅版一冊あり

漫遊記程　三冊　中井弘著　明治十年（西一八七七）博文堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

繪入世界周遊記　洋　一冊　米國派遣傳教使事務局編　明治十五年神戸版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國名所圖會　一冊　東京　大倉孫兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋誌略　二冊　（明治月刊巻一より巻四までの合本）　大阪　荒木和一氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏
文明開化　二册　加藤祐一著　明治六年（西一八七三）大阪　柳原喜兵衛　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
世界節川無盡藏　一册　横尾謙七著　松川半山畫　明治六年（西一八七三）　大阪　吉岡平助　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
萬國一夜談　一册　信夫吉緒著　明治六年（西一八七三）朝倉久兵衛　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
萬國一夜話　二册　宇田甘冥著　明治六年（西一八七三）瞳園藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏
萬國港繁昌記　三册　黑田行光編　松川半山畫　明治六年(西一八七三)　刊
卷首に異國港灣の海岸に異國人散歩する圖を挿入せり。編者黑田行光は嘉永年中ロビンソン漂流記を重譯した人である。

大阪　岡田伊三次郎氏藏
よりあひばなし　二册　榊原伊祐著　明治七年（西一八七四）柳原喜兵衛　刊

横濱　輕部漱芳氏藏
澳行日記　一册　近藤芳鄰著　明治七年（西一八七四）　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
開化問答　二册　小川爲治郎著　明治七年（西一八七四）東京二書屋　刊

世界の富（一名産物往來）　荻田筱夫著　大阪　三宅吉之助氏藏

地球產物雜誌　一册　堀川建齋著　明治五年（西一八七二）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

人種區別の略說、人民一致、營業、住居、並に政府及宗旨の略說、地球上動物の略說、植物、鑛物、等を圖說せり

大阪　三宅吉之助氏藏

萬國奇談　四册　青木輔淸譯　明治六年（西一八七三）刊

一名　世界七不思議

大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界人種一覽　一册　伊東經兒郎譯　岩巨勢畵　明治六年（西一八七三）二書樓　刊

本書は米國版（一八七一）コルネル氏の地理書等より抄譯せるものにして世界の人種の根元、各容貌骨格等より頭髮の色等を說き且各人種の圖畵を挿入せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界婦女往來　一册　山本與助著　明治六年（西一八七三）浪華　寶文堂　刊

大阪　杉本要氏藏

世界郡都往來　歐洲佛國之部　一册　小林謙吉譯　明治六年（西一八七三）寶積堂　刊

大阪　杉本要氏藏

畵入開化往來　一册　明治六年（西一八七三）花說堂 文榮堂　藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界風俗往來　一册　中金正衡著　明治五年（西一八七二）大阪　大野木市兵衛　刊

本書は五大洲中海陸の方里、土地の廣狹、宗教の佳否、開化の遲速、風俗の異同　人民の多寡、政事の得失等を記せり。

太阪　岡田伊三次郎氏藏

世界都路　六册　假名垣魯文著　明治五年（西一八七二）萬笈閣　刊

緒言に曰『本書は地球上六大洲國の事情、都府の景狀、名所舊跡等を擧げ我國從來の都路紀行に倣ひて綴れり』と

大阪　岡田伊三次郎氏藏

航海夜話　四册　西江舍主人譯　明治五年（西一八七二）千山堂　刊

大阪　濱村榮三郎氏藏

和洋合才袋　前集　二册　爪生政和著　明治五年（西一八七二）二書房　刊

萬國道中記　上篇　二册　吉田賢輔著　明治五年（西一八七二）北立舍藏板

大阪　杉本要氏藏

大阪　杉本要氏藏

挿畫地學往來　三册　伊藤桂洲述　玉蘭齋畫　明治五年（西一八七二）文苑閣　富山堂　刊

亞細亞洲之部

大阪　濱村榮三郎氏藏

萬國百物語　初集　二册　爪生政和著　明治五年（西一八七二）保永堂　刊

西洋見聞圖解　前輯　一冊　爪生政和著　明治四年（西一八七一）二書房　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國往來（銅版畫入）一冊　四方春翠著　明治五年（西一八七二）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書の解題は新舊時代第一年第二册井上和雄氏『萬國往來の著者四方春翠』をみられたし。卷尾に『册中銅鐫畫圖　獨立一派　四方春翠鐵筆　門人北村友山助刻』とあり。

萬國航海西洋道中膝栗毛　初編より十一編　二十二册　假名垣魯文著　明治三年（西一八七〇）萬笈閣　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

當時戯文を以て賣出した魯文は西洋道中膝栗毛と題して盛んに西洋好きの世人を喜ばしたもので十五篇二十八册が完本である。當時の廣告文に『此稗史は三世の彌次郎北八等が横濱在住の事情を發端として通商にしたがひ英佛の蒸汽飛脚の船に乘組西土に航海の途中支那印度の地に例の滑稽を盡す笑話、專ら自今流行を穿ちたる新奇妙案の戯作なり』と云へり。

假名垣魯文は戯作家なり花笠文京の門人にして明治初年に於て戯文を以て一世に鳴る、著す所假名讀八犬傳　安政見聞誌　端唄文庫その他數十種の著あり又維新後の戯作には西洋膝栗毛、安倶樂鍋、百猫畫譜、藝者の心得　高橋お傳等又假名讀、いろは、等の新聞を發行し猫々奇聞　魯文珍報、猫酒落誌の妙文を以て大いに花柳社會を驚かし自ら猫々道人又金花猫翁と稱せり又猫塚を建て珍猫百覽會を開きたるなど奇行頗る多し。（大日本人名）

西洋往來　一册　明治元年（西一八六八）刊　横濱　輕部漱芳氏藏

萬國新話　巻一　一册　著者三叉溪子とあり明治元年（西一八六八）宣信齋藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

その序に『此書はもと社交の隨筆にして或は西洋に遊びしをり親しく見聞せる記錄を其まゝに載せ、あるひは讀書の際新奇の事に遇へばそれを抄譯せしもの』とあり英國飛脚賃の事、地下蒸汽車鐵道、等當時諸外國の珍しき事のみを抄錄して逐次刊行するつもりなりしも巻一のみにてやみたるものと思ふ。

西俗一覽　一册　河津祐之譯　明治三年（西一八七〇）知新舘藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

河津祐之は名を孫四郎といひ參州西端の藩士なり英佛の二語に通じ著者飜譯書多し。

官板 王石志林　四册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は著者版元等明記なく未詳なれども和蘭の諸書より抄譯せるものにして洋畫風の挿畫（木版）を挿入し巻一に無人島徒民記、婦人イダ・ヘイツヘル地球周遊の記、支那の香港島、等、巻二に天文師嘉利珂傳、意太里亞及び佛蘭西にて驢馬の疾走を競ふ事等、巻三、に氣球、土耳其王マハムツド略記、佛蘭西の使臣を擒捕する記等『明治以前の刊ならむ』

西洋聞見錄　八册　村田樞、文夫著　明治二年（西一八六九）廣島　井筒屋勝次郎板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國名數記　一册　大屋愷敓著　明治四年（西一八七一）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋旅案内　二册　福澤諭吉著　慶應三年（西一八六七）尙古堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋旅案内外篇　一册　吉田賢輔著　明治二年（西一八六九）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋紀行　二册　中井貞（櫻洲）著　慶應四年（西一八六八）　刊
本書は著者が歐洲漫遊の紀行文にして目見耳聞その記する所風俗地形、國政、に至るまで當時諸外國の事情に通ぜざる世人は奇とし珍として本書を愛讀せしならむ。
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋事情　三册　福澤諭吉著　慶應二年（西一八六六）尙古堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋事情外篇　三册　福澤諭吉著　慶應三年（西一八六七）尙古堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

增補和解西洋事情　附錄共　四册　福澤諭吉著　黑田行次郎校正　慶應四年（西一八六八）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋各國事情　前編　三册　福澤諭吉著　浪華二書房　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

詳載二葛刺匁土地理物產諸雜事一、亦爲二異言一、寫而藏二之於國校一、倫宗水戸產、大府之開二蝦夷一募レ人、往窮二滿洲地方一、倫宗慨然應レ募而行、經二葛刺匁土一、渡二黑龍江一、抵二山海關一不レ得レ入而返、往來陸行涉二萬里之遠一、兩二雨歲之久一饑渴窘困、若楚萬狀、未三嘗少動二レ心、亦偉男子也』と。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭國通覽　四册　大槻磐水口授　有馬文仲筆記　安政二年（西一八五五）幽蘭齋藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

乘槎筆記　二册　清人、斌椿著　大槻誠之訓點　明治五年　修文塾藏板

東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

唐太日記　二册　鈴木茶溪著　多氣志樓主人註　安政七年（西一八六〇）播磨屋勝五郎藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋衣食住　一册　片山淳之助著　慶應三年（西一八六八）刊

題言に曰く『近來世上に西洋服を用ふる者多しこれその立働に最も便利なること擧ていふべからずしかるに世人或ひは彼國衣服の製を心得ず譬へば暑中に綿入を着、じゆばんの代理に羽織を用ゆる等の間違ひもあり今この小册子に彼國衣裳又食事の諸道具寢所の模樣をもその圖を記し其用法を解せしむ』と本書は衣食住三部に分ち洋服を說明し洋食を進め總ての家具家財に洋趣味の便利なることを力說せり（慶應義塾藏版）

各葉各人種の挿畫を入れそれに說明を加へしもの四十二國人物圖說、外蕃容貌圖畫、海外諸島圖說と同種のものなり。

海外諸島圖說　二冊　齋藤寛撰　柳川重信畫　安政二年（西一八五五）弘道軒藏版　大阪　荒木和一氏藏

萬國人物圖譜　三冊（極彩色本）　宗津島守傳（筆者未詳）　大阪　木村助次郎氏藏

萬國人物圖會　一舖　刊　大阪　荒木和一氏藏

萬國人物圖會　一冊　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新製樂草紙　一冊　大洋主人編　嘉永七年　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

東韃地方紀行　一冊　寫　間宮倫宗口述　東京　男爵　大島富士太郎氏藏

鐵研齋輶軒書目に解題して『世以二此書一爲三倫宗所二手錄一、余識二倫宗一、嘗擧レ此問レ之、倫宗曰、是奉行所書吏筆二錄吾話說一者、非三吾所二自著一也吾別有下所二自著一書十五卷上、秘二之於篋底一、因約二借寫一而未レ能也、姑錄二是書一以存二梗概一、又有二銅柱餘錄 北蝦夷圖說一、

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外新話拾遺　五册　嘉永二年（西一八四九）刊

本書は著者及版元未詳なり其例言に曰『楓江領田氏著す所の海外新話記載の事件全く夷匪犯彊錄、倭犯事略等の書に就いて之を採擇編次すといへども大小の事件遺脱なきに非ず因て其脱するものを拾收して此編を著す』と是亦絶版となりしなるべし。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外餘話　五册　木活字本

本書は嘉永四年五月（西一八五一）の刊行なれども只『醉夢痴人』とあるのみにて著者版元等未詳なり。

海外新話と同じく絶版を命ぜられしか否か知らず當時此種の海外事情を記載せるものにて匿名のもの多し。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外人物小傳　五册　嘉永六年（西一八五三）萬報樓藏板

著者『時々夢齋』とあり『海外餘話』と同型の本なり或るひは著者も同人にあらざるか。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

外蕃容貌圖畫　二册　田川春道撰　倉田東岳畫　安政二年（西一八五五）須原屋茂兵衛　刊

各葉、各國に渡りて人種の挿畫を入れ地理氣候風俗等を說明せり『前記西川如見四十二國、人物圖說に類似せる西洋風俗畫』ではあるが眞面目なものではない。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外人物輯　二册　永田南溪編　一光齋芳盛畫　嘉永七年（西一八五四）序

萬國一覽圖說 三册附圖共　古屋野意春著　文化七年（西一八一〇）大阪　含章堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

珍說奇談畫本萬國誌 三册
俳林淡二編　法橋關月畫（明和七年（一七七〇）の著）文政九年（西一八二六）　前川善兵衞　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋雜記 四册　山村才助著　享和元年序　嘉永元年（西一八四八）江戸文苑閣　刊

本書は西洋諸國に於ける奇事、奇談、異事、物產、珍話等を輯錄したるものにしてその自序によれば著者は洋學に志して大槻磐水の門に入り蘭學を修め蘭書を讀みて奇談を得る每に筆錄したるなりといふ。才助は少時、白石の『采覽異言』を讀み萬國地誌の詳細を知らんと欲し大槻の門に入り一意專心地理書の飜譯に從事し享和二年增訂采覽異言十三册を著して萬國地誌を大成した人である。

山村昌永、字、士朋、稱、才輔、常州土浦人
大阪　岡田伊三次郎氏藏

海外新話 五册　嶺田楓江著　嘉永二年（西一八四九）　刊

本書は當時寫本に傳はりしものにて圖書解題にも寫本三卷、淸書『夷匪犯彊錄』に基きて支那道光二十年の英淸關係の始末を記し「經世文編」「隱憂錄」「乍浦集錄」等の書に依りて鴉片戰爭の事を記せり、と記載してある本書は異敎の妄說を飜譯開板したとの理由で著者は押込の處方を受け、本書は絕板を命ぜられた。と（筆禍失）

人紀問の顚末中卷には海外諸外國の地理、歴史、風俗等下卷には羅馬人と問答せる雜話を記し又天主教の大意を述べてその妄を辯駁してゐる。詳細の解題は吉野作造氏著「新井白石とヨワン、シローテ」を參照されたし。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

五事略　二册　新井白石著　竹中邦香校　明治十六年　白石社　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國新話　五册　森島中良著　寛政元年（西一七八九）須原屋市兵衛　刊

大阪　荒木和一氏藏

萬國新話　五册　森島中良著　寛政十二年（西一八〇〇）浪華　藤屋　刊

内容、亞細亞洲の略說、馬肉をくらふ話、家を車にのせる話、葬送して人を殺す話、酒を吸ふ話等奇談異聞を輯錄したるもの。

大阪　荒木和一氏藏

琉球談　一册　森島中良著　寛政十二年（西一八八〇）の序

京都　杉浦丘園氏藏

和蘭通舶　二册　司馬江漢著　文化二年　西一八〇五）東都　春波樓藏板

第一卷に五大州總記を擧げて土地、風俗、氣候、人物器械、等を論じ又地球總覽、西洋畫法、銅版、天象、等を掲げ第二卷には和蘭の風俗、物產等を記載せり、山本北山の序あり。凡例中に『銅版萬國全圖を併せて見るべき由を云へり』（圖書解題）

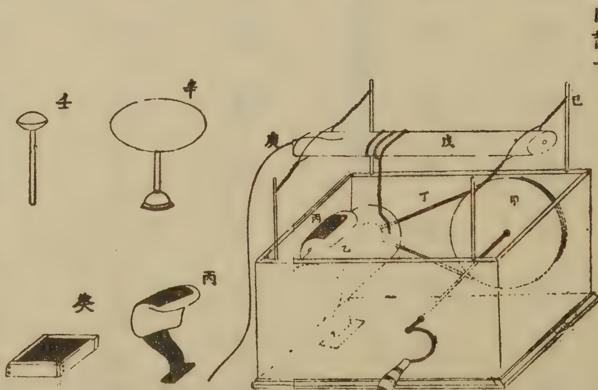
すていん「石」からくと「性力」』といふ、人の體より火を取ると云ふわけにはあらず觸るゝもの何にても火出づるなり是は金石のすれ合ひ火を生ずるの理にして燧金火打石と同じ故に火石性力の名あり則天地の氣相摩して電光等の現るゝの理を示したる道具なりとぞ其先に當る物より火の出づるにはあらず道具より火の出でゝ觸るゝ所より火發するなり、かくの道理ある事にて曾て怪しき者にはあらず理を辨へて火を發するやうに工み出せる器なり其近き理は朝夕每家に用る火打石と同じ事なりと知るべし」と『宇田川玄隨の序』あり。完本は上下二册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

紅毛雜話の『野禮幾的爾之圖』



同款圖



西洋紀聞

新井白石著　大槻文彦校

明治十五年　白石社　刊

白石、は將軍の命により切支丹屋敷に幽せられたヨワン、シローテより聽き得たる西洋の事情を錄して『采覽異言』（正德三年）を著したが其紀聞の顚末を詳說したものが本書西洋紀聞（正德五年）である本書は二册に合本されてゐるが原本は三卷（寫本）にて上卷には異

本書は和蘭の風俗、産物、藥法、ヱリキテル、言語等の概略を聞書したるものなるが其中に和蘭文字二十五の三體を掲出したりとて絕板を命ぜられたり。

後藤梨春 名、光生、稱、太仲、號、梧桐庵、物產學に於てはその名を稻若水と云ふ、江戶本草家

大阪 岡田伊三次郎氏藏

紅毛雜話 五册 森島中良著 天明七年(西一七八七)刊

本書は紅毛談と同じく萬國の草木、禽獸、鳥魚、器物等の圖解及び奇聞異談等を輯錄したるもの。前野達、宇晋の跋あり。

大阪 高安六郎氏藏

蘭說辨惑 (一名磐水夜話) 上 一册 零册

大槻磐水口授 有馬文仲筆記 天明八年(西一七八八)序 寬政十一年 幽蘭齋藏版

その附言に『磐水先生ある夜小子元晁等の問に答へ示せる所の說話なりそも〳〵阿蘭陀船の我邦にわたり來りしこのかた其渡海の由來加比舟外科等の事、俗間にて心得たがへ覺ゐちがひし事少なからず、或は其渡來の藥品器物の數々言あやまり聞あやまりたる惑ひをあらあら辯じ給ふ』とある通り問答體にて、上卷に和蘭國名、硝子、ぶどう酒、かんてら、さらさ、ぱん、しやぼん、すらんがすてん等下卷に、くろん坊、かげ繪燈籠、殺活車、ゑれきてる、寫眞鏡、江戶參向の由來及交易、外科、おらんだ、じやかたら大略、等をところ〴〵に挿繪を入れて俗間に使用せる和蘭物品名等の誤謬を一々原語を擧げて辯明せるものなり試みに『ゑれきてる』の項を見るに

〇ゑれきてる

問て曰『ゑれきてる』とて人の體より火を取る道具ありといふ如何なる物にや。

答曰 この圖は既に森島氏の著す所の紅毛雜話に詳かなり本『ゑれきせりと』といふ語の轉ぜるなり和蘭國語にては『ひゆふる「火」、

新刻掌中航海世界全圖　一舖　臥龍軒　銅刻　明治六年（西一八七三）大阪　赤志忠七　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

新雕世界航海圖　一舖　長門　石村貞一譯　明治八年（西一八七五）　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

暗射地球譯圖　一舖　永田方正譯　明治八年（西一八七五）大阪　響泉堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

三、紀行風俗

四拾二國人物圖説　二册　西見如見著　享保五年（西一七二〇）東都　淵梅軒藏板

大阪　青木平七氏藏

本書は我國に於て外國の風俗を圖解せるものとしては最初のものと思ふ（但し正保二年（西一六四五）長崎板の萬國總圖の附錄にある一枚刷の四十圖風俗圖の刊行あれども）當時蘭人の齎した圖書に依り又支那書等より引用したるものにて如見其圖解を長崎の古老に質したといふ。萬國人物圖と標題せるもの數種あり　内容は本書と同一なり。

萬國人物圖　二册　西見如見著　享保五年（西一七二〇）東都　淵梅軒藏板

大阪　杉本　要氏藏

紅毛談　二册　後藤梨春著　明和二年（西一七六五）梧陰菴藏板　東京　林　若吉氏藏

新刊輿地全圖　一鋪　飛川義邦撰　文久元年（西一八六一）萬屋兵四郎　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

亞西亞略圖　一鋪　佛國教師　シャノワン譯　慶應四年（西一八六八）陸軍所　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

暹羅紀行圖　一鋪　大鳥圭介著　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新刊地球全圖　並各國船旗圖譜　一鋪　大阪　岡田伊三次郎氏藏

銅鐫新刻萬國輿地全圖　明治四年（西一八七一）東京　村上勘兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球萬國方圖　一鋪　橋爪貫一校正　湯津香木舍藏版　明治四年（西一八七一）須原屋茂兵衛　須原屋伊八　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

射號萬國地圖東部　一鋪　大屋愷敆著　明治六年（西一八七三）石川縣學校藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新刻航海世界全圖　一鋪　明治五年（西一八七二）大阪　書林會社藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

東西地球萬國全圖　一舖　栗原信晁著　嘉永三年(西一八五〇)刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國地球改細圖　一舖　養愼齋主伯陽序　半山樵夫識　嘉永四年(西一八五一)　大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球萬國全圖說覽　一舖　江東　小林公峯識　大阪　荒木和一氏藏

萬國輿地全圖　一舖　安倍泰行著　嘉永六年(西一八五三)　鈴亭主人刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新訂坤輿略全圖　一舖　新發田收藏著　嘉永五年(西一八五二)　春草堂藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

校訂萬國全圖　一舖　嘉永六年(西一八五三)刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

三千世界早視萬國圖　長陽　巽鶯舘　刊

萬國航海圖　一舖　和蘭人　エスネル　校正　武田簡吾譯　安政五年(西一八五七)橫濱版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

五界萬國地球全圖　一鋪　山崎義政著　天保五年（西一八三四）
大阪　岡田伊三次郎氏藏

喎蘭地球全圖　一鋪　田島柳鄉著　天保十一年（西一八四〇）刊　蘭園藏印
大阪　三宅吉之助氏藏

輿地六大洲　一鋪　天保六年（西一八三五）刊
大阪　三宅吉之助氏藏

新製輿地全圖　一鋪　箕作省吾著　仙臺　大槻榮撰　弘化元年（西一八四四）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國方圖　一鋪　永井則譯　安田雷洲銅鐫　弘化三年（西一八四六）皡如樓藏版
大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國地圖　一鋪　橋木玉蘭齋著　東都　近藤氏藏板
大阪　岡田伊三次郎氏藏

改正地球萬國全圖　一鋪　長玄珠著　長久保氏藏板　東都　山崎金兵衛　大阪　淺野彌兵衛の名あり
大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球萬國山海輿地全圖說　一冊　長玄珠原稿　山崎美成補著　嘉永三年（西一八五〇）刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

橋本宗吉　名、鄭、字、伯敏、通稱、宗吉、號、絲漢堂、大阪人、北堀江の傘工なり、蘭學者　三方方典六册、西洋醫事集成寶函、泰西本草等の著あり（大阪名家著述目錄）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

喎蘭新譯地球全圖　一舖　浪華　佛齋居士撰

本圖も前圖と同一の版木を用ひてある發行所未詳。　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國圖　一舖　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

新訂萬國全圖　一舖　高橋景保著　文化四年（西一八〇七）凡例　文化七年　刊

新訂萬國全圖　一舖　高橋景保著　文化七年　刊　大阪　荒木和一氏藏

蘭醫シーボルトに日本與地全圖を渡したる一件にて獄に下り本圖も當時絶板を命ぜられしといふ。

高橋景保　名、景保、字、子昌、通稱、作左衛門、號蠻蕪、觀巢、書物奉行、天文方、

清文鑑名物抄　六册文化十年述（寫）　遭厄日本紀事　十四册文政八年譯（寫）　地勢提要　二册（寫）（大阪名家著述目錄）

地球略圖說　一舖　坂部廣胖撰　文化十三年（西一八一六）江戸　竹川藤兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

千七百九十一年　日本　寛政三年造之とあり。

本圖は露西亞版の萬國地圖を寫したもので厚い和紙に一見銅版の如くみゆる程精密に寫してあるそして露文は總て和譯されてゐる。私はこの本の原圖が寛政四年（西一七九二）露國の船が根室に來て漂流民　幸太夫、磯吉、等を送還して來た時將軍が親ら幸太夫等に露國の國情民俗を問ふたと云ふ事であるからその時に幸太夫等が幕府へ獻上したものでなからうかと思ふ。譯した年も譯述者も明記してないが文化年間天文台に出仕して露國の書牘等を飜譯してゐた馬場佐十郎ではなからうかと思ふ。

大　阪　岡田伊三次郎氏藏

地球全圖　銅版　二鋪

寛政壬子春三月（西一八九二）東都芝門　司馬江漢寫並刻とある。本圖の外天球全圖、東都八景、顯微鏡、雪の圖等あり。本邦銅版の開祖なり。

司馬江漢　名、峻、字、君岳、號、春波樓又桃言、無言、西洋道人等の別號あり。

大　阪　岡田伊三次郎氏藏

喎蘭新譯地球全圖　一鋪　浪華　橋本宗吉著　水戸　赤水長閲　寛政八年序　江戸　北澤伊八等　刊

本書は唐紙刷にて表紙に Algemene waerld kaart と浮出してあるこれが初版である。

大　阪　岡田伊三次郎氏藏

喎蘭新譯地球全圖　一鋪　浪華　橋本宗吉著　水戸　赤水長閲　寛政八年序　江戸　北澤伊八等　刊

本書は前圖を再刻したものと思ふ。唐紙刷の方は發行書林が北澤伊八、淺野彌兵衛、會谷林藏となつてゐるが再刻の方は會谷林藏が岡田新次郎に變つてゐる。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國總界圖　一舖　石川俊之著　寛永五年（西一七〇八）江戸　須原屋茂兵衛板

序に曰『萬國總界之圖從昔日板行雖有數多其形不成分明因茲今亦改諸國方量而海上通乘加畫令開板有也』武州江城下　石川俊之（流舟）とあり、本圖は東西南北の緯度線を表はし上部の右と左に日本船と大清船を畫き下部の右の方に日本肥前より和蘭陀諸國への里程表を載げたり。本圖は正保二年（西一六四五）長崎版の萬國總圖なるものを改訂して復刻せしものにして正保版には上部左の船の畫大清船が大明船になれるのと下部の左におらんだ船の畫が挿入してあるのとが相違してゐて構圖の形式は同一なり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國掌菓之圖　一舖　寛永七年（西一七一〇）文臺軒宇平板

大阪　杉本要氏藏

南瞻部洲萬國掌菓之圖　一舖　寶永歳次庚寅抄　永田調兵衛板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球一覽圖　一舖　三橋釣客著　天明三年（西一七八三）大阪　大野木市兵衛板

南閣浮提諸國集覽之圖　一舖　發行年號明記なし。寛政以前と思はる　東都華坊兵藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

魯西亞版萬國全國和解圖　五舖　寫

大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球周界　一册　亞墨利加　一册　歐羅巴　一册　亞弗利加　一册　亞細亞　一册

官板輿地誌略　九冊　内田正雄譯　明治六年（西一八七三）紀伊國屋源兵衛　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに文部省原本　小田縣翻刻とあり。明治三年　秋月種樹の序あり。本書の原著は「マッケー」及「ゴールドスミス」の地理書、及蘭版カラームルスの地理書等より抄譯せるものなり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

輿地新圖附錄　二册　村田文夫譯　明治七年（西一八七四）　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

輿地誌略　銅版　一册　内田正雄譯　明治九年（西一八七六）積玉圃　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球暗射圖符號解　一册　柳河梅次郎譯　明治九年（西一八七六）文部省版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

暗射地球圖解　附萬國山河表　二册　永田方正譯　明治九年（西一八七六）　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

輿地誌略　四册　内田正雄譯　明治十三年（西一八八〇）修靜館　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

五洲紀事　初編　二冊　寺内章明譯　明治四年（西一八七一）韜光書屋藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國早見表　一冊　米人アルフレッド、エム、マンテル閲　潛井逸三輯　明治五年（西一八七二）松本屋龜吉　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國名數記　一冊　大屋愷䛩著　明治四年（西一八七一）臥龍書房藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國地理訓蒙　一冊　西村周次郎著　明治五年（西一八七二）弘成堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

挿畫地學往來　亞細亞洲の部　三冊　伊藤桂洲著　明治五年（西一八七二）高木和助　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國掌覽　一冊　山本與助著　明治六年（西一八七三）大阪寶文堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西洋沿革圖說　一冊　村田「樞」ヶ夫閲訂　藤井和七郎編撰　明治四年（西一八七一）刊　大阪　荒木和一氏藏

萬國地誌略　三冊　師範學校編輯　明治七年（西一八七四）文部省　刊　大阪　杉本要氏藏

開知新編　八冊　橋爪貫一譯　明治二年(西一八六九)松園藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

掌中萬國一覽　一冊　福澤諭吉譯　明治二年(西一八六九)　刊　大阪　中村正二郎氏藏

輿地誌略　一冊　内田正雄譯　明治三年(西一八七〇)大學南校　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

地學事始　三冊　松山棟菴譯　明治三年(西一八七〇)慶應義塾　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

外國山川誌略　一冊　明治三年(西一八七〇)山梨縣藏　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

コルネル氏地學初步(英文復刻)　一冊　渡部一郎飜刻　明治四年(西一八七一)　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

コルネル地學初步直譯　二冊　大阪　杉本要氏藏

世界國名盡　一冊　青木東江譯　明治四年(西一八七一)埼玉縣洋學校藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

聯邦志略　二册　馬邦裨（治文）撰述、箕作阮甫訓點　元治元年（西一八六四）萬屋兵四郎　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

球圖小識　附地球新圖　一册　玄武翁著　球菴の題言あり。文政二年（西一八六二）玄武堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

地球說略　三册　米、禕理哲著　箕作阮甫訓點　萬延元年（西一八六〇）老皂舘藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國綜覽　一册　大島圭介著　萬延元年（西一八六〇）刊　東京　男爵　大島富士太郎氏藏

西洋各國盛衰强弱一覽表　二册　加藤弘藏譯　慶應三年（西一八六七）谷山樓藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

萬國地學和解　一册　宇田川榕精譯　慶應四年（西八六八）刊　大阪　荒木和一氏藏

新製萬國輿地圖說　十册　西洋人撰述譯本とのみ著者未詳　雲峯閣藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

世界國盡　六册　福澤諭吉譯　明治二年（西一八六九）慶應義塾藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

米利幹新誌 五册 安政二年（一八五五） 春日樓藏板
大阪 岡田伊三次郎氏藏

海西漁夫著とあり鶴峯戊申 晩年の著であると思ふ。

新製輿地學階梯 折一册 下妻 美浦邦救著 安政二年（西一八五五）序
大阪 岡田伊三次郎氏藏

東西蝦夷山川地理取調圖 一册 松浦竹四郎著 安政六年（西一八五九）序
大阪 岡田伊三次郎氏藏

地學全志 上篇 五册 英、慕維廉著 巖瀬蟾洲校
大阪 岡田伊三次郎氏藏

安政五年 鹽谷宕陰の序あり。安政六年（西一八五九）東都 山城屋佐兵衛 刊

輿地紀略 一册 安政五年（西一八五八）尾張伊藤花繞書屋藏板
大阪 岡田伊三次郎氏藏

原本は Geographische Zakboekje voor de Nederlandsche jevgd of korte Beschryning 1815「全文蘭語筆記體の木版なり」伊藤圭之助復刻

瀛環志略 十册 清、徐繼畬著 井上春洋等訓點 文久元年（西一八六一）阿波宮島伊左衛門等 刊
大阪 岡田伊三次郎氏藏

序曰『此書爲康熙年間元日志也　相跡於今百有餘載彼士之人早知四大洲中之事又知三富之外有異形珍奇之物不特金石死物至人畜鳥蟲活潑翔之屬審悉不漏也』下略と。

大阪　岡田伊三次郎氏

萬國地名捷覽　一册　佐渡　新發田耘收著　嘉永六年（西一八五三）江戸春草堂　刊

新發田拗齋　名耘、字收藏、佐渡人、本書の外に　新訂坤輿略全圖一册あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

海國圖志　八册　清　林則徐譯　鹽谷宕陰校

卷一　籌海編、卷卅三至、卷三十五　英吉利國、卷卅六　卅七　俄羅斯國、卷三十八　普魯社國

（籌海篇　嘉永七年刊、英吉利國安政二年刊、その他は安政三年刊）

本書は當時外國語に通ぜざる儒者間に相當流行せしものにして之に由て海外の事情を知り維新大業の一淵源を生んだものとも謂へよう。

之を和解して竹庵の亞米利加總記　五册、皇國隱士譯の新國圖志通解　四册がある。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

亞米利加總記　三册　廣瀨達（竹庵）譯　嘉永七年（西一八五四）序　雲竹小居藏板

海國圖志を重譯せるもので、全五册なり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

新國圖志通解　四册　林則徐譯　安政元年（西一八五四）刊

皇國隱士和解とあり。譯者未詳

坤輿全圖說　一册　稻垣子戩著　享和二年（西一八〇五）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

明人の原著其漢文を和譯せるもの、橘春暉　藤元橋の序あり。

坤輿圖識　三册　箕作省吾譯　天保十五年（西一八四四）夢霞樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は第一卷は亞細亞誌、第二卷は歐羅巴誌、第三卷は亞弗利加誌、第四卷上　南亞米利加下は北亞米利加誌、第五卷　豪斯多辣利誌である古賀紫溟、昌谷精溪の序文がある。當時廣く世に弘布したるものにて外國の事情は本書によつて弘く我國に紹介されたといふ。

坤輿圖識補　三册　箕作省吾譯　弘化三年（西一八四六）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

卷一は輿地總說、卷二は亞細亞誌、亞米利幹誌補、卷三は歐羅巴誌の補、卷四には本書中にある人物の略傳を載せてある。

齋藤拙堂の序文、古賀坤の跋あり。

地學正宗　九册　杉田玄瑞譯　嘉永四年（西一八五一）天眞樓藏版　京都　杉浦丘園氏藏

杉田玄瑞　名擴、字玄瑞、梅里弟

八紘通誌　初編　三册　箕作省吾譯　嘉永四年（西一八五一）美作秋眠天竺樓藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

坤輿外紀譯解　二册　極西　南懷仁敦伯著　城北溪清譯　大阪　岡田伊三次郎氏藏

西川忠英　字、如見　號、求林齋、通稱、次郎右衛門、長崎夜話草、虞書暦象俗解、天文義論、天文精要、爾儀集說、水土解辨、日本水土考等の著あり。（圖書解題）

増補華夷通商考　五冊　西見如見著　寶永五年（西一七一五）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

泰西輿地圖說　六册の内一卷欠　朽木昌綱（龍橋）譯　寬政元年（西一七八九）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は十七卷、六册で歐羅巴の諸國に就いて隣界幅員、河水、風土、屬國等を記載せり。天明九年鳩谷孔平信敏の序あり。

朽木昌綱は丹波福智山の城主にして、龍橋堂又彩雲堂と號す。本書の外西洋錢譜の著あり。

地球全圖略說　一册　司馬江漢著　寬政九年（西一七九七）　春波樓藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

三國通覽圖說　一册附圖　四册　寫　大阪　岡田伊三次郎氏藏

三國通覽圖說　六册　林子平著　天明六年（西一七八六）須原屋市兵衛　刊　大阪　三宅吉之助氏藏

三國とは、朝鮮、琉球、蝦夷をいひ。その地理風俗産物等を記載せるものにて、本書も海國兵談と共に刻板を沒收され絕版となる、寫本にて傳はれるもの多く刊本稀なり、附圖四舗あり。

散斯克小文典

三册　栗原重冬譯　明治十年（西一八七九）　本願寺教育課藏版

本書は英人「ウヰルリアムス」のサンスクリット、マニュアルを譯述せるもの。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

散斯克單語篇

栗原重冬編舟橋振校閲　二册　明治九年（西一八七八）本願寺教育課藏版　（石川舜台出版）

大阪　青木平七氏藏

b　地理風俗に關するもの

一　地　誌

華夷通商考

二册　西川如見著　元錄八年（西一六九六）古川學梁軒　梅村甘節堂　合刻

本書は我國に於て海外の地誌を記述したる西洋地理書の嚆矢である。見返しに『支那天竺舉道程土產人倫於風俗』とある通り我國より支那十五省及び朝鮮琉球臺灣其他印度諸島西洋各國に至る道程を記し併せて各地の氣候風土產物等を揭げてゐる。後寶永五年更に增訂して增補華夷通商考五册を著す又蘭人の齎らした圖書により其圖解を長崎の古老に質し『四十二國人物圖說』享保五年、二册を著し海外の風俗を詳說した、共に本邦に於ける外國地理書の濫觴である。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

漢字行書體で橘耕齋と印刷しあるのは最も吾々の不思議に感ぜられる所である』（龜田氏日露辭典及其編纂者）

本書の解題は前記國學院雜誌第二十九巻第十一號を參照されたし。

魯學入門魯語杜礎（おろしや） 一册 大島良一譯 明治五年（西一八七二）刊 大阪 岡田伊三次郎氏藏

魯語箋 一册 緒方惟孝著 明治六年（西一八七三）刊 大阪 外國語學校藏

峩羅斯字考 册寫 大阪 鹿田文一郎氏藏

六、その他

五國語箋 一册 松園大人編 萬延元年（西一八六〇）刊 大阪 外國語學校藏

蝦夷語箋 一册 上原先生著 豐雲堂藏板 嘉永七年（西一八五四）刊 大阪 荒木和一氏藏

西洋韻字解 二册 歐文社主人著 明治五年（西一八七二）刊 大阪 荒木和一氏藏

上卷 英吉利、獨逸、下卷 佛蘭西、和蘭語

（一）魯文法規範　寫本　五冊　魯人兀老ロ、口授、馬場佐十郎筆記（文化十一年）
（二）魯　　語　寫本　一冊　馬場佐十郎筆記
（三）魯西亞國字反切音譯　寫本　一冊　足立佐内著
の三點で三書共刊本ではない。露語が蘭語に次で第一に我國に傳つた西洋語ではあるが只必要上一部の人にのみ研究せられ一般には行はれなかつたものでしたがつて我國に於ける露語學書の刊行は他の語學書にくらべると非常に少ないがかへつて露西亞に於ける日本語研究の方が餘程進んでゐたもので遠く寶永二年（西一七〇五年）頃にペテルブルグに於て日本語學校が創立され當時カムチヤツカに漂流した日本人傳兵衞といふ者が日本語學校の教師をしてゐたといふ程でその當時に露語の日本文典、辭典、會話等が刊行されてゐたといふ事である（露西亞で刊行された日本語學書の事は國學院雜誌第二十九卷十一號に龜田次郎氏の露國創日刊露辭典及其編纂者に詳細に述べられてゐる）

魯西亞字筌

一冊　榊令輔譯　安政二年（西一八五五）零雨山房藏版　東京　勝俣銓吉郎氏藏
東京　林若吉氏藏

ろしやのいろは

一冊　箱館領事館付　宣教師　マホワ著　萬延二年（西一八六一）箱館出版
本書は安政五年に渡來した箱館駐劄の露國領事館付司祭官イワン、マホワ師が編纂せるものにて題簽の版木は露都國立圖書館にて保管されてゐるといふ。

和魯通言比考

一冊　Russko-Japonskij Slovar.'（日露對譯辭書）　大阪　鹿田文一郎氏藏
ゴシケーウイツチ編纂　日本人橘耕齋補助　西一八五七（安政四年）ペテルブルグ出版
『編纂者が日露兩國人であるのが奇とすべきであるのみならず當時鎖國令嚴行の世に而も日本人の姓名が明かに記され露西亞文字の下に

英獨掌中洋學訓蒙　折一册　銅版　英獨堂藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨和字典　洋一册　薩摩學生編　明治六年（西一八七三）　上海版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに明治六年第五月　獨和字典　官許とありタイトルページは Deutsch japanisches woerterbuch mit Einem Verzoinis der unregelmässigen Zeitworter. erste Auflage shanghai amerikanische mission Buchdruckerei. 1873とあり、次の頁に吳中子勤錢懌（同治十二年）の序、その裏の頁には「日本文にて」薩摩學生、松田爲常、瀨之口隆敬、村松經春、の序がある。その序に前略『獨逸教師ワクネル氏に謀り獨蘭、獨英、及びホツフマン氏且ツウエベル氏の字書を參考し和譯を付して活版に上し以て同志に便にす』下略とある。その次の頁には『獨文』の Der Schuler von Satzma（即ち薩摩學生）の序がある、頁數は七百十二頁、卷末に不規則動詞表「七頁」がある

五、露語

文化の初め我國の北を騷がしてゐた露艦を捕へそれに乘込むでゐたゴロブニン外七名を松前に幽閉した幕府は馬場佐十郎、村上貞助、足立佐内等をして松前に派して露語を學ばしめたがその中で馬場佐十郎は最も能く露語を修め文法をも理解し自ら『露和字典　俄羅斯語小成』十一册（文化十年）を完成して幕府に獻納した是れが我國に於ける露語學書の嚆矢であるとせられてゐる。私はまだその本を見た事も又何處に所藏されてゐるかを聞いた事もないが大槻文庫書目に馬場佐十郎と足立佐内の露語に關する著書が二三載つてある。

獨逸語學捷徑　二冊　中村秋三譯　明治五年（西一八七二）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨逸早學門　一冊　中村最文（一翠）著　東京歐學社藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏
（橫文字早學問の獨逸語部）

獨逸橫文字獨學　初編　一冊　青木輔清著　明治五年（西一八七二）紀伊國屋源兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨逸作文階梯　一冊　峯山散人著　明治五年（西一八七三）刊　大阪　外國語學校藏

獨逸英吉利洋學訓蒙　一冊　福富淡水著　明治五年（西一八七二）小川柳影軒　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

孛和袖珍辭書　一冊　明治五年（西一八七二）東京學半社　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏
S. oda, S. Tudji Sakurai. の一八七二年の序あり。本書は英人ウェール氏の獨英辭典より引用せるものにして獨逸人フハーレル氏の一閲を經て刊行せしといふ。

獨逸文典直譯　二冊　中村雄吉譯　明治五年（西一八七二）誠之堂　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨逸學入門　一册　春風社編　明治四年（西一八七一）中外堂　刊
大阪　荒木和一氏藏

獨乙九ツ以呂波　一册　柳垣榮著　明治四年（西一八七一）松延堂　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨逸七ツ以呂波　一册　森田清之著　明治四年（西一八七一）　刊
大阪　外國語學校　藏

獨逸會話集成 初編　一册　西村周次郎、中村須一郎共編　明治四年（西一八七一）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

獨乙語學篇　一册　歐學舍篇　明治四年（西一八七一）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英獨橫文字早學　一册　明治四年（西一八七一）　刊
大阪　岡田伊三次郎氏藏

普語箋　一册　中村雄吉譯　明治五年（西一八七二）萬笈閣　刊
一名獨逸語箋
大阪　外國語學校藏

獨逸學入門

東京　勝脵銓吉郎氏藏

大型本　一册　明治三年（西一八七〇）大學南校　刊

Die Ersten Lectionen des deutschen Sprachunterrichts,

語學の中で最も後れて開けたのは獨逸語である、江戸の開成所に於て萬延元年（西一八六〇）獨逸語の語程を立てたといふが實際開講したのは四五年も後の事であると思ふ。そして相當獨逸語を學ぶ者が出來たのは明治二三年頃であらう、本書の刊行以前に獨逸語學書の著述をみないのもその所以であらうと思ふ、しかしそれより以前に長崎に於てその當時來朝してゐたポンペによつて獨逸語が開かれたのは事實で江戸に於て（明治三四年頃）獨逸學を專攻する春風社と稱する學塾を開いた司馬凌海（佐渡の人）もポンペから獨逸語を習つて江戸に來て獨逸語を弘めたといふ事である。この春風社には凌海を中心として中村雄吉、西村周次郎、中村須一郎、大熊春吉、宮口祐平等の獨逸語研究家が集つて、獨逸單語編、獨逸語階梯、獨逸熟語集、獨逸文典字類等の語學書を盛んに刊行して斯學の發達につとめた、したがつて當時刊行された獨逸語學書には春風社同人の著者が多い。

本書は明治二年刊の佛學初歩と同じく本邦唯一の大型本で和紙に木版刷で總てが大字で書いてある。どうしてこんな大きな本を作つたものか一度調べてみたいと思つてゐる。

獨和字類

大阪　岡田伊三次郎氏藏

一册　明治四年（西一八七一）京都　南商社　刊

Deutsche Bocabeln mit japanischen

挿譯佛蘭西文典　一册　橋爪貫一著　明治三年（西一八七〇）文苑閣藏板　大阪　岡田伊三次郎氏藏

法朗西單語篇　一册　明治三年（西一八七〇）開成所　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

佛學捷徑七ツ以呂波　一册　橋爪貫一著　明治三年（西一八七〇）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

通俗法朗西單語篇　一册　明治四年（西一八七一）戸澤光德著　聖麓嵓藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

佛學初級　一册　明治五年（西一八七二）渡部一郎（温、梧堂）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

官許佛和辭典　洋　一册　明治四年（西一八七一）長崎　好樹堂譯（上海版　東京　林若吉氏藏

英佛一語便覽　一册　浮田練要、川原一石、西村周助、篇輯　明治五年（西一八七二）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

日英佛十字いろは早學　一册　都壽舘　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

法朗西單語篇　一冊　慶應二年（西一八六六）開成所　刊　大阪　高尾彦四郎氏藏

法朗西文典　一冊　慶應二年（西一八六六）柳川春三復刻　大阪　荒木和一氏藏

法朗西文典　後編　一冊　慶應三年（西一八六七）柳川春三復刻　大阪　荒木和一氏藏

佛蘭西會話篇　一冊　慶應三年（西一八六七）江戸開成所　刊　東京　勝俣銓吉郎氏藏

小林貞之助編とあり即ちタイトルページに Nouvean Guide de Conversations moderues en Francais A- L' usage de L' Ecole Kaiceizio A Yedo. par kobayashi Teisaugue. en l'au 3. kei-ou とある

英佛單語篇註解　一冊　慶應三年（西一八六七）開成所　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英佛單語便覽　二冊　桂川甫策撰　慶應四年（西一八六八）辻恕介序　理外無物樓藏版　大阪　荒木和一氏藏

佛語箋　巻一　一冊　加藤雷洲著　望洋堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

蠻語箋、英語箋と同じ様式にて天文、地理、時令より醫薬、言語に終り、附錄に萬國地名箋を附せり。

佛語初歩　大型本　一冊　明治二年（西一八六九）開成所　刊　東京　勝俣銓吉郎氏藏

に獨逸語を原文綴りのまゝを掲げたるものにして其言葉の種類は天文、地理、身體、疾病、金石、醫藥、數量、地名、言語等にて語數は凡そ三千數百個あり。本書の外に佛英獨三語便覽あり再版の際蘭語を獨乙語に改めたりといふ、嘉永六年（一八五九）の著翌七年鹽谷世弘、小林至靜の序あり

村上義茂　字　棟梁、號　茂亭、松翁、通稱　英俊、下野那須郡の人

江戸に出て足立無涯、大野鏡湖等に從學し後宇田川榕庵の門に入り蘭學を學ぶ。天保十年松代に行きて醫を業とし弘化元年松代藩に仕ふ、後又江戸に出て蕃書調所の教授方に任じ又飜譯掛を命ぜらる。

五方通語、佛蘭西語林、佛語朋要等の著あり

大阪　荒木和一氏藏

官版佛郞西單語篇

一册　文久二年（西一八六二）洋書調所飜刻　萬屋兵四郎　刊

本書は慶應二年（西一八六六）に二版　明治三年（一八七〇）に三版を出せり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

佛語朋要

五册　（金澤學校舊藏本）　村上英俊著　元治元年（西一八六四）達理堂藏板

その凡例に英俊が佛學に志した理由を擧け本書編纂の經路を明かにして曰く『嘉永元年五月初め佛蘭西文典を取つて、之を閱する事五閱月聊か文法を知る、故に更に別爾擺律私（ベセリユース）の著書（註、佐久間象山と謀つて和蘭へ蘭文化學書を注文せしが過つて到着した佛文化學書）を取つて、之を閱するに一行も讀むこと能はず、遂に語書に因て語を度索して指意を探り、晨夜專意積精する事茲に十有六月にして。悉く讀得る事を得たり』といふそしてそれが爲めに齒痛を患ひその困害は言を以て說く能はずと云つて居られる、本書は我國に於ける佛和對譯字書の嚆矢である。

英語名藏掛　一册　（發行年號等記載なし）　大阪　高尾彦四郎氏藏

和英五體いろは　一册　（發行年號等記載なし）　大阪　外國語學校藏

英學のはじめ　手引草　一册　戸田忠厚譯　（發行年號未詳）　大阪　外國語學校藏

和英辭典　洋　一册　南條文雄著　明治十九年　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學新誌　初號より十九號まで　明治十八年四月十三日發刊　東洋英學協會編　大阪　岡田伊三次郎氏藏

三、佛蘭西語

佛英蘭三語便覽　三册　村上英俊著　嘉永七年（西一八五四）序　達理堂梓　大阪　岡田伊三次氏藏

英學に次いで開けたのは佛學で松代の村上英俊はその開祖である。しかし佛學は既に長崎の通詞の中に相當通ずる者があつたらしいがその開發の功は矢張英俊であらう。英俊は嘗て佐久間象山と謀つて和蘭にベセリウスの化學書を求めたが過つて佛語の譯書の方が到着した然るに偶然にも藩邸の庫中に佛蘭西辭典が一部藏されてゐたのを幸ひに之が研究に着手したそして僅か數年にして、佛書を讀み得るようになつたといふ。

本書は多くの名詞を擧げ、第一段に『天地旣成』『物』『自然』等の漢字にて日本語を掲げ第二段に佛蘭西語、第三段に英吉利語、第四段

英語字類　一冊　橋本貫一譯　東京誠之堂　刊　大阪　荒木和一氏藏

英學初學　一冊　明治六年（西一八七三）　阿左野藏とあり未詳　大阪　荒木和一氏藏

英文商家便覽　一冊　明治六年（西一八七三）寶集堂　刊　大阪　荒木和一氏藏

横文字百人一首　一冊　黑川眞頼撰　明治六年（西一八七三）文淵堂　刊　大阪　青木平七氏藏

横文字運筆自在　一冊　吉田庸德著　明治六年（西一八七三）　時習軒藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

National System of Penman Ship 英習字本

英國單語字類　一冊　外川正明譯　明治六年（西一八七三）開誠堂藏版　大阪　荒木和一氏藏

横文字雜書一覽　十冊　時習軒主人著　明治六年（西一八七三）山靜堂　刊　大阪　荒木和一氏藏

十字いろは早學　一冊　（發行年號記載なし）　都壽館　刊　大阪　荒木和一氏藏

洋家矜式　二册　橋爪貫一著　發行年號記載なし　青山堂　刋　大阪　岡田伊三次郎氏藏
（英習字本なり）

英和以呂波手習文　一册　發行年號記載なし　大阪　岡田伊三次郎氏藏
浪花　狹川峯三の序あり

英語二一體商賣づくし　二册　發行年號記載なし　東京文江堂　刋　大阪　岡田伊三次郎氏藏
銘酒屋、附木屋、鑄掛屋等をローマ字綴に直せり

西洋文字早學　一册　發行年號記載なし　大阪　岡田伊三次郎氏藏

リードル直譯　初編　二册　米國ウヰルソン著　小林逸平譯　明治六年（一八七三）竹苞樓　懐玉堂　刋　大阪　荒木和一氏藏

英學童観抄　卷ノ二　一册　三木光齋著　明治六年（西一八七三）　大澤堂藏板　大阪　荒木和一氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏

通辯獨學幷五大洲地名箋　一册　卜部精二著　明治六年（一人七三）　大阪　寶玉堂藏板

英語箋附錄

大阪　岡田伊三次郎氏藏

サルゼント第三リイドル　二册　松山棟菴譯　明治六年（一八七三）

和英對譯書牘類例　一册　何幸五編　明治六年（一八七三）　神奈川縣開板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

陸奥宗光　大江卓の序あり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

橫文字初學　初編　一册　清潭光著　明治六年（西一八七三）雁金屋元吉　刋

大阪　岡田伊三次郎氏藏

掌中洋學訓蒙　一册　發行年號等未詳

大阪　青木平七氏藏

英文日本リーダー　一册　William Griffis著　明治六年（西一八七三）橫濱出版

明治五年文部省が教科書に認定せしものなり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英語挿譯綴字書　第二集　一册　志水洋遊譯　伊靜居藏板　明治六年（西一八七三）　刋

英和對譯辭書　一冊　荒井郁著　明治五年開拓使藏板　小林新兵衛　刊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

例言に『本書は英華辭書、ウエブスター辭書等を校して之を梓行す、舍密礦山の語は敎師『アンテセル』に質し其緊要なる者を輯めて之を挿入し以て附錄と爲す、測量算術の語は『ダヴース』氏算術辭書より拔萃して之を補ふ、』（以下略）と　巻末に各國貨幣度量表を附せり

英和通信　洋　一冊　明治五年（西一八七二）刊　松本孝輔藏板　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

假名附英學階梯　一冊　明治五年（西一八七二）翰林堂刊　　大阪　高尾彦四郎氏藏

東京生產會社編の三册ものを袖珍本にして刋行せるもの

西洋畵引節用集　二編　一册　井上廉平著　長谷川貞信畵　明治六年（一八七三）寳玉堂　大野木市兵衛　刋　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學進步　一名スペルリング譯　一册　伊東經兒郎譯　明治六年（一八七三）　刋　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

改正増補**英語箋**　二册　卜部精一譯　明治六年（一八七三）　大阪　寳玉堂藏版　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

語學便覽　初編　英吉利部　一冊　青木輔清著　明治五年（一八七二）刊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英和書翰　初編　一冊　三十二葉　見返しに　明治五壬申夏　マクマン氏閲
薩摩　日高實廣著　官許　水哉亭藏板とあり　上段に和文書翰文を下段に英文書翰文を對譯せり　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

挿譯英文典　册　米人　ピネオ著　忍藩　榧木寛則譯　明治五年（一八七二）雄風館藏板　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

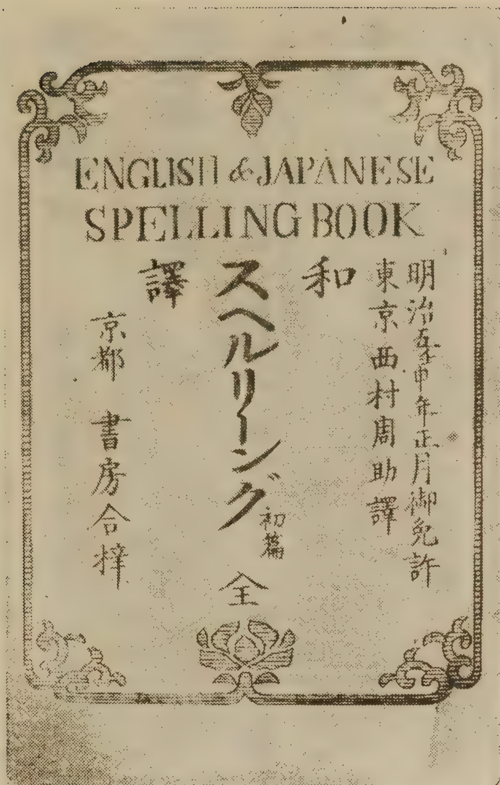
傍訓英語韵礎　一册　北立學同社編　尺振人　須藤時一郎述　明治五年（一八七二）刊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋語音譯筌　一册　村田文夫編纂　明治五年（西一八七二）天民舘藏板
凡例に曰『余甞て漢譯書を閲するに人名地名に至ては人々自己の意を以て之を譯す故に十人十異なり一人前後或は同じからず又洋人漢字を修むるもの之を譯するありて各國人譯するに各國の語音に據る是を以て一地名にして十餘稱に至り紛如として殆んど辨認しがたし』（中略）今此編は漢譯書中より先輩の譯例を抄輯し國字を以て之を分ち其尤も切實にして通語となれるものを大書し類譯を其下に箱註し以て譯例を羅列し、別に撿音篇を附載して旁ら譯書を讀むものの搜索に便とす』と云へり。

通俗英吉利會話篇　一冊　小林好謙著　明治五年（一八七二）浪華寶文堂　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

袖珍英和節用集　第二編　一冊　吉田庸德著　明治五年（一八七二）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏



大阪　岡田伊三次郎氏藏

和譯スペルリング　初編　一冊　西村周助著

明治五年（一八七二）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋學指南　一冊

明治五年（一八七二）球文社藏板

大阪　岡田伊三次郎氏藏

改正増補 英語箋　二冊　萬笈閣　刊

石橋政方譯

便靜居主人（島桂潭）校訂　明治五年（西一八七二）

豚屋主人の序あり　萬延版を増訂せしなり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

交際必携英和對牘　二冊　英人グレゴリー著　青柳毅譯　明治五年（一八七二）日新堂　刊

和英對譯の書翰文範なり

クアッケンボス
ピネオ兩先生 **英文典字類** 二冊 央坡散人序 明治五年（一八七二）刊

序に『便靜居主人某氏に囑し米英二大家の文典中に於て最緊要の語類を拔萃し部を分ち國語を附し以て搜索に便にす』と

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英語圖解 一冊 未詳

大阪　岡田伊三次郎氏藏

挿譯 **英和用文章** 一冊

是洞能凡類譯 明治五年（西一八七三）刊 是洞氏藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

單語圖錄 一冊 中村宗廣畫

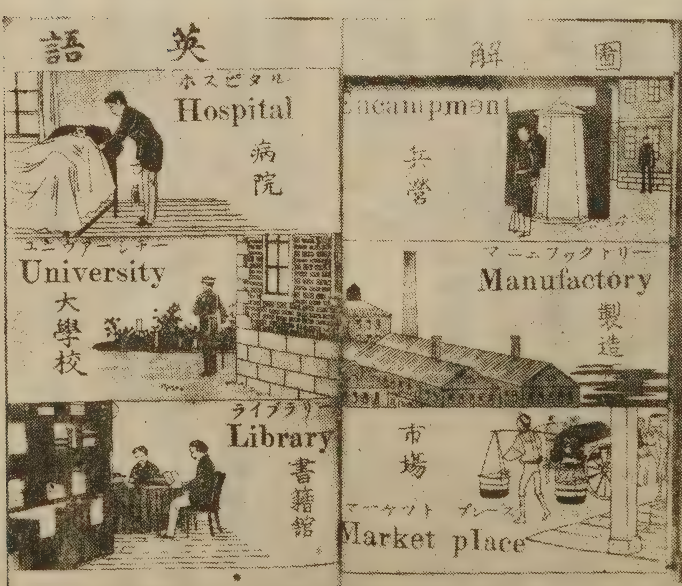
明治五年（一八七二）近山章一（安則）著

英佛の單語に挿畫を入れて和譯せるもの

大阪　岡田伊三次郎氏藏

通辯英和一席話 一冊 清貧社如水著

明治五年（一八七二）香芸堂 刊



大阪　岡田伊三次郎氏藏

大阪　岡田伊三次郎氏藏
挿譯英吉利會話篇　四册　島一慮（桂潭）譯　明治五年（西一八七二）二書房　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
英學文章獨學　初篇　一册　西村周次郎譯　明治五年（西一八七二）文苑閣　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
英會話獨學　一册　青木輔清著　明治五年（西一八七二）
一名英和通商調法

大阪　岡田伊三次郎氏藏
英單語譯解　一册
著者刊行年號明記なし未詳

大阪　岡田伊三次郎氏藏
西洋畵引節用集　一册　井上廉平著　長谷川貞信畵　明治五年（一八七二）大阪　大野木市兵衞　刊
（明治六年に第二集を刊行せり）

大阪　外國語學校藏
英和いろは　一册　岩崎先生著　明治五年（西一八七二）　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏
西洋文字稚繪解　一册
發行年號等未詳

大阪　岡田伊三次郎氏藏
英漢對譯大學　一册　關吉孝著　明治五年（一八七二）　刊
一名西洋四書

英學捷解　一册　銅版　二十葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

明治五年、浦谷義春（京都の人號翌洞といふ）の著にしてサアゼント氏の第一英語讀本を銅版にて翻刻しそれに直譯を加へたるもの（浪華合書堂藏版）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學童子通　初編　一册　三十九葉　（和泉屋市兵衛刊）

明治五年の序あり。青木輔清譯。内容をみるに、西洋時の事、日月年の事、英吉利文字の事、横文字習法の事、横文字用法の事、字綴の事、西洋年號の事、各國貨幣相塲の事等の項目を載げその一章英吉利文字の事をみるに『方今英吉利國亞米利加國等にて用ゆる所の文字は其數僅に二十六なれども大凡天下萬事萬物皆二十六字に頼つて之を書くにも差支なし其之を用ゆるの法は文字を變綴して音を調へ音を定めて言となし言を積みて句となし句を重ねて章となす其變化窮なし但し二十六字の中にて一字其儘にて意をなすA I Oの三字に限るA私I一つO歎息詞等なり。其他は必ず二字以上聯貫せざれば意をなす事なし、之を書くに皆左より起りて右に達す故に是を俗に横文字又蟹行文字などといへども通例は此二十六字を總稱してエビシといふ是は日本にて假名四十七字をいろはといふが如し』と說明せり。

大阪　荒木和一氏藏

横文字早學門　一册　吉田先生著　明治五年（西一八七二）二書堂　刊

大阪　荒木和一氏藏

横文字早學門　一册　吉田先生著　明治五年（西一八七二）東京　山靜書屋　刊

大阪　荒木和一氏藏

英和早學字引便覽　一册　（銅版）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

English. Japanech Small Dictionary

本書は明治五年韃岳齋の藏版にして當時流行せる銅版を以て印刷せり。

英語便覽　初篇　一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

明治五年刊　卷尾に開誠舍梓とあり見返しに Phorases 英語便覽とありその下に異國人がこしをかけ日本の小供に横文字を教ゆる圖（木版）ありその序文に曰く『這の英語便覽は只僻地遠隔たる未だ師のあらざる田舍の幼童婦女子に彼の言葉を知らさん爲めにする』由を記せり內容は英國の二十六字は皇國の四十七字の如し、文躰四つに分つ、和英通韻數字の讀方、英單語、和英會話、俗解等簡易なる英語十數語を譯せり。

英文典獨學　一册　明治五年（西一八七二）　大和屋喜兵衛　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治五年戶田忠厚の著にしてカツケンボス氏の英字典を直譯せるもの。

英第一リードル插譯　一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治五年林箭山の藏版にしてウイルソン氏の英語讀本に直譯を附せるもの。

淺解英和辭林　洋一册　內田晉齋編　明治四年（西一八七一）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

童子教　飜刻　一册

Lessons on the Forms and Jounde of the Letters 發行年月等未詳

大阪　岡田伊三次郎氏藏

掌中洋學童字訓　一册　小川柳彰軒編　明治四年（西一八七一）刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

New Guide to modern conversations in Englisch By Bellenger

發行年月未詳　東京　明治四年刊とあれども上海版らしく思わる

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和英言葉の通し　一册　十二葉

大阪　岡田伊三次郎氏藏

表紙に日本、西洋、支那の婦人の圖畫を現し、見返しに英字にて後藤とあり明治二三年頃の發行ならむか著者未詳、卷尾に神戸柴屋久四郎、神戸京屋直助、大阪綿屋喜兵衛の書肆名あり、內容は時計の早覺、いろは假名をローマ字に直せるもの、英吉利の言葉、紅毛の言葉、南京人の言葉等を載せ英單語（英字を記せず）百餘言を譯せり。

見返しに東京書肆萬笈閣發行　橋爪貫一著とあり源 Hgen ゲン　藤 Tod トウ　彦 Hiko ヒコ等百數十の漢字にローマ字綴と讀み方を附したるもの明治四年（西一八七一）刊

英字訓蒙　一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は著者發行所等未詳、明治四五年頃のものならむ内容はいろは五十音春夏秋冬數字等を英譯せり。

英字早滿奈飛　一册　大阪　岡田伊三次郎氏號

本書は發行年號著者共未詳。ペンを以て書く事を說明せるその一節に『墨は墨汁にて綠礬護謨（水に和する樹脂）を以て製したる墨汁を壺に入れ置き筆は鵞或は他の鳥の羽根を筋違ひに切り先へ割目を入れ或は鋼鐵銅金とを以て拵へ軸へ嵌め用ゆるなり筆の持ちやうは軸の先の方を食指と中指の間に挾み筆を起てゝ書くを忌むなり』と。

英吉利會話篇　一册　明治四年（西一八七一）再板　渡部一郎編　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英語對覽本朝辭源　合本薄葉一册　大阪　岡田伊三次郎氏藏

宇田甘冥著　堀越愛國校　岩崎松龕　信夫吉緒藏梓　明治四年（西一八七一）　刊

英譯漢士訓語　一册　Chinese moral maxims　英人デーヴィス著中村正直譯　大阪　荒木和一氏藏

明治四年（西一八七一）の序靜岡　木平氏藏版

通音五十韻英字早まなび　一册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年頃（？）の發行ならむ英アルファベット（大文字木板）英五十韻を初學者の爲めに記せり。

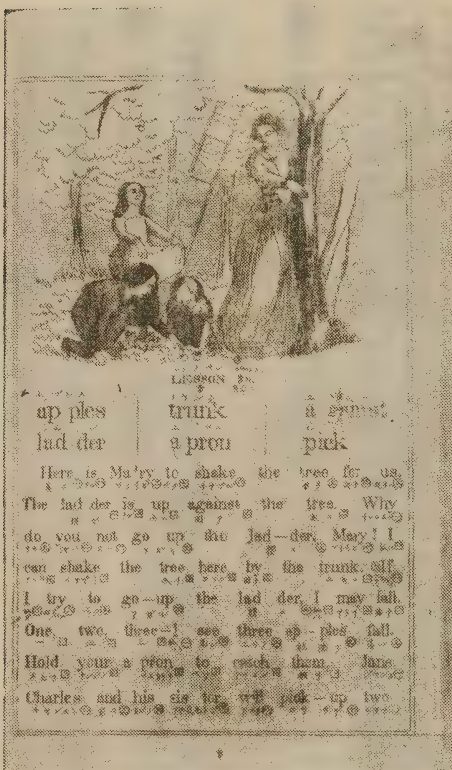
英字訓蒙圖會　一册　明治四年（西一八七一）西京　木村宗助　小川金助發行

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英訓蒙圖會序に曰

登レ高必自レ卑行遠必自レ近信哉柳小河之擧爲ニ兒童ー抄ニ出洋語若干ー旁以ニ繪像ー解レ之者將令下難之不レ覺レ難婾自優疏以到中高遠之域上者亦所四以俾三覽者無ニ輕視ー者諭在ニ于斯ー乎

樵雲逸史題



サーゼント、スタンダート　ファストリーダー　一册、五十六葉

大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに木版にて異國婦人が小供をいだき他の二人の小供に英語を敎ゆる所の圖を載せその上に　Sargents standad Fist Reader Yokohama　とあり一八六六年と（原書そのまゝの發行年刊あり）各一葉に挿畫（木版畫）を挿入せり。

英字三體名頭字盡　一册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學階梯　一冊　二十五葉　松岡啓著　明治四年好問堂藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

（別名洋學階梯とも稱す）

英文か那つかひ　一冊　十五葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（西一八七一）島桂潭の著にしてスペルリングより拔萃して假名附けしその下に譯語を附せり。便靜居主人の序あり。萬笈閣發行　大阪　岡田伊三次郎氏藏

格賢勃斯英文典挿譯　初篇一冊　三十五葉

（桂潭）島一德譯　明治四年森簇軒藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學蒙求　初編一冊　一名プリメル挿譯

本書は明治四年（西一八七一）關德堂の著にしてムツク、クフィース氏の英語讀本に挿畫を入れそれに譯解を加へたるものなり島一德の序文あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏



英獨横文字早學　一冊

明治四年刊　著者發行所未詳

英單語篇增譯　一册　三十八葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（西一八七一）京都の人　松岡畏（號子保）の譯にして單語千五百餘に讀方と譯解を加へあり、慶應二年發行英吉利單語篇の譯なり、日本紙に銅版を以て印刷せり。見返しに Book of Instruction for the children Vol Fist edition anno 4 meizi とあつてそのかたわらに。小兒に向て如何とすれば書物を教へ得るか卷の一第一の出版　明治四年と譯せり。

英吉利單語篇　一册　明治四年（西一八七一）刋　大阪　岡田伊三次郎氏藏

タイトルページに Book of Instrnction for the children at Saikio Vol. I. First Edition Anno 4.Mei-zi とあり表紙に銅版にて英國旗の圖案の中に增補英吉利單語篇新刻とあり卷首に英アルフアベツト、ローマ體、イタリツク、二葉ありその外は開成所の英吉利單語篇の板木をそのまゝ使川せるものならむ西京とあり京都にて刋行せられるものなるか發行所未詳。

横文字六大洲國盡　二册　橋爪松園輯　明治四年（西一八七一）刋　大阪　三宅吉之助氏藏

英學階梯　一册　二十二葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

タイトルページに The stepping stone to the Reading and spellring of the English Language とあり先の英語入門の續篇なり、明治四年石川寧靜齋藏版

イ一　膽 Gall（サール）　イ二　池（イケ） pond（ポンド）　イ三　泉（イヅミ） Fountain（フオンテイン）

字數凡そ二千餘語を載げたりといへどもその發音に於ては和蘭語を加味せる發音多く Alphabet の譯字を亞彼泄（アベセ）を以てせるが如し。（明治五年に第二編を刊行せり）

和英雑書名頭字盡

一冊　四十四葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）内川勇の著にして全文ローマ字の綴方を以てし附錄に五大洲の名、機械の發明、英吉利詞等を記載せり東京保永堂發行。

スペルリング直譯

一冊　五十四葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）大阪同文館の發行にして當時英語を學ばんとする者は必ず『スペルリング』をその階梯とせしものなれば本書の如きスペルリングの譯解せしものすこぶる多く本書もその一つにて序文にも曰『此書はウエブスター氏のスヘルリングブックの直譯なり洋人に就きて英語を學ばんとする者大概先づこの元本より始む蓋し此書の簡便にして實用なるに依つてなり』と云へり。本書は英文をまじへず解譯のみなり。

英和通信

三册　初篇一册　八十四頁　二篇一册　九十頁　三篇一册　八十四頁　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）東京生產會社の編纂せるものにして英語の通信文に羅馬字綴りの日本文と對譯せるもの。全文英活字を以て日本紙に印刷せり。（明治五年、松本孝助藏版『總皮製袖珍本一册のもあり』）

英文典便覽　一册　青木輔清著　忍縣洋學校藏板　明治四年（一八七一）刋

大阪　荒木和一氏藏

童蒙英學初步　一册　三十五葉

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）桂潭島一德の著にして表題の示す如く英語を初めて學ぶ者の爲め英二十六文字を羅馬體、艸體、伊太利體等に分け又いろは五十音を羅馬字體に綴りそれを又三體に分類し附錄に英文典をも簡易に說けり。柳雨女史の序あり。

慶應義熟讀本　一册　七十九頁　慶應義塾　刋

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年の出版にしてサルゼント氏第三讀本をそのまゝ翻刻し教科書として使用せるもの。全文英活字を以て洋紙に印刷せり。後明治六年松山棟菴本書を飜譯してサルゼント氏第三リードル二册を出版せり。

通俗英學入門　一册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）石川寧靜齋藏版平住摩利の著にして英語入門の書なり（明治六年再版せり）

通俗英吉利單語篇　二册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は一名英語字引と稱し明治四年（一八七一）梅浦元善の著にして英單語、凡四百餘に讀方と譯解とを附したるもの。發行所は西洋書屋和泉屋半兵衛なり。擇善居藏版

袖珍英和節用集　一册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治四年（一八七一）中村最文藏版　吉田庸德（名、耕）の著にして當時廣く行わるゝ伊呂波引節用集の體裁にならい部類を區別してその譯音の數に從ひて各々英語と讀方を附せり。試みに『伊』の部を見るに。

大阪外國語學校藏

童解英語圖會　二三輯　二册　弄月亭主人とある　明治三年（西一八七〇）刊

大阪岡田伊三次郎氏藏

西洋蒙求　一册　四十二頁

A Book of Lessons. anec-Dote とあり明治三年（一八七〇）無盡藏（沼津、渡邊一郎）の藏版にして全文英活字を以て日本紙に印刷せりタイトルページをみるに A Book of Lessons for the use of school. (Published, By permission of the school kaisezio) その內容はアメリカ史ロシア史、佛國革命史等にして少しく英語を解し得る者の爲め洋書を翻刻せるもの。

大阪岡田伊三次郎氏藏

英文典直譯　二册　百二十九葉

本書は明治三年（一八七〇）慶應義塾藏版、永島貞次郎の譯述せるものにしてピネヲの英文典の直譯なり。當時慶應義塾の教科書として使用せるものなり。（尚古堂板）

大阪外國語學校藏

和英通語　天、地　二册　松岡章編　明治三年（西一八七〇）刊

大阪岡田伊三次郎氏藏

橫文字獨學　初編一册　十五葉　二編二册　四十葉　三編二册　四十三葉

本書は明治四年（一八七一）忍藩洋學校藏版　青木輔淸の著にして初篇に於てはアルファベット、數字等、二編に綴字及單語、三編には英文法、英文和譯、手紙の書き方等にしてその序文に曰『方今洋學の神洲に延蔓するや一日は一日より盛なり而して吾藩學校の如きも生徒既に數百名に及べり或は農商の子弟來學する者亦尠からず然るに窮鄕僻地に至つては偶々志を立る者ありと云へども其端を知るに由なく遂に其の望を廢止する者亦多からん歟故に今斯の學の端緒を摘摭し梓に災して一時謄寫の勞に換ひ此等の輩に頒與し聊か遼途中の捷徑となし其步趨に便ならしむ』と云へり。

エビシデイなるもの則我國のイロハと同様なるものなり』と説けり。

英學入門　一冊　十二葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は明治二年（一八六九）の刋行にて石川寧靜齋藏版（石川彝（翰林堂福田屋幸七の發行なり即ち The Frist primer for the use of Englishschools と稱する木版にて印刷せる英語讀本なり。（明治六年再板を發行せり續編を英學階梯と云ふ）

和英對譯商用便覽　初篇　長崎　大鳥藏版　大阪　鹿田文一郎氏藏

安政六年版の見返し題䇳を變へて明治二年（一九六九）刋行せるもの

和譯英辭書　洋一冊　明治二年（西一八六九）上海にて印刷　東京　林若吉氏藏

日本薩摩學生編とあり故に本書を俗に薩摩辭書と云ふ前田正名が指導者となつて編纂せしもの。

英吉利文典　一冊　三十一葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに英吉利文典　明治三年庚午孟春　福田氏藏版（老皂館の印ありタイトルページを見るに The Elementary eatebhismus. English Granmar Tokyo meiji 3 卷尾に東京萬屋兵四郎發兌とあり。内容は全部木版　英文典の翻刻なり譯解なし。

童解英語圖會　一冊　十八葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに Pictoral English Hand japan Languoge　明治三年（一八七〇）東京文求堂梓　著者弄月亭陳人　圖畫齋門嶌人とのみにて未詳、單語百五十餘に一つ〳〵挿畵を入れ對譯せるものにしてその序文に曰く『譯書の勉强を假初の兒戯及玩弄と乍言片言おぼゆる辭もあらず聊、開化を進むるに似て方今萬國交際に微々細小も一助となりなん、されば是しも婬犯の媒妁となる小說稗史の眞似倣んには增よしあらん歟』と

ファベットより綴字に至るまで全部英文（木版）にて當時英學校にて使用の目的を以て修文舘英學校にて編纂刊行せるものと思はる。

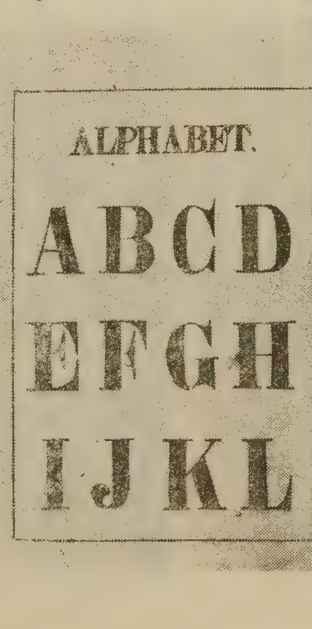
修文舘 は元慶應元年二月神奈川奉行役宅に文學稽古所を設け漢學の教授をし、菊地俊助を學頭とし同年五月林大學頭の選に依り之に修文舘の稱號を附したりしが明治元年横濱本町五丁目運上會所前の英學校と共に一旦廢校したり。然るに同二年十一月神奈川縣裁判所役人の盡力にて之を再興し、英佛學科を舊英學校に漢學科を舊修文舘にて教授せしが時勢の趨向は諸生英學に偏重するに至り後民費に移して英學校となし同五年八月星亨等の經營に成れる私立同文社をも之に合併し後共立修文舘の名を附し相生町六丁目に洋風三層樓の校舍を築き外人三名を雇聘し通辨、商業科の二を主とし川村敬三を取締に推し開校したるも同九年六月廢止せり。（横濱開港五十年史參照）　大阪　荒木和一氏藏

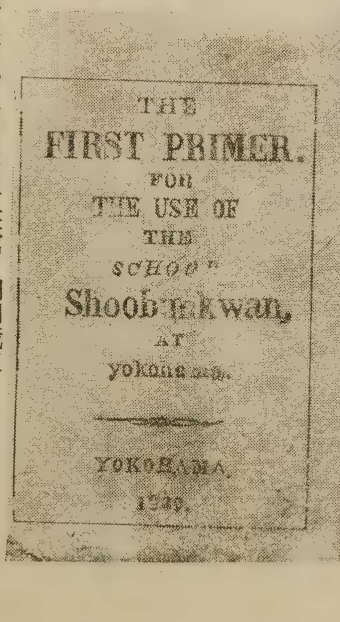
英華字彙　一冊　和紙洋裝

英、斯維爾士維廉士著　清、三畏鑒定　柳澤信訓點（中井履軒の凡例あり）明治二年（西一八六九）松莊舘　翻刻藏版

和英通輸階梯　一冊　（横本）　五十五葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返しに寺子屋の圖（木版）あり明治二年（一八六九）藤原祐一の序あり。品川英輔の著　巻首に『我國の假名は四十八字（其實は五十韵）を以て通用す英國は二十六字なり我國の假名に引當つれば足らざるが如くなれども綴り合せて用ふれば萬言自在也こゝに記する所の





を成せり今又之を「ウェブスター」氏の字典、華英字類等の諸書に就いて增補删正し以て世に公にす初學の君子幸に一覽を賜はゞ亦小補なきに非らず』と（尙古堂刊）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和英通韻以呂波便覽　一册　慶應四年（西一八六八）尙友堂主人校、土佐海援隊藏板　刊

稜字は菱湖の書、蟹行字は阿蘭陀人書とある。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英蘭會話譯語　一册　ガラタマロ授　渡邊一郞譯　明治元年（西一八六八）渡邊一郞　刊

ファンデルパイルノ英會話文典を譯せるもの。

大阪　荒木和一氏藏

和英初學便覽　單語ノ部　初編　一册　慶應四年（西一八六八）池門宙の序　浪華以友堂藏版

外國言附　一册

著者刊行年代記載なく不詳なれど明治初年頃の出版と思はる、出品者青木平七氏は『語學書の多くは片假名使用なるに此書に稍遊戲的に各葉に雅味ある畵を入れ文字は悉く平假名を以て記しある』と云へり。

大阪　青木平七氏藏

英語讀本　一册　十二葉　橫濱　修文館　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

見返し The First primer for the use of the school shoobun kwan at yokohama 1869 即ち明治二年（一八六九）橫濱修文館の刊行にしてアル

蘭人ファン、デル、ペールの著せる英吉利會話篇を刷行す然るに學兄川本、内田の二子之を開成學校の教師ガラタマ先生に從ひて直に我邦俗間の通語に譯出し以てこれを余に贈せり。余之を看るに惜哉其稿未だ全からず錯亂の處あり然るに二子既に遠く別れて其不足を求る事易からず因つて今之を自ら補削校定して曾てロンドンに留學せし友人外山子に訂して以て貿易市場彼我日用の便に備ふ』と

大阪　岡田伊三次郎氏藏

洋學指針　英學部　二十二葉

本書は慶應三年（一八六七）柳川春三の著にして先に蘭學の部を著し後本書を著せり、英文字七體より綴字等を簡易に說けり新宮篠崎隆由の序あり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和英初學便覽　一册　二十二葉

本書は慶應四年即ち明治元年（一八六八）池門宙（號徹雲又渡雲道人と稱す）の著にして英語の初步なり單語二百餘を對譯せり。浪華以友堂藏版。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英文熟語集　一册　八十六葉

本書は慶應四年（一八六八）慶應義塾の藏版、中津藩、小幡篤次郎の著にして序文に曰く『方今英書を讀むもの日一日より多し然るに世に字典缺乏す英和對譯袖珍辭書（堀達之助の著）なるものは世人能く知る所にして初學必要の書なり此を除く外に絕て搜字に供するものなければ英書を讀むもの所謂前詞付きの働辭組立、副辭等なるものに至るまで頗る困苦す之を舶籍に求むれば容易く得べきものなれども舶籍往々浩瀚なるを以て搜索稍々煩勞なり余が兄弟亦嘗て此困苦を知り之を師友に敲き之を字類に求め從て得、從て記するもの既に小卷

英語箋階梯

（圖入）鳥の部　一册　十六葉　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は慶應三年（一八六七）河部櫟齋の著にしてその序文に曰く『夫堂にのぼり室に入る事を求むるはその階梯を得るにあらざれば能わず幼兒の英字を學び英語を覺ゆるに朝夕字になれ語に熟する事を階と梯とに比すべし。世に英語箋ありてこれを階梯なりと雖も片假名をさへ知らざるものあり今この書によりてその物を圖にし世に公にすと（將翁軒藏版）◎河部喜任、號を櫟齋と云ふ水戸の人なり。

大阪　外國語學校藏

英學捷徑九體以呂波

一册

大阪　岡田伊三次郎氏藏

揷譯英吉利文典

三册　河部友之進著　慶應三年（一八六七）河部氏藏版　刊

大阪　岡田伊三次郎氏

和英語林集成

一册　洋裝五百五十八頁　慶應三年（西一八六七）刊

Hepburn, A japanesse and English Dictionary With on English and japanese Index 1867（ヘボン編纂日本横濱梓行とあれども上海にて印刷せり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利會話篇

一册　五十葉

本書は慶應三年（一八六七）の刋にして蘭人ファン、デル、ペール（Van der pijé）の英蘭會話文典の英文のみを翻刻したるものにして後明治元年ガラタマ先生口授英蘭會話譯語一册四十二葉なるもの渡邊一郎により刋行せらる是れは本書の譯にしてその序文に曰く『余嘗て

横文字早學　一冊　十六葉

本書は慶應二年（一八六六）錦港堂の藏版にして英文字二十六字の習字法より羅馬字にて我國五十音の綴方に至るまで記載せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英語訓蒙　初編　一冊（飜刻）　慶應二年（一八六六）開成所藏版

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學階梯　（幼童必讀）　一冊　二十葉

本書は慶應三年（一八六七）寛胃堂の藏版にして木版活字（英文字）を以て日本紙に印刷せる英讀本にして原名は step By step と題する讀本を翻刻せるもの慶應三丁卯秋改正再刊とあれども未だ初版を見ず。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英學捷徑七ツ以呂波　一冊　十六葉

本書は慶應三年（一八六七）河部友之進（號碧海）の著にして英字二十六文字を始め數字、英字イロハ等初學の捷徑なり（播摩屋喜右衛門發行）



大阪　岡田伊三次郎氏藏

月發行の新舊時代に渡邊修二郎氏の『清水卯三郎の事一二件』の中に「清水は夙に和文の造詣があつたと見え何でも外國語を用ひず、和語で言ひ現はさんと試みた。萬延元年（一八六〇）に『ゑんぎりしことば』と題する英語會話の小册子を發行し全篇平假名で書きむつかしい文法の用語をも總て和語のような詞で名づけた。此本は發行部數も少なかつたに違ひなく、今日では殆ど見ることができなくなつた』とあるに依ると、明治前後佛蘭西の巴里に於てレオン、ロニーと共に『よのうはさ』と題する日本文の新聞紙を發行したといふ清水卯三郎の著である事は疑いない。清水は歸朝の後明治七年「ものわりのはしご」一名せいみのてびきといふ通俗化學の本を著し又その他「西洋烟花の法」「佛國新法烟火全書」と題する西洋花火の事を書いた本を出してゐる。

詳しい事は新舊時代第一年第四册第五册の井上和雄氏の「みづほ屋卯三郎」を參照されたし。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利文典字類

一册　六十六葉

見返しに應慶二丙寅（一八六六）中春新雕　薩陽、足立梅景編述、伊月郁舍藏梓とありその凡例に曰く

『此篇は官板千八百五十年（註即ちロンドン版）の文典に從つて編述す故に詞の種類を區別するも又之れに從ふ或は一言にして數種の詞を記する者は文章に從つて各其意を異にする故也又他の文典より補加する者は動詞狀名詞、疑門代名詞、固有形容詞、中性動詞、不規則動詞變化等是なり、亦名詞、格代名詞單複動詞法等の如きは此に載せず』と。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英語階梯

一册　二十五葉

タイトルページに English spelling Book, with reading lessons for the beginnues at the school kaiseizio yedo とあり。

本書は慶應二年（一八六六）開成所の發行にして和紙に木版（英文）を以て印刷せる英語讀本にして當時本書が開成所に於て使用せらるゝやこれが類似本多く世に行はるゝに至れり。

かな』を以て和英字書體に英語の名詞のみを譯解せるもの。

大阪　荒木和一氏藏

スペルリングブツク　一冊　慶應二年（西一八六六）　開成所　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利單語篇　一冊　七十六葉

タイトルページに Book for Instruction at the school kaiseizio in yedo Vol. 1. First Edition. yedo Anno 2 Keioa とあり本書は慶應二年（一八六六）開成所の出版にして英吉利文典と同じく全文英活字を以て雁皮紙に印刷せり。

（本書と同じ内容を有する佛蘭西單語篇　文久二年洋書調所）版あり。

横濱　輕部潄芳氏藏

新刻撰正 英語手引草　一冊　ケーエス、アソム撰　エバルハム著　横濱、錦誠堂梓

發行年號不詳、明治以前の刊行ならむ。

大阪　荒木和一氏藏

英和對譯袖珍辭書　一冊　堀達之助著　再板　慶應二年（西一八六六）

大阪　荒木和一氏藏

ゑんぎりしことば　一冊　あきうどのもちひならびにあひばなし　萬延元年（西一八六〇）

本書は歐文をまじへず丸文字の平假名を以て印刷されし英和對譯の會話書である、本書には著者、版元、等明記してないが大正十四年六

タイトルページに The elementary catechisms English Grammar at yedo 1864 とあり。

本書は元治元年（西一八六四）堀達之助の英和對譯字書と同じく開成所の出版にして全部鉛活字を以て雁皮紙に（兩面）鮮明に印刷せり卷尾に Groombridge and sons paternoster Row と記せり。表紙には横に English Grammar と横に縦に英吉利文典としてある再版以下は慶應以後の刊行である。本書は開成所の英語教科書として使用せられしものにして世に多く用ひられ五版まで出版せり。

開成所 は元蕃書調所と稱し安政二年十二月九段下牛ケ淵に設立せられ箕院作甫、杉田成卿、之が教授となつて西洋書籍の飜譯と洋學の教授を成し以て我國に於ける官學の創始を見、文久二年五月一日一ツ橋（今の商科大學の敷地）に新校舍を立て洋書調所と改名し同年九月之を開成所と改稱す（維新後、大學南校となり開成學校となり後東京大學となり今の帝國大學と成る）洋書調所の時代より開成所と改稱するに至るまで教授となりし人々は大島總左衛門（盛岡藩士）杉亨二、入江文郎、布野雲平（松江藩士）加藤弘藏（出石藩士）坪井芳洲（薩摩人）堀達之助（宇和島藩士）神田孝平（佐野藩士）子安鐵五郎、木村軍太郎、市川齋宮、柳川春三、何禮之、等にして又開成所にて出版せられしものに

一英吉利單語編　一英吉利文典

一英和對譯辭書　一海外新聞　一六合叢談（支那譯の海外雜誌を飜刻せるものにて毎月數回發行せり）

一鴉片戒　一虎列剌預防說　一重學淺說（德川幕府時代書籍考參照）

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英米通語　一冊

本書は元治元年（一八六四）萬國新聞紙の發行所横濱師岡屋伊兵衛の藏版にして天、地、人、金、石、船、獸、木等に分類し全部『ひら

大槻博士の（和蘭文典の譯述起原）にこの開成所の英文典に就いて次のような事が載せてある『安政文久の際英學勃興するに及びて幕府の開成學校にて英蘭對譯の英文典のありしを英文のみを採りて純なる英文典として出版せり鉛製活字にて鳥の子紙兩面摺洋裝なり。當時唯一の英文典なりしかば凡そ英學に入る程の者は此書より入らざるはなかりき然れども小さき本にして紙數も僅に八十ページ許なるものなりしかば人渾名して（木の葉文典）などといひて固より淺薄なるものなり。されど今の洋學家の四十歲以上の人にして此文典の庇蔭に頼らざりし人はあらざるべし。文彦も其一人に漏れずして此書より英學に入れり、されば『言海』も『廣日本文典』も遠く其淵源をたづぬれば此書より發せり、今昔の感なきにあらず』と徽々たる小冊子もその日本文化の進展に及した影響の偉大なるに驚嘆せざるを得ない。（英學事始）

英語箋　後篇　四冊　　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は文久三年（一八六三）の刊行にして前編三册後編四册より成り村上英俊之を閲しその門人室岡東洋　上原鳴一郎の兩氏校定せり。其凡例に曰く『此書は西洋人而獨比爾斯篤氏（Wih, medhurst,）の著　註Medhurst, an English and japanese and English vocabulary. 1830 バタビア版を譯したるもの』にして『英人に我國の語を學ばしむ爲めに作れるものなり故に我國語を片假名にて書きその讀法を彼の國字にて記したり此に由つて英語を記誦する時は英書は固より米書をも讀むも難とせず』と。

京都　帝國大學附屬圖書館藏

Medhurst, an Englidsh and japanese Vocabulary 一册　メッドハースト編　英和及和英辭書（西一八三〇）バタビヤ版

バタビヤにて支那人に書かせて石版に附したもの。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

英吉利文典　再板　一册　六十三葉

と、男女の間にもその用語同じからざるもの多きこと、殊に學者間の用語は極めて難解なり外人にして日本語を解するもの少なからざるも貴賤の用語、男女の用語を完全に理解する者はほとんど稀なり。ブラオンは日本語に此不便あることを知れり彼の文典は俗語を主旨として著したるが故に世に利すること最も廣しと』

東京　林若吉氏藏

Colloquial japanese. or Conversational Sentences and Dialognes in Englisch-japanese index By Rew. S R. Brown A.M. shanghai 1863

林若吉氏に乞ひて特に上海版の出品を願ひしなり。

ブラオンは日本に來る前久しく淸國に在留し敎育と宗敎に一身を委ねたるが故に淸人中に彼の門下生にして有用の人物となりし者少なからず彼はヘボンと共に始め神奈川の米國領事館の近傍の一寺院に數年の間住居したりといふ、支那語に熟達せしが故に日本語にも他の外人よりも遙かに上達せり文久二年十月幕府の命に依り橫濱に英語學校を開設し神奈川縣附屬の譯官石橋助十郎、太田源三郎を助敎となし奉行所々屬の子弟と近傍の少年を集めて英語を敎授せしも慶應二年十月の大火に此校舍も類燒し其まゝ廢絕す。

當時氏の薰陶を受けしもの本多庸一、押川方義、井深梶之助等知名の士多し。（橫濱開港五十年史）

英吉利文典　俗に（木の葉文典と稱す）初版　一册　開成所　刊　東京　勝俣銓吉郎氏藏

本書は又新堂刊の伊吉利文典とその原本を同じくし即ち一八五〇年ロンドンにて出版された。Elementary Catechism, English Grammar の復刻で英和對譯辭書やファミリヤルメソードと同じ活字を以て雁皮紙に印刷してある初版は（元治元年）の再版より少しく型が小さいそして表紙に英文で Englissh Grammar とあるだけで再板以後の表紙は英文の下に英吉利文典と縦に記してある。初版の刊行年號は明記してないが文久二三年頃かと思はれる。

（その他二三の英文典の復刻が行はれたがそれは皆一八五〇年ロンドン版の復刻である）

見返しに萬延辛酉歳刻　英語箋、自琢齋藏版とあり、本書は森島中良の蠻語箋の和蘭語を英語に直したといつても好い。

巻ノ一に天文、地理、時令、人倫、身體等巻ノ二に言語、日用語法等を對譯せり（萬延版にも初版と再版とあり初版には『自琢齋印』と石橋政方の序がある）後明治五年石橋政方の門人島桂潭（一悳）之を改正增補して萬笈閣より再板し巻末に萬國地名箋を附せり。明治六年寶玉堂刊、卜部精二の改正增補英語箋二册なるものあれども内容を異にす併し卜部氏は前書石橋氏の英語箋依れるものと思はる卜部版には附錄通辯獨學一册あり。『安政四年刊、井上修理校、英語箋』なるものあれども未見であるから比較は他日に期する。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

コロキユアル、ジヤパニース（英和俗語典）二冊　ブラオン著　文久二年（西一八六三）望洋書屋梓

タイトルページに Colloquial japanece, or Conversational in English and japanese By Rev S. R. Brown A. M. 1863 とあり表紙には木版淡褐色にて富士の圖を現しその下に Colloquial japanese　望洋書屋梓とあり卷末に橋爪松園藏版の印あり本書はブラオン著一八六三年上海版の英和對譯の會話の部分のみを復刻せしものなり。

著者ブラオンは横濱英語學校の教授で本書は幕府が文久二年横濱運上所前に英語學校を開設せる翌文久三年の刊にして上海版と東京版とは刊行年號を同じくせるも東京版は上海版より後の刊行と思はる。内容は英會話をアルフアベチカルに分類しその下に譯語を附せり、試みに A の部を見るに Are you sure of it ? オマヱタシカニシツテイルカといふ風に俗語體に譯せり。

當時英和對譯の會話書の完全なるもの少く殊に本書の如き千數百篇の會話を俗語に對譯せるものなし。内外人共本書に依りて和、英、兩語を學ぶ指針とせるもの多く英語學發達上貢獻する所甚だ多かりしといふ。

ジヨン、ブラツク、本書上海版を評して『日本語を學ぶは非常に差異の甚しきこと、貴賤上下の階級によりてその用語の同じからざるこ

英和對譯袖珍辭書　一册　堀達之助著　文久二年（西一八六二）開成所　刊　東京　林若吉氏藏

本書は文久二年（西一八六二）開成所の藏板にして堀達之助が Picard の英蘭ポケット、ディクショナリーを種本にして編纂したるものにて鉛製活字を以て鳥の子紙に而も鮮明に印刷せり、英字は勿論漢字共新鑄の活字を用ひしならむ、本書は實に我國に於ける英和對譯辭書刊行の嚆矢にして當時の英學生及外人等は本書を無上の寶典となせりといふ後慶應二年增補して木版に附して再板せり。

堀辰之助は宇和島藩士にして安政六年西洋書籍檢閲令下ると同時に箱館出役に命ぜられ後開成所教授となる。文久二年にFamiliar method といふ表題の英文典が開成所から復刻されたこの本の序文も氏が書いたのである。

和英商話　一册　四十七葉　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は文久二年（一八六二）米人ウエンリートの著にして日常使用する會話を集錄し著者自ら片假名を以て讀方と譯語とを附しその序文にも曰く『コノ文章ハ我コヽロヲクダキシタメナレバ日本の諸君子、コレヲマナビ、ツウジタマハヾ予がヨロコブコトコレニスギズ』とその譯語に於ても所謂外人の片言多くその意味の通じ難き所あれども當時英語獨習書の手に入る事困難なる時に於て本書の著述は實に英語を習ふ者の必携として珍重されしなるべし。發行所は横濱日新堂師岡屋伊兵衛

ウエンリート は嘗て布哇領事と唱へ横濱三十一番館に居留し邦人の海外移民をくわだて布哇又はグアム島へ日本人三百餘名を送りし事あり。後幕府これを差止め使節を布哇政府に送りて移民勞働者を歸國せしめしといふ、慶應四年岸田吟香と共に横濱新報もしほ草なる新聞紙を發行し世に稗益する所多し。（横濱開港五十年史）

英語箋　二册　六十七葉　石橋政方著　中山武和正校　文久元年（西一八六一）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

商貼外和通韻便寶　一冊　寶善堂主人著　安政七年(西一八六〇)丸屋德造　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

商用通語　一冊　超海堂藏版　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は安政七年(一八六〇)小島雄齋の著にして和文二百餘語に英語と和蘭語とを片假名にて讀方を附せるもの但し英語の發音が蘭語化せるを見る。

增訂華英通語　一冊　萬延元年(西一八六〇)快堂藏版　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は淸人子卿なるものが飜譯せるを福原範子南淸地方を航海中右書を得此れを日本に於て飜刻再板に附せるもの。原書は咸豐五年(一八五五)刊

眞光版華英通語　一冊　大阪　外國語學校藏

ファミリアル、メソード　一冊　文久元年(西一八六一)開成所　刊　大阪　荒木和一氏藏

本書は Marin の Gemeenzame Leerwize Famitiar method for those who begin to learn the Euglish Language といふ表題で開成所にて復刻せられたるものにして卷首に堀辰之助氏の英文の序がある。

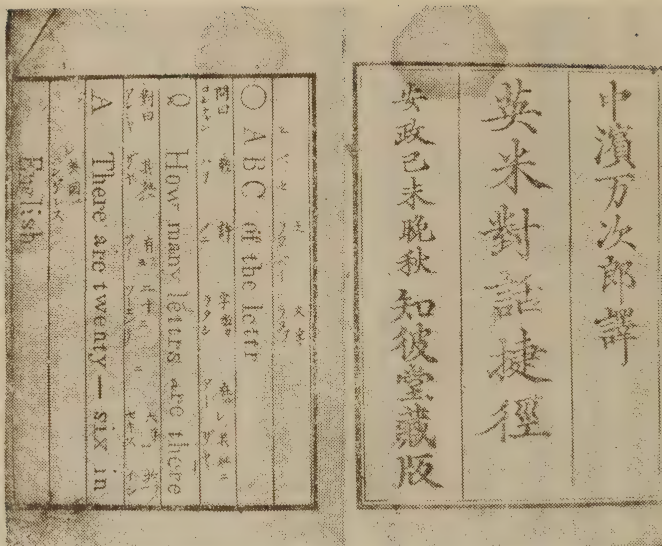
大阪　岡田伊三次郎氏藏

英米對話捷經

一册　三十四葉　中濱萬次郎譯　安政六年（己未）（西一八五九）知彼堂藏板

本書はアメリカ漂流民中濱萬次郎の著で當時は蘭學の全盛期にて和蘭語學書世に多く行はれその影響を受けしものか英語の發音が蘭語化せる書多く本書の如きアメリカより歸朝せる當時新進の英學者たる萬次郎の會話書にもＡＢＣをエベセと振假名を附せるをみる、木版刷、序文及奧書なし。

中濱萬次郎は土佐幡多郡以南中濱村の人、天保十二年一月十三歳の時宇佐村の漁師傳藏と共に鱸釣に出掛けしが計らずも暴風に遭遇し吹流されて海上を漂流する事七日、やうやくある無人島に五ケ月の日を送りしにその年の六月アメリカの捕鯨船に救はれ南洋各地を巡航する事二年餘のち船長『ホワイトビルド』の宅に住居し小學校の教育を受け時には水夫となり又鑛夫となり外國にある事十二年嘉永五年六月便を得て土佐に歸り翌年幕府に召さる。後萬延元年外國奉行新見豐前守一行と共に米國に通辯として渡航す歸國の後幕命により航海、測量、數學の諸書を飜譯し公務の餘暇有志を集めて英語の教授をせり（土佐偉人傳參照）箕作麟祥、大島圭介等その門人たり。明治三十一年一月十二日歿す。



和英商賣對話集

初篇　一册　安政六年（西一八五九）長崎　鹽田幸八　刊　大阪　荒木和一氏藏

木活字にて印刷せる會話書なり。

思ふ、本書の出品者勝俣氏はこの英文典の原本は漂流民中濱萬次郎がアメリカから英文典を土産に一冊持つて歸つて蘭學者間に傳寫されたものが印行の運びになつたものではなからうかと云つて居られる。

手塚律藏は長州毛利公の藩士で福澤翁と同じく大阪の緒方洪庵の門下生である文久の末年下總の佐倉藩（堀田侯）に仕へ維新後は瀬脇壽人と改名し浦鹽斯徳の貿易事務官をしてゐた事がある、ペルリの日本遠征記も明治前に一部この人の手に譯されてゐる（勝俣氏英學事始參照）

手塚謙　字律藏、榴園養子の別名あり。海防火攻新覽（寫）七冊の著がある。

英吉利文典　一冊　大野藩藏版　安政四年（西一八五七）刊　東京　林若吉氏藏

本書は大野藩蘭學舘にて復刻せられしものにて原本は長崎版(しかし長崎版は一八五四年版)と同じくファン、デル、パイルの蘭文英文典である。タイトルページに English Reading and Tlanslating Book. for Beginners understand, of all others, important Expressionsins, in English, on Easy matters to learn speaking The First part' the seventh Enlrged Edition. by R. van der pijl Institutor at Dordrecht. Blusse and van Braam 1842 と英文で譯してある（長崎版は蘭文）見返しに英吉利文典　安政丁己夏發行大野文庫藏版とある、厚い日本紙に木版で印刷せられてゐる。内容は早く云へばオツトーのコンヴアセイショングランマーと同様式にて英文の發音を蘭文で註釋を加へた蘭英對譯の練習短文用集で卷尾に不規則動詞表を添へてある。

大野藩學校は天保十四年大野藩の英主利忠、學校創設の令を發し假りに公廨會所を以て授業所とし諭達する所あり翌弘化元年四月學舘新に成り利忠、親ら『明倫』の二字を扁して明倫舘と稱せり、其頃西洋砲術の研究を創め安政二年に『海上砲術全書十六卷』を上木せり同年十二月緒方洪庵の門下伊藤愼藏を招聘して教授主任たらしめ藩士西川、山崎をして之を助けしめ、翌年五月別に蘭學舘を元公廨に開設したりしに、東西各地より蝟集來學するの盛況を來し大野の山中全國の注意を惹けりといふ（大野郡誌參照）

（寫眞　三枚）東京　東洋文庫出品

蘭文英文典初歩

一冊　安政四年（西一八五七）長崎　刊

本書は長崎に於て復刻刊行せられしものにて原本は蘭人ファン、デル、パイルの著を英語をオーカー蘭語をウエランド及ジーゲンベークの兩氏に依れるをスフイルド氏が增訂せるものにて原著は一八五四年和蘭ドルトレヒトのブルツセ及ファンブラアム書店にて發行せしものである。本書が長崎に於て復刻せられし同年加賀大野藩に於て同じファンデルパイルの英文典が復刻されてゐる併し長崎版は、一八五四年版でタイトルページが和蘭文であるが大野文庫版は一八四二年版でタイトルページが英文であるのが相違してゐる。

本書は長崎の鉛活字を以て厚い日本紙に印刷してあるその上洋裝であるのが特に面白いと思ふ。一九二ページ、オクタボ版

東京　勝脵銓吉郎氏藏

英吉利文典

上卷　一冊　安政四年（西一八五七）美作　宇田川氏藏版（川本幸民舊藏本）

本書は宇田川塾から出版されたもので木版筆記體の美濃本五十七葉で上卷だけしか刊行されなかつたもので原本は一八五三年アムステルダム版の Virgaui の英文典である。安政四年（一八五七）といふ年は英文典が初めて復刻された年でしかも長崎版も大野版も美作版も同じ安政四年の刊行であるといふ事と三書共蘭文の英文典であるといふ事は本邦英語學史の上に見のがせない事柄であらうと思ふ。

東京　勝脵銓吉郎氏藏

伊吉利文典

一冊　手塚律藏　西周助閲　津田三五郎　牧助左衛門　校正　又新堂　刊

蘭文の英文典は長崎、美作、大野等で復刻されてゐるが英文の英文典の復刻は本書が最初である原本は一八五〇（嘉永三）ロンドンで出版されたもので和刻本の扉には The Elementary catehisms, English Grammar とあり見返しには伊吉利文典、全　千八百五十年版（手塚律藏　西周助閲　津田三五郎、牧助左衛門校正　又新堂とある。美濃本木版筆記體で發行の年號は明記されてないが安政年間の刊行であらうと

VAN DER PIJL'S

GEMEENZAME

LEERWIJS

VOOR DEGENEN, DIE DE ENGELSCHE TAAL BEGINNEN TE LEEREN.

HET ENGELSCH NAAR DEN BEROEMDEN WALKER, EN HET NEDERDUITSCH NAAR DE HEEREN WEILAND EN SIEGENBEEK.

NEGENDE EN VEEL VERBETERDE UITGAVE.

DOOR

H. L. SCHULD, IWzn.

Privaat-Onderwijzer te Dordrecht.

TE DORDRECHT, BIJ
BLUSSE EN VAN BRAAM,
1854.

NAGEDRUKT
TE NAGASAKI
IN HET 4de JAAR VAN ANSEI (1857).

蘭文英文典初歩 安政四年 長崎刊 標紙

なつた當時刊行された、英語學書に各藩學校の藏版の多いのをみても當時どれ程英學が盛んであつたといふ事を偲ぶ事が出來ると思ふ。今日皆樣の御援助によりこれ等の得難き稀書を展觀し得た事は私の望外の喜びである。

京都　帝國大學附屬圖書館藏

諳厄利亞語林大成　十五册　寫

本書は文化年間ヤン、コック、ブロムホフ（Jan Cock Blomhoff）が指導者となつて本木正榮、楢林高美、吉雄權之助等が編纂した英和對譯字書である本書は本邦に於ける英學研究書の嚆矢となす。大槻文庫所藏本を京都大學に於て新に謄寫されたもの。本書の外に水戸彰考館に諳厄利亞辭書十五册が所藏されてゐるそうである。これは多分本書語林大成と同じものであろうと新村先生も云つて居られる。それからもう一つ長崎圖書館に嘉永四年の序のあるヱゲレス語辭書和解六册がある、これも機會を得て調べて見たいと思つてゐる。その他刊本では井上修理校正、英語箋（安政四年刊）『渡邊修二郎氏所藏』があるが、これも未見である。

大阪　荒木和一氏藏

和英對譯商用便覽　初篇　一册　長崎　大島藏版　安政六年（西一八五九）刊

タイトルページに

A new Familiar Phrases of the English and japanese Languages General use for the marchant of the Both cauntri s first Parts Nagasuky Sixth year of Ansay Decemfer 1859 とあり。和裝横とぢ本にて木活字にて印刷せり。安政六年，和英商賈對話集　初編　長崎鹽田幸八刊と同種の本なり、本書は後明治二年に表紙見返しの題箋のみを變へて再版せり。

譯字書）（文化十三年）も蘭通詞ヤンコック、ブロムホッフ（Jan Cock Blomhoff）が指導者であつた。又日本で初めて出來た英文典の復刻（長崎版、美作版、大野版）も蘭文で原本は和蘭の出版である又澁川六藏が天保十一年江戸に於て完成した英文法書『英文鑑』（東京帝國大學所藏）の原本は Lindley Murrey の Grammar of the English Language の蘭譯であつた。〔英文鑑の著者澁川六藏敬直の父は景佑で景佑は天文方であつた高橋作左衞門二世即ち至時長子景保は六藏の伯父に當るのである。〕

この Murray の文典前編の飜譯が完成したのは天保十一年でこれが江戸に於ける英語に關する最初の著作であるそしてこの文典の著作を補佐したのは加賀藩の藤井方亭（宇田川榛齋の門下）の次子で藤井質（三郎）といふ人である、この人は天文數理の學に長じ夙に英學を志し英文典の著作に從事してゐたが弘化四年の日附ある稿本（英文範）を未完成のまゝ遺して嘉永元年に長逝した、英語研究の先鞭を著けたのは何んと云つても澁川である（勝俣氏英學事始參照）がこの文典はおしい事には上木されなかつた。であるから文化五六年頃から開けかけた英語研究の端緒が前記の本木の英單語集と英和對譯辭書となり江戸に於ては澁川の英文鑑となり加賀藤井の英文範となつたが未完成であつたりある事情で刊行されなかつたりして英學書の刊行を見なかつたのである。それが安政四年（一八五七）になつて始めて蘭文英文典が長崎で刊行され又同じ年に加賀大野藩と美作の宇田川塾から蘭文の英文典が復刻されたのである。私はこの三書が我國で刊行された英語の本としては一番最初でなかろうか思ふそしてその內でも長崎版を非常に興味深くみるのである。其他二年後ち安政六年に大鳥版の商用便覽といふ本が出てゐる、これは和裝橫本で木活字を以て印刷しあり蘭文の英文典の方は洋裝で和紙に鉛製活字を以て印刷しある。木で造つたのと鉛で造つたのと相違してゐるがどちらも我國に於ける洋式活字印刷の發源地である長崎に於て一つは日本式の木活字を用ひ一つは西洋傳來の鉛活字を以て印刷し、しかもその本が我國に於ける最初の英學書であるといふのだから面白い。こうした英學書の刊行が引いては英語の流行となり各藩に於てもその必要を感じて長崎橫濱あたりに居る宣敎師を招聘して英語を敎ひさせるように

京都　新村　出氏藏

阿蘭陀藥草編　一册　寫

本書も前書と同じく寛永頃の著ならむ。醫藥名のみの對譯せり。

東京　男爵　大鳥富士太郎氏藏

和蘭對譯辭書　和紙洋裝　一册　寫　佐久間象山先生舊藏本

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭對譯辭書　一册　寫

大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭文藥名辭書　一册　寫

大阪　荒木和一氏藏

和蘭語鈔　一册　寫

（二）英語

英語が和蘭人に依つて弘められたと云はば語弊があるかも知れないが日本人が初めて英語を蘭人から敎わつたのは事實であろう。殊に英語研究の端を開いた長崎の通詞木木正榮、吉雄權之助等の暗厄利亞與學小筌（英文單語集）（文化八年）も暗厄利亞語林大成十五卷（英和對

洋學須知　三册（半紙本）（下卷四十七葉）　大阪　高尾彥四郎氏藏

安政六年（西一八五九）箕田耕夫、公莊德鄕同輯　赤澤寬撰　靑靑堂藏板

洋學須知　零册　壹册　附錄　熟語集一册（下卷Oよりwまで四十三葉）　大阪　岡田伊三次郎氏藏

伊東朴齋譯　慶應二年（西一八六六）靜観堂藏板　安政版は半紙本慶應版は美濃本なれ共同一の版木を使用せり

和蘭文字早讀傳受　折　一册　慶應二年（西一八六六）大阪秋田屋　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

文化版と同一の版木を以て再刻せるもの、環翰圖の跋あり序文に『おらんだの文字は左より右へ横によむ故にをくより口の方へよこによみ習ふべし（中略）本朝の七ついろはの例に准じ同じかなの阿蘭陀文字をよせしものなり』と又乬別池（アベセ）とは和蘭文字の母なりと云へり。

ガラタマ先生口授

英蘭會話譯語　一册　明治元年（西一八六八）　刊　渡邊無盡藏主人　藏版　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書はファン、デル、パイルの蘭文英文典を譯せるものなり英文典の譯語なれども蘭文を譯せるものなるを以て特に玆に載す。

亞彼西字樣　一册　柳川春三編　中外堂　刊　大阪　荒木和一氏藏

蘭學事始　二册　明治二年（西一八六九）杉田鶺廉編　京都　龜田次郎氏藏

本書は本邦に於ける蘭學研究の起原沿革を記したるものにして、斯學の祖杉田玄白の遺稿を四世の孫杉田鶺廉によつて刊行せられしもの（文明源流）

南蠻和語抄　二册　寫　京都　新村　出氏藏

本書は寬永以前の著と思はる。葡、羅、蘭、對日の辭書にして傳寫されしもの。蠻語は假名を以て記せり。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

蕃語象胥　二册　四百五十四葉　安政四年（西一八五七）弘前　佐々木元俊藏板

本書はクランメル氏の和蘭字典を復刻せるもの

大阪　岡田伊三次郎氏藏

改定増補譯鍵　薄葉本　二册　安政四年（西一八五七）大野藩　廣田憲寛　藏版

本書は文化版藤林の譯鍵に改定を加へて刊行せるものにて、その序に曰く、夫舊本譯鍵は寛政八年始めて活板とし榛齋槐園等の諸先生特に勞勤して社友に配與するの後文化七年藤林淳道子桃塢小森子等と謀り舊本八萬餘辭を删補し三萬許に要約して植刻し以て篤好の學士に頒つ爰に於て世上蘭學の志者爭つて之を求め日々盛んにして月々に相進み既に當今に至る故に刻字漸々に衰滅して學者年々に增大す而して文化年間は醫學の徒多くして俗間の學者稀なり。今の世に當つては天下大に開けて人每に之を學び猶漢學を學ぶが如し於爰天下の人只學書の少きを悲しむ雖然高價の書は貧生の徒價ふに難くして學者の憂をなす只安直にして便利の書を欲す。（中略）憲寛淺學にして校正の任に當らずといへども一日之を他に讓れば一日初學の便利を缺き一月之を他に讓れば一月初學の助け少し』と（下略）、當時の蘭學全盛を偲んであまりあり。

和蘭熟語集　初編　一册　安政四年（西一八五七）刊　京都　杉浦丘園氏藏

臼杵某著海西漁夫編とあり鶴峯戊申の著ならむ。　大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭文典字類　二册　高橋重威（雄飛軒主人）著　安政五年（西一八五八）志筑、鎌田氏藏版

單語をアルファベチカルに分類して文法的に解譯せり、中村正直の跋あり

挿譯俄蘭磨智科　一册　小原亨之輔譯　小原竹堂藏版　平戸　伴田甫庵舊藏本　東京　永森直次郎氏藏

和蘭文典譯語筌　二册　遠田昌庵譯　安政三年和泉屋善兵衛　刊（百部限削板）　大阪　荒木和一氏藏

訓點和蘭文典　一册　安政四年（西一八五七）總攝館藏板　大阪　荒木和一氏藏

和蘭文典讀法　一册　竹内宗覽（凌雲）譯　安政三年（一八五六）　刊　大阪　外國語學校藏

大阪　外國語學校藏

蘭學獨案内　一册　可野亮（松濤）著　下學堂藏板　大阪　外國語學校藏

和蘭辭典　一册　可野亮（松濤）著　安政三年（西一八五六）　刊　下學堂藏板　大阪　荒木和一氏藏

洋學指針　（蘭學部）一册　柳川春三著　安政四年（西一八五七）大和屋喜兵衛　刊

その凡例に曰く『アベセ文字の監本より綴字の法、他國の字音、和蘭に異なるもを掲げ初學者の指針となす』と

柳川春三、　名春蔭　字楊大昉　臥孟、揚江、尾張の人　始め西村辰助と云ひしも後良三と稱し安政の始め柳川春三と改む。

譯述する所の洋書一百卷に及べりといふ、著述書多し。

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭語學原始　一册　二十四葉　刊

見返しに紀元千八百四十四年刊穌蘭語學原始、窩窩所德實學校利用とあり卷尾に皇　安政丙辰（西一八五六）季秋飜刻『越前國校藏版』の印あり。タイトルページに草體の蘭字にて　Eerst beginselin der Nederduitsch Spraakkunst by ohpant en comp, 1844　とあり案ずるに越前藩學校に於て和蘭語の教科書として蘭書を復刻せしものならむ。

東京　勝朕銓吉郎氏藏

蘭語冠履辭考　一册　馬場穀里著　安政二年（西一八五五）序　東都　翠雲軒　藏版

馬場佐十郎　名貞由　號穀里、和蘭通詞　文化の始め江戸に召され天文臺譯官となる、露語學の開祖

野作雜記、俄羅斯語小成（寫十一卷）　蘭語九品集、究理摘要、泰西度量考、泰西全譯說等の著あり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

和蘭沕乙蘭士文範　初篇　一册　五十七葉　安政丙辰三年（西一八五六）木村海藏　刊

全文木版草體の蘭字を以て印刷せり和蘭文法書の復刻なり

大阪　岡田伊三次郎氏藏

蘭文軌範　原名サマラング　一册　四十葉　安政三年（西一八五六）山路楊園　刊

本書は西一八四四刊の和蘭文法書　Erste Beginselen der Nederduitsch Spraakkunst　をそのまゝ飜刻せるもの、前記和蘭語學原始と原本を同じくせり。當時學塾等にて蘭學講習の爲使用の目的を以て本書の飜刻をみしものならむか。

大阪 岡田伊三次郎氏藏

譯和蘭文語 前篇二册、後篇三册 五册 安政二年（西一八五五）大庭雪齋(忞)譯 片多哲藏校定、江戸片多哲藏々版

本書は一八二二年版の和蘭文典を譯解せるもの（即ち箕作版、熊坂版の和蘭文典の譯なり）

大庭雪齋 名、忞西肥佐賀藩の侍醫又蘭學を教授せり

大阪 岡田伊三次郎氏藏

和蘭辭彙 合本五册 安政五年（西一八五八）桂川甫周編 山城屋佐兵衛 刊

本書は享和三年（西一八〇三）長崎出島和蘭館長として渡來したヘンドリック、ドーフ（Hendrik Doeff）が幕命により當時の蘭通詞中山作三郎及吉雄權之助等と共にフランソワ、ハルマの蘭佛字典を譯して編纂せる道譯法兒馬、俗に長崎ハルマと稱す（寫八册）を訂正し又ウエイランドの字書等を參考にして增補刊行せるものにて、この道譯法兒馬は幕府に藏して刊行せられず依つて桂川甫周は蘭學者の爲めに屢々請ひて遂に出版を許されしものなり 洋學年表）甫周の門人金田八郎兵衛、柳川春三、石井久吉、湊三郎等本書の校正に助せりといふ

ハルマの系圖

フランソワ・ハルマ 蘭佛對譯字書
- 江戸譯 東西韻會即ち波留麻和解（江戸ハルマ）寛政八年刊—譯鍵（藤林普山）文化七年刊—改正增補譯鍵（廣田憲寛著）安政二年刊
- 長崎譯 道譯法留馬即ち長崎ハルマ（文化十三年）寫本—和蘭字彙 桂川月池編 安政二年 刊

桂川月池 名 國瑞 字公鑑 稱甫周 東武侍、御醫官、叔法眼、江戸人

翻譯地球全圖 一册 海上備要、和蘭藥選等の著あり

和蘭文典　後編　一册　九十三頁　箕作阮甫藏版　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

表裝印刷等は前編と同じく本書は嘉永元年（西一八四八）の刊である

和蘭文典　一册　百二十頁　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

Grammatica of nederdeutsch Spraakkunst

本書も前記箕作版と同じく 1822 Leyden 版の和蘭文典を復刻せるものにて發行年號等は明記しないが開成所か又は萬屋兵四郎が復刻したのではなかろうかと思ふ。

改正增補蠻語箋　二册　百三十九葉　嘉永元年 西一八四八）（箕作）謙塾　刊

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は箕作阮甫が森良中良の著した蠻語箋の譯語が往々當を失つて居るからと云ふので補正して出版したもので森島本には原語を片假名で認めてあるが本書は和蘭語を用ひてある。

改正蠻語箋　一册　四十九葉

大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は嘉永三年（西一八五〇）森田伍一郎の著にして先に發行せる蠻語箋より日常使用するものを抄錄せるものにして見返しに和蘭陀辭改正蠻語箋、江戶木壽堂藏梓とあり。

（和蘭文字を用ひず、天文、地理、人倫、地名等に分類して對譯せり）

Leyden 版の Grammatica of Nederduitsche Spaakunst の第二版で本書が復刻された翌々年の天保十三年に箕作阮甫が同一の原本を同一の書名で刊行してゐるが箕作版にはこの熊坂版と同一の版木で刷つた部分がある或は箕作の塾で和蘭文典を上梓する時製版半ばにして熊坂版のあるのを知りその版木のある部内を譲受けたものでなかろうかと先生は云つて居られる。箕作版が日本最初の蘭文典の復刻だと稱せられてゐたが箕作版より二年前に熊坂健に依つて蘭文典が復刻された事が本書に依つて明かになつた。その他に同じライデン版の和蘭文典の復刻版が二三あるが年月日復刻者等一切明記していないから不明であるが恐らく嘉永以後の出版であらう。

熊坂健 は奥洲保原町熊坂傳右衛門の子で生家は酒造家であるが醫學に志し修業の爲めに江戸に出て一角の蘭學者になつた本書の外に輕騎加剌別印姿掣といふ馬術の本を安政三年に出版してゐる。

和蘭文典　前編　一冊　百二十四頁　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

Grammatica of Nederdeutische Spraakkunst Uitgegevera door de Maadtschappy' Tot nut von it algemeen Tweede druk

日本紙二折表裏刷　天保十三年（西一八四二）出版で見返しに『天保十三年壬寅九月稟刊行』『作州箕作氏藏板』とある。

和蘭語學に關する著述には前に述べたるが如く青木文藏の和蘭文學略考、大槻の蘭學階梯、中良の蠻語箋、三伯の波留麻和解、藤林の譯鍵、及和蘭法語解，玄幹の西音發微と隨分多くの刊行をみたけれども然し蘭語の研究に至つてはまだ〳〵充分とは云へなかつた。が坪井信道が天保二年頃に初めて和蘭の原書を用ひて和蘭語の講習用に使つたそれが即ち一八二二年 Leyden 版の和蘭文典の二版である。ところが當時その原書を得る事はとても難事で一冊の本を一々傳寫するより外はなかつたので箕作阮甫は前記熊坂健と同じく和蘭文典の復刻をしたのである、始め（Gramatika）前編を出し嘉永元年に（Syntaxis）を出して居る。

本書の刊行に依つて益々蘭學が盛んになつのは事實で蘭學を學ぶものは必ず本書を買つたといふから隨分よく賣れたもので當時版を重ねて五千册も刷つたと云われてゐる。

音に配合したるもの。

大槻磐里 名 茂禎 字、子節 稱、玄幹 號、不錦書屋、玄澤の子

蘭學凡一冊寫 和蘭接續詞考寫一冊 西韻府刊一冊 蘭字醸音鑑一冊 自幹正的寫五冊 要術知要三冊（文政六刊）外科收功三冊文化十一刊

續海外異聞寫十二冊等の著あり

京都 龜田次郎氏藏

語學新書 一冊 鶴峯戊申著 天保四年序 尾張 東壁堂 刊

本書は日本文典の研究に於て西洋の文典を參酌し本邦の言語に品詞を立て動詞の格を定め全く西洋文典に模して組織せるものなるを以て特に玆に記載す（續語學新書一冊）あり

鶴峯戊申（しげのぶ） 字、世靈又季尼、通稱 彦一郎 號 海西漁夫 皐舍、中橋

豐後臼杵の人、博學にして算數、蘭學、究理に至るまで通ぜざるはなし、著書頗る多し

京都 杉浦丘園氏藏

西韻府 一冊 大槻磐里撰 桂川桂嶼蘭字 天保四年（西一八三三）須原屋伊八等 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

蘭學重寶記 折一冊 賀壽麻呂大人著 篤麻呂大人校 天保六年（西一八三五）觀自在樓藏板

東京 勝俣銓吉郎氏藏

和蘭文典 前編 一冊 熊坂健 復刻 天保十一年（西一八四〇）東都 披雲館藏板 刊

本書の解題は大正十二年英語青年の（四月、五月號）英學事始の中に勝俣氏が詳しく述べられてゐるがそれに依ると原本は一八二二年

合本一册　京都　舗田次郎氏藏

三　册　大阪　荒木和一氏藏

和蘭語法解

（醫門順知）　藤林普山著　文化九年（西一八一二）序　大阪　河内屋茂兵衛　刊

安永天明寛政に掛けて長崎蘭學の巨星中野柳園（初稱、志筑忠次郎）が蘭文の天文書研究の傍蘭文の語法を記入した和蘭詞品考を著した。これが本邦蘭文典の濫觴であるとせられてゐるが寫本である、又その後大槻玄幹が蘭學凡を著して蘭文法を說いたが矢張り刊行されなかつた、和蘭の文法を說いた刊本としは本書が嚆矢であろう。

大阪　青木平七氏藏

和蘭文字早讀傳授

一册　田宮仲宣著　文化十一年（西一八一四）浪華書房　刊

田宮仲宣　字、鳳鄕　通稱　悠藏、又由助と稱し、東牖、橘庵と號す、大阪の人有名なる愚雜俎二卷の著者にしてその他橘庵漫筆、一册隨一請抄等の著あり（大阪名家著述目錄）

西音發微

一册　大槻玄幹著　文政九年（西一八二六）　刊

附　西洋字原考

大阪　岡田伊三次郎氏藏

西音發微

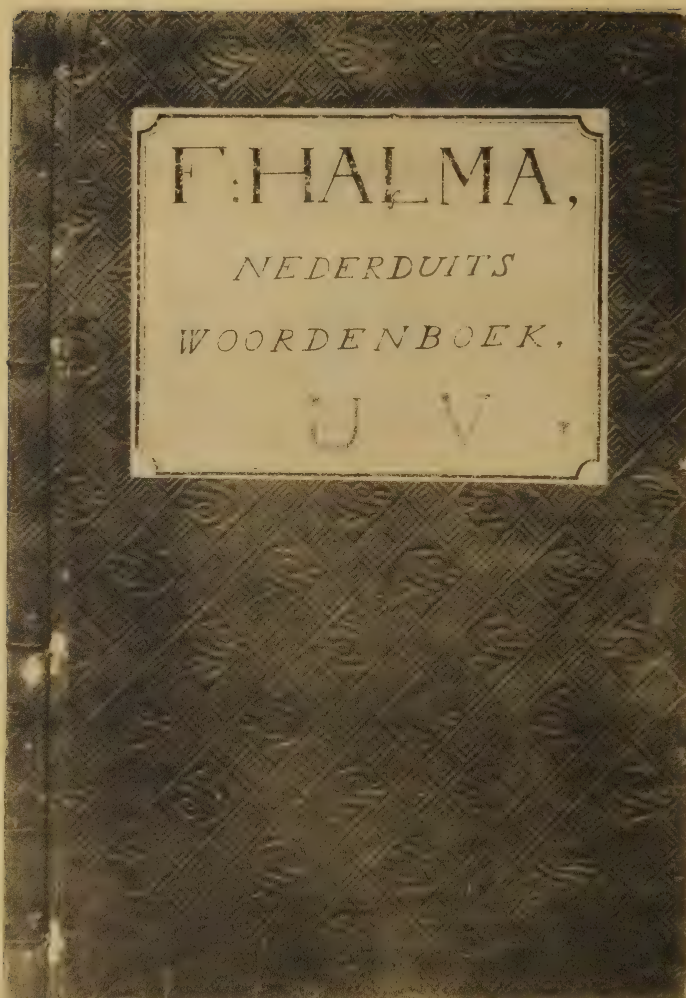
二册　大槻玄幹著　文政九年（西一八二六）　刊

附　西洋字原考

大阪　荒木和一氏藏

玄幹は文化十三年（西一八一六）詞品語格を譯述して蘭學凡（寫）を著し和蘭文法書の端を開き數年後又本書を著す。西洋の音韻を漢字

波留麻和解　稲村三伯著　寛政八年刊



東京　勝俣銓吉郎氏出品

十三年の九月二十日の集古會例會の際に勝膜氏は自分の本と大槻本とを比較研究をされたと云ふ事であるから他日先生よりその解題が發表される事と思ふ。

蘭語譯撰　洋裝　一册　奥平昌高著　文化七年、西一八一〇）刊　京都　帝國大學附屬圖書館藏

蘭語譯撰　五册　奥平昌高著　文化七年（西一八一〇の凡例あり　刊　京都　杉浦丘園氏藏

著者奥平昌高は豐前中津藩主にして本書は天文植物等の辭句を伊呂波分けにして蘭語を引出すに便せる蘭和對譯辭書である、本書を俗に中津辭書といふ。

譯鍵　二册　附錄一册　藤林普山著、文化七年（西一八一〇）刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は稻村三伯の著ハルマ和解を抄略し三萬餘言となし百部を限りて活版に附して刊行せるもにして、編者藤林普山は寛政の初めハルマ和解に依りて蘭語を獨習し三伯の門に入りて益々業を修め當時僅かに三十部に限つて頒布せるハルマ和解を切望するもの多くその謄寫の苦痛を察して本書の刊行を見るに至りしなり。附錄に三伯のハルマ和解編纂の如末と和蘭の各字體音韻表、數字等を記せり後此の附錄を蘭學逕と名づけて單行本に刊行せり。

藤林普山　名元紀、字淳道、又君諧、稱泰介　山城普賢寺の人、由つて普山と號す。

和蘭法語解　三册　和蘭藥性辨　五册　西醫今日方、西醫方選　五册等の著あり

蘭學逕　一册　十六葉　藤林普山著　一名譯鍵凡例並附錄　刊　大阪　岡田伊三次郎氏藏

本書は文化七年（西一八一〇）刊行の譯鍵の附錄として出せしものを後改題して單行本にせるものにて卷頭に本邦に於ける對譯字典の濫觴たるハルマ和解編纂の如末を記し又蘭語の獨習書を附せり。

桂川中良　號桂林、字廣臣、姓中原、稱森島甫齋、又甫粲、江戸人

紅毛雜話　五册　西洋奇譚　五册等の著あり

京都　横地石太郎氏藏

波留麻和解

JKの部　一册　稻村三伯著　寛政八年（西一七九六）刋

本書は我國に於ける最初の和蘭對譯辭書で稻村三伯（享和十三年故あつて海上隨鷗と改む）寛政八年（西一七九六）の著でこれを東西韻解とも云ひ又俗に江戸ハルマと稱す。三伯は鳥取藩の醫師であるが玄澤の蘭學階梯を見て蘭學を志し玄澤の門に入り後長崎に行き譯詞に就いて蘭學の蘊奥を窮めその學習の間和蘭對譯辭書の必要を感じフランソア、ハルマの蘭佛辭書より八萬餘言を拔き之を譯解せむとし當時の蘭學諸家に就きて譯語を得て僅に三十部を刋行して社友に配與したといふ事である。

當今完全に殘つてゐるものは佐倉中學校十三册本一部、大槻文庫に十三册本一部、水戸彰考館に二十七册本一部、それから勝俣銓吉郎氏が同じく二十七册本一部、完本としてはこの位いのもので私も一度見たいものだと思つてゐたがその機會を得なかつたが一ヶ月前勝俣氏の御所藏書を拜見する事が出來た、内容は譯鍵に似てゐる譯鍵は二十一行であるがハルマの方は十五行で蘭語は木活字で印刷し譯語は總て一々丁寧に筆記してある。勝俣氏のお話では林若吉氏の所藏せられてゐる名古屋の蘭學者野村立榮といふ人の記錄に江戸ハルマが刋行された時その内の二部は浪華の桝屋が一部十二兩で買つて歸つてその一部を橋本宗吉（大阪の蘭學者）に借し後の一部は廣島の蘭學者で京都の御池通りの住むでゐた中井厚澤が復刻したとあるそうでそしてその京都版なるものは十三册本らしいと先生は云われる。そうすると今日までハルマは江戸で出來て三十部より刋行されなかつたとされてゐたものがこの記錄に依るとその一二年後に京都でも版にしたものと思わねばならない。

殊に彰考館本と勝俣本とが二十七册で佐倉本と大槻本とが十三册といふ異本であるは點は見のがす事の出來ない理由である。たしか大正

學階梯』二卷を著し天明八年之を上梓した」本書は實に我國に於ける西洋語學書刊行の濫觴にして、青木昆陽、前野蘭化に依つて唱へられたる蘭學は創始後僅々二十年ならずして本書の如き完全なる語學書の刊行をみたのである。『蘭學階梯』世に出てゝよりその門に集るもの多くその階梯を得し、後進の者は更に著るしき進歩を示し、江戸に於ける蘭學は益々盛んになりしといふ。上卷に蘭學研究法及本邦に於ける興學の始末等、下卷には和蘭文字、數量、譯解、釋義、類語、成語等を論じてゐる、天明三年著者の凡例及び源昌綱、孔平信敏の序。桂川甫晋の跋あり。

大槻磐水、名茂質、字子煥、稱玄澤、號芝蘭堂、仙臺人、住江戸

重訂解體新書（寛政十年十三冊） 一角纂考一冊 焉錄二冊 六物新志二冊 磐水隨筆 寫 十冊 畹港漫錄 寫 十五冊 蘭說辨惑二冊環海異聞 寫 八冊 官能眞言（寛政八）一冊 痲疹啓廻 寫 五冊 蘭畹摘芳（寛政十）三冊等の著あり

東京 勝俣銓吉郎氏藏

增廣蘭學佩觿

一帖 寛政七年（西一七九五）刊

大槻玄澤の門人吉川良祐、先生に請ひて本書を印刻し門生をして謄寫の勞を省かしむ。

本書は文化七年（西一八一〇）に磐水の子茂禎が再刻せしものにして、橫文字八種の字體を揭げ子音母音を配合してアイエオ五十音の作成のみを示せり。寛政乙卯吉川良祐の序 芝蘭堂藏版

大阪 高安六郎氏藏

蠻語箋

一冊 七十一葉 桂川忠良著 寛政十年（西一七九八）刊

本書は始め類聚紅毛語譯と名づけしが後に蠻語箋と改めしものにして附錄に萬國地名箋八葉ありその題言に曰く『蠻語を學ぶ人の爲めにその當川なるもの數百言を採摭し類を分ちて輯錄し梓に鋟る事とはなりぬ』と

文化移入に關する 古書展覽會目錄

a 語學に關するもの

一 和蘭陀語

和蘭文字略考 一册 青木文藏（昆陽）著 （珍書同好會復刻本） 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

我國に於て一番最初に外國語學書を著した人は元文四年（西一七三九）に時の將軍吉宗公から蘭書を讀む事を許されその翌年和蘭貨幣考を著したといふ青木昆陽であろう。昆陽は毎年長崎から江戸へ來て將軍に拜謁する阿蘭陀のカピタンにその通詞を介して和蘭語を初歩から教つたが毎年一度しか江戸へ來ない和蘭人に就いて居つてはとても不可解な異國語を充分に得とくする事が出來ないので延享元年（西一七四四）幕府の許しを得て態々長崎に出掛けて和蘭通詞に就いて蘭語を學び江戸に歸つてから『和蘭文字略考』『和蘭語譯』『和蘭文譯』等の語學書を著わした。しかし此等の書物は皆幕府に獻上したもので上木されなかつた。大槻文彥先生は洋學と云ふものゝ總てが昆陽の『和蘭文學略考』から起つたものであると云つて居られる。

蘭學偕梯 一册 二册 大槻玄澤著 天明八年（西一七八八）松本平助 刊

大阪 岡田伊三次郎氏藏

玄澤は始め杉田玄白、前野蘭化に就いて蘭語を習び後長崎に遊學し譯詞本木の家に寄宿して益々蘭學を研究し、業成りて江戸に歸るや『蘭

文化移入に關する
古書展覽會目錄

目次

•日英關係圖書展觀志　新村出
文錄舊譯伊會保物語　新村出（藝文）第一年
和蘭文典の譯述起原　大槻文彦
諸藩藏版書目筆記　國書版行會本
文久元年創刊の外字新聞　小野秀雄
•出版界の異彩萬屋兵四郎　井上和雄
•みづほ屋卯三郎　井上和雄（新舊時代第一年四、五、六册）
•萬國公法上梓の年につきて　鈴木券太郎（新舊時代第一年、第六册）

英學事始　勝俣銓吉郎（英語青年 大正十二、四、五月）
•露國創刊日露辭典及其編纂者　龜田次郎著
薩藩刊書考　武藤長平
•横山由淸の魯敏遜漂行紀略　新村出（典籍の研究）
•ヒコの「海外新聞」に就いて　小野秀雄
（新舊時代第一年一號三號）
•萬國往來の著者四方春翠　井上和雄
（新舊時代第一年第二册・同第三册）

•林子平　一册　長田偶得著
•高野長英・渡邊華山　一册　長田偶得著
•學商福澤諭吉　一册　大學館刊
•大野郡誌　二册　大野郡教育會編
•長崎市郷土誌　一册　長崎市小學校職員會
•長崎郷土誌　一册　北野孝治編
•長崎の匂と彩り　一册　本山桂川著
•貿易史上の平戸　一册　村上直次郎著
•横濱沿革誌　一册　太田久好著
•横濱開港小史　一册　川本三郎著
•神戸開港三十年史　二册
•和蘭及外國關係圖書幷物品目錄　杉浦丘園編
•東洋文庫展觀書目　二册　東洋文庫編
大槻文庫書目　一册
•文部省准刻書目　十三册
文明源流表彰展覽會出品目錄　早稻田大學圖書館
•西洋飜譯目錄　一册　和泉屋吉兵衛輯

•仙臺藩人物叢誌　一册　宮城縣廳刊
•箕作麟祥傳　一册　大槻文彥著
•中村正直傳　一册
•近世名醫傳　三册　松尾耕三著
•幕府時代の長崎　二册　長崎市役所編
•長崎地名考　三册　香月薰平著
•新々長崎みやげ　一册　鈴木力著
長崎年表　一册
•横濱開港五十年史　二册　横濱商業會議所編
•横濱開港側面史　一册　横濱貿易新報社刊
•伊呂波分西洋人名字引　一册　吉田五十穗譯
•第四回史料展覽會出品目錄　一册　長崎圖書館編
•陸軍文庫和漢書目　一册
•英蘭堂譯述書發兌目錄　一册
•内務省版權書目　二册
•嘉永以前西洋輸入及參考品目錄　東京帝室博物館編
•大審院文庫圖書目錄　一册

•西洋の影響を受けた日本畫　一册　黑田源次著
•京坂文化史論　一册　史學會編
•江戸時代史論　日本歴史地理學會編
•朱印船貿易史　一册　川島文次郎著
•維新史研究史科索引　日本歴史地理學會編
•切支丹の殉教者　一册　小野實著
•外來語の研究　一册　前田太郎著
•德川初期の海外貿易家　一册　朝日新聞社編
•新學の先驅　一册　土屋元作著
•國民の日本史　早稻田大學出版部編
日歐交通起源史　一册　菅菊太郎著
日本數學史　一册　遠藤利貞著
ヅーフと日本　一册　齋藤阿具著
歐米人の日本觀　三册　文明協會
パジェス日本書史　二册
•箕作阮甫　吳秀三著
•土佐偉人傳　二册　寺石正路著

•慶長以來書賈集覽　一册　井上和雄著
•陸軍歴史　二册　陸軍省編
•西教史談　一册　山本秀煌著
•異國日記抄　一册　村上直次郎著
•譯書讀法　一册　矢野文雄著
•水戸文籍考　一册　清水正健編
•近世の日本　一册　内田銀藏著
•二千五百年史　一册　竹越三叉著
•日本大勢史　一册　大隅重信著
外交志稿　二册　外務省編
日本工業史　一册
•海外交通史論　一册　辻善之助著
•六無齋遺墨　一册　伊勢齋助編
•大日本人名辭典　五版
•高野長英傳　一册　長田偶得著
•德川三百年史　二册　裳華房刊
•磐水存響　二册　大槻茂雄編

參考書目

荒木幸太郎所藏（・印）

・日本西教史　二册　太政官翻譯
・日本醫學史　一册　富士川游著
・日本の科學界　一册　文明協會編
・日本に於ける公教會の復活　一册　浦川和三郎著
・日本基督教史　一册　山本秀煌著
・日本教育史　二册　文部省編
・大日本商業史　一册　菅沼貞風著
・日本對外小史　一册　高見健一著
・筆禍史　一册　宮武外骨著
・世界に於ける日本人　一册　渡邊修二郎著
・文明東漸史　一册　藤田茂吉著
・西方東漸史　一册　中川清次郎著
・南蠻更紗　一册　新村出著
・新井白石とヨワン・シローテ　一册　吉野作造著

・日本洋學年表　一册　大槻修二編
・日本博物年表　一册　白井光太郎著
・日本と和蘭　一册　日蘭協會編
・日本新聞發達史　一册　小野秀雄著
・日本海上史論　一册　歷史地理教會編
・內外教育史　一册　能勢榮著
・教育五十年史　一册　教育獎勵會編
・文明源流叢書　三册　國書刊行會刊
・大阪名家著述目錄　一冊　府立圖書館編
・南蠻記　一册　新村出著
・世界化學史　一册　中瀨古六郎著
・西方東侵史　一册　齋藤阿具著
・德川幕府時代書籍考　一册　牧野善兵衛著
・露國歸還の漂流民、幸太夫　一册　吉野作造著

濱村榮三郎氏（大阪）
大鳥富士太郎氏（東京）
岡島伊八氏（大阪）
加藤伊三郎氏（東京丸善）
吉野作造博士（東京）
田中房次郎氏（東京）
中目覺先生（大阪）
永林直次郎氏（東京）
上野精一氏（大阪）
荒木和一氏（大阪）
酒井一誠堂氏（東京）
三隅貞吉氏（大阪）
鹿田文一郎氏（大阪）

岡田伊三次郎氏（大阪）
太田信三氏（大阪）
加賀豐三郎氏（東京）
輕部漱芳氏（横濱）
横地石太郎氏（京都）
高安六郎氏（大阪）
南木芳太郎氏（大阪）
內田魯庵先生（東京）
增田正雄氏（東京）
有馬成章氏（吳市）
木村助次郎氏（大阪）
三好米吉氏（大阪）
杉岡丘園氏（京都）

大阪外國語學校
大井久五郎氏（東京）
勝俁銓吉郎氏（東京）
龜田次郎氏（京都）
横尾勇之助氏（東京）
高尾彥四郎氏（大阪）
中村正二郎氏（大阪）
上田貞二郎氏（大阪）
京都帝國大學附屬圖書館
櫻井勘助氏（神戶）
三宅吉之助氏（大阪）
新村出博士（京都）
杉本要氏（大阪）

大正乙丑九月　訪歐飛行機クルガンを出發するの日

箕面山麓百樂莊の寓居に於て

荒木幸太郎誌

緒言

一　本目錄は岡田伊三次郎氏所藏の對外關係の圖書（刊本）を主とし足らざるを東京、京都、大阪等の藏書家に請ひて補なひその名を『文化移入に關する古書展覽會』と名づけて本年九月を期して大阪每日新聞社の樓上に展列し諸賢に請ひ瀏覽の榮を得んとするに先だちて編するものなり

一　編者由來菲才淺學鑒識なく從つて本目錄編纂に當りて遺漏誤脫免れ難く順序分類應々當を失しことに解題の如きも急遽の間に成りしものにて遺憾の個所少なからず他日機をみて大いに增訂する所あらむとす。

一　編者はこの展覽會を機會に積年の宿望たる日本洋學書史（譯述書解題）の編纂を企だて居れり。しかれども業務の餘暇殊に一貧生の私的仕事にして資料の蒐集意の如くならず種々の點に於て充分なる硏究を成し得ずこれ微力のいたす所と慚愧に耐へず。切に識者の叱正示教を待つと共に藏書家の助言を渴望する次第なり。

一　終りに展覽會開催に際し特に御出品を快諾され又懇切なる指導、御援助を賜はりたる各位の芳名を列記し。謹でその高誼を深謝すると共に今後編者が參考となるべき點に付き叱正示教を賜はらむ事を切望する次第なり。

（いろは順）

石田幹之助氏（東洋文庫）　石割松太郎氏（大　阪）　今井貫一氏（大　阪）

生谷卯兵衛氏（大　阪）　林　若樹氏（東　京）　癡性外骨先生（東　京）

題簽　内田魯庵先生

標紙　長崎出島蘭館長ヅーフ・ティツィング・ロンベルグの筆蹟

大正十四年九月

文化移入に關する

古書展覽會目錄

於大阪毎日新聞社

文明移入
に関する
古書展覧會目録